

南勢村井昌弘先生述作

圖解

量地指南

前編

三冊

書鋪 野田彌兵衛鏤梓

量地指南序

夫生兩儀清濁既分覆
者為天偃者為地其間
相太無數大塊也往古
聖人仰俯觀察而垂其
象能使天下後世無一

量地指南序

物不得其所以振起
其英靈而人本乎天性
莫不因其已知之理而
益窮之以求至乎其極
者也友人訥言携南勢
源昌弘著述三弓以置

凡上余繙視則輿地規
矩術之圖說名曰量地
指南能使國字啟蒙
便同志之意至為精密
盍請序之雖余未嘗學
即凡天下之物而窮其

理格其物之階梯而有
 遐棄焉乎哉シムル占小義者モ
 率以錄名一藝者無不トズ
 庸况於勞者乎立靈聚
 螢刮垢磨光惟以此一
 盤面措坤軸於夷險一

平之安是与離婁督繩
 公輸削墨而不溷者相
 似也庶幾兵一善其工
 用二厚於故舊三欲成
 人之名之微遂落毫于
 其端如此

主簿... 再... 國... 終... の

享保十五年庚戌春三月上幹採筆於
東都南芝之神武館村井大輔昌弘



量地指南卷之一

南勢 處士 村井昌弘編述

量盤術始計

先量作法の事

先量とは、本術の務む以前に、空眼俗にこれ法をを量り、
本座より目的まで、其の遠程は、何れも量り、或は幾里幾町
或は幾十幾間と、其大際、或は豫め知る、或は云かくれ、
或は遠近、或は高低、或は浅深と、其目的の法程と先量と、
然るして、その本術を勤むに、いづれも、差異出来ぬ事
なり。此法は、不用して、謾に本術を為し、或は十町を
一町と心得違へ、或は十里を、一里と、或は誤れ、類ひたり。
是れ先量の便利、莫大なる事なり。初學者の人、知らざる、
或は、有は、
是れ先量の便利、莫大なる事なり。初學者の人、知らざる、
或は、有は、



蓋量地の術は此法に在る事。もとくは算数の學子。位を見ることより事あり。其術
 大成と云ふは。幾千幾萬を乗じ。幾億兆の増益する事を云ふ。其術
 幾百千に除き。幾千幾萬を乗じ。幾億兆の増益する事を云ふ。其術
 の作法を云ふ。幾千幾萬を乗じ。幾億兆の増益する事を云ふ。其術
 幾里町幾間尺と云ふ。幾千幾萬を乗じ。幾億兆の増益する事を云ふ。其術
 法は柱礎と云ふ。本術を勤ふ事。いふ。へ。これ要教や。ヤリ。
 開除の間數も是。本。定む。開除の間數は定む。作法。又火急
 なる。場取ゆく。本術と勤る暇なき故。此法の。を。ゆ。
 間町を量る事。ゆ。有事あれば。充は。び。く。ふ。と。なる。
 を。先量の作法。常々道路往來の歩行。と。遠近廣
 狭。試。山谷遊覽の眺望。を。高低淺深を察し。平生。心
 用ひ。不斷。眼。属。る。こと。自然。其事。熟達。する。もの
 なり。又此法は。視觀察。といふ。あり。先量。初中後の心
 ば。ひ。を。抑。此三字。經典。出て。言。や。と。い。は。い。と。も。

今此法は假用ゆることあり。視と云ふ。兔角の思慮。思慮
 不。即座の目量。を。知。る。云。免角の思慮。思慮
 の私意を用ひ。即座の目量。を。知。る。云。免角の思慮。思慮
 知。る。云。故。此法。容易の事。あり。と。云。無我。を。ゆ。故。
 品。より。事。より。観察の二法。も。超。る。観。と。此取の由来。云。
 便利あり。常々執行の心。と。充。切。な。観。と。此取の由来。云。
 探り。彼取の校量を。詳。し。て。知。る。云。此取の由来。云。
 を。云。彼取の校量。詳。し。て。知。る。云。此取の由来。云。
 量。云。故。此法。視法。より。其。こと。や。ぬ。と。知。る。と。察。と。い。
 ち。り。地。利。の。善。悪。を。考。へ。天。文。の。是。非。を。察。し。
 深。く。心。に。附。く。知。る。云。地。利。の。善。悪。を。考。へ。天。文。の。是。非。を。察。し。
 天文。と。い。暗。天。陰。雲。雨。後。雪。日。ホ。カ。リ。故。此。法。々。
 視。觀。の。二。法。に。超。る。甚。ど。心。ぬ。く。此。察。の。法。は。
 通。曉。と。い。遠。近。廣。狭。高。低。淺。深。本。術。を。不。後
 して。大。界。各。に。知。る。と。い。子。者。は。と。い。ふ。
 を。云。此。三。法。は。先。量。の。樞。要。な。り。能。く。不
 あ。と。い。は。い。每。術。其。的。中

空眼之の圖



かどからべし。若し本術にまじりて差異する事ありと
ども。此法は不秘バ。規矩となりて糾正とべきものなり。量地
の學志つらんもの。造次とて顛沛ゆとまじ此作法は
あつらひなりぬ。

精眼作法れ事

精眼とて。目的を定むるを開地を求むる也。又見込見通
再見見返ゆと。目的を定め。用地を求むる作法。見込見通。每事眼力
精をこめて。見違ゆる事なり。是又先量の一
方なり。或い廣原茂林。或い高山空道。或い海面河上。或い村
里田畑など。地より又期ふりて見誤る事あり。且清明
乃月陰雲の日。炎暑の日。嚴寒の日。又雨後雪日。春夏秋
など。時より日より見違ゆる事あり。其外日陰前ふ

精眼之圖



日陰後ふり風は向ひ。風は
背さ。或い真向斜向直上直
下とて心得多し。いけり
其や。い功用的に。人々
の眼力一定あり。故に。
一般の教諭は。施し。か
ひ。平生。空眼と試
し。習ひ。其己が得たる取柄ゆ。目馴る事肝要なるべし。
惣としてかくの作法。筆端に迹をこす事
を量るゆと。高低淺深を知るゆと第一とて。作法なり。此

目的の定る作法の事

目的とて。本座より今求むる取の目印を云下。記。是遠近廣狹
を量るゆと。高低淺深を知るゆと第一とて。作法なり。此

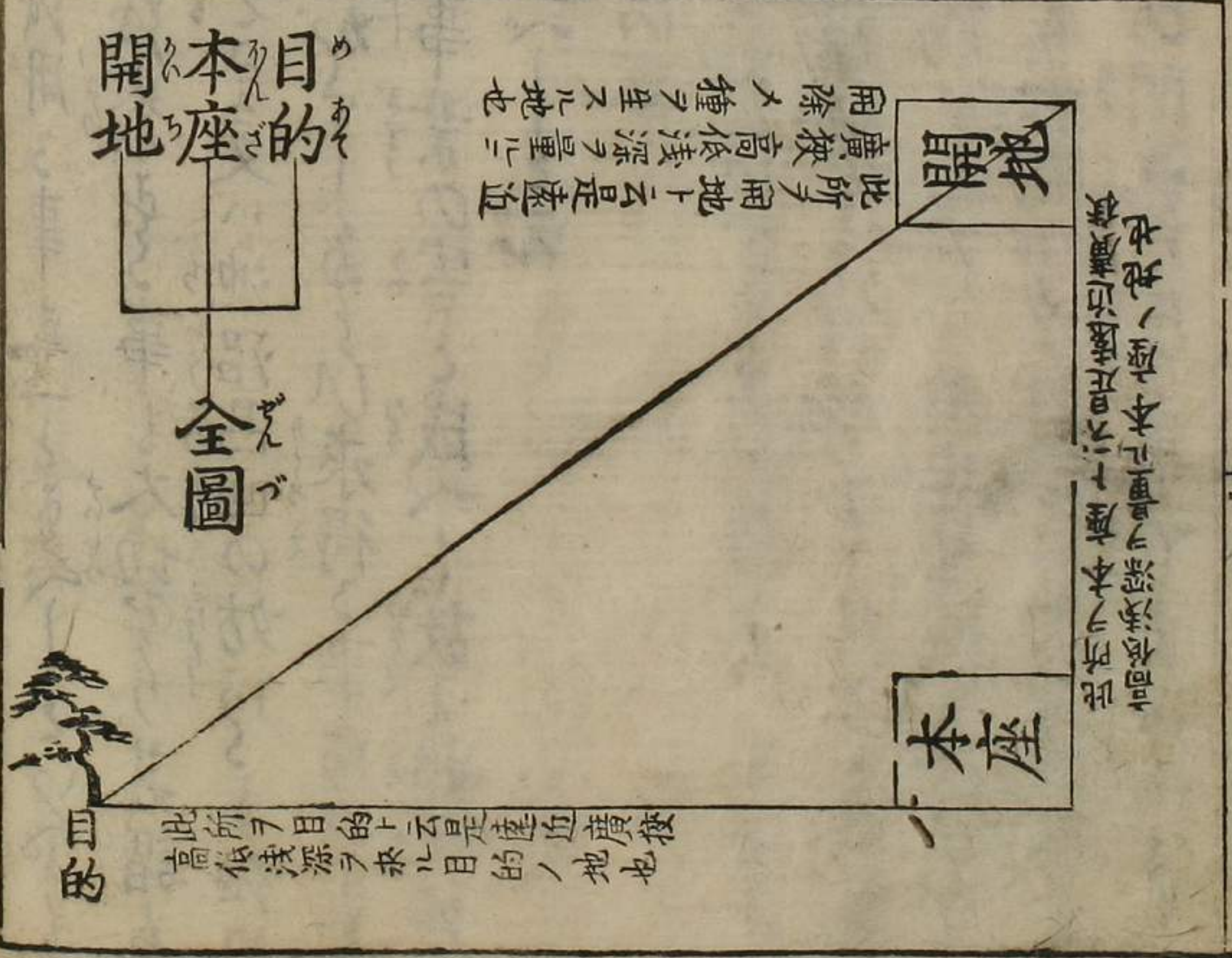
目的を定る事。樹竹巖石堂社丘埜何にかざらん。彼所の
 正面は在るはゆるく目ざらん。物ハ吉と勿論本座本座の事
下は委開地
 開地の事。見込の法見込の法
下は委のゆるく。見返見返の法
下は委を為さる障りなく彼目的
 見返一安うらん事をと遠慮さる。開地と目的を
 見返と事疑一其時。かろ。其術は差異出来り。のなり。
 或い。廣原平野田畑海濱のごとに曠遠の場取。其近
 邊小目。物なく。目的ゆる。か。定めが。こ。に
 空の目的空の目的といふ事
を用ゆる一
 本座ヲ選ぶ作法の事
 本座と其所の目的を耽視て遠近廣狭深浅を
 知らんと欲する場取云。本座の図
下は画を扱此本座を選ぶ事。

目的の見えやと取用する事。專一とさる。と。い。も。
 其所の開除の善悪を察する事も大切なり。其謂々
 開地の方。除畠甚。少。又。池沼凸凹の妨。ら。に。
 心の終。開地を求る事成が。い。求。得。る。事。ら。も。
 其法順路。事。業。の。害。と。成。べ。故。此。境。に
 能く躰認しての。選。ぶ。べ。と。云。

開地を求る作法の事

開地とい本座の左右あも前後あも其地のゆるく。こ。小
 間敷。開除。其。所。も。ゆ。目。的。に
 耽視る。場取。開地の図。これ遠近廣狭高低深淺等
 量知るへ。本元の種子なり。扱此開地を求る事。彼先量
 町間の三十分一の間敷用する事。古。の。法。

ふと本座より目的と先量
 ゆく三町とより六町(用く
 たり。又一町半とより三町
 除くべし。是三十分の一のつりなり
 然ども少く有餘不足なり
 とて深害有とや。其地の
 廣狭難易よりして止事を
 不得とて免角宜一に
 求むる事よりか。開地
 見返小妨障あり。又間數
 古法三十分より甚
 少なり。多きは何れも或
 害となる事なり。或
 開印 用印の事 或ハ残印 事下
 下は記と



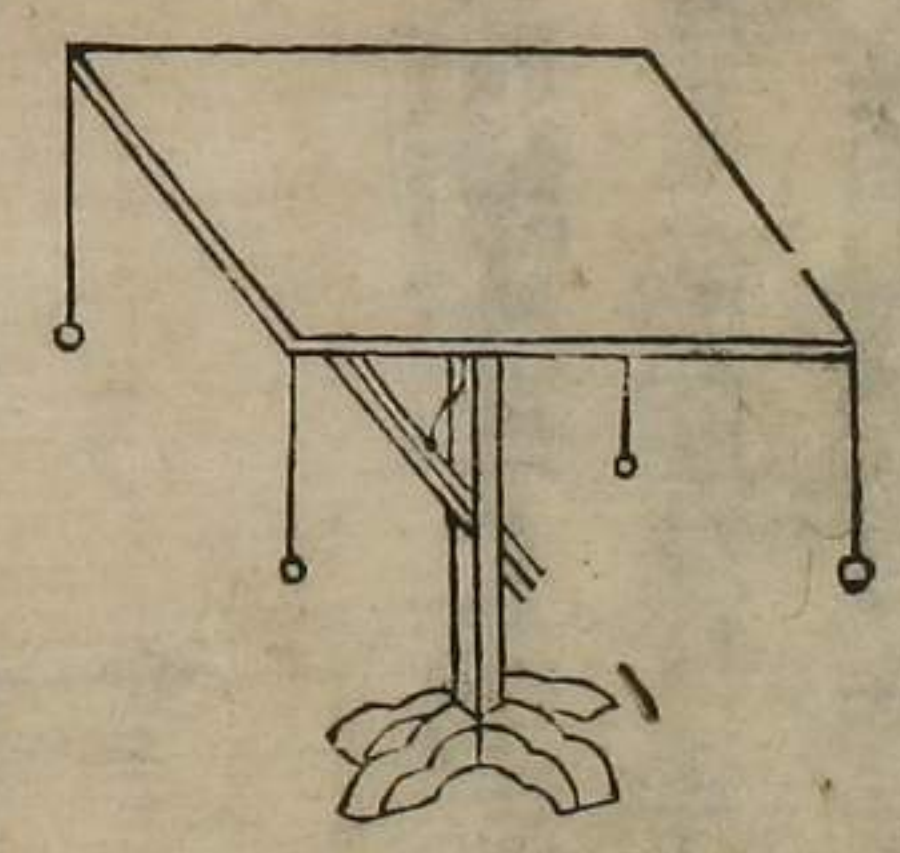
記等の時小見分が... 其利害得失を察すべし。且開除の作法大躰本座の右方
 狭とて左方へ開左方逼ると右方へ除後地迫ると
 前地へ進み前地間と後地へ退く。或前後左右峻難
 狭隘あり。前後左右の斜開用也と知へ。猶其外
 種々の作法あり。往々其術の下は記とす。勤て
 工夫勤辨とすべし

量盤居やの事

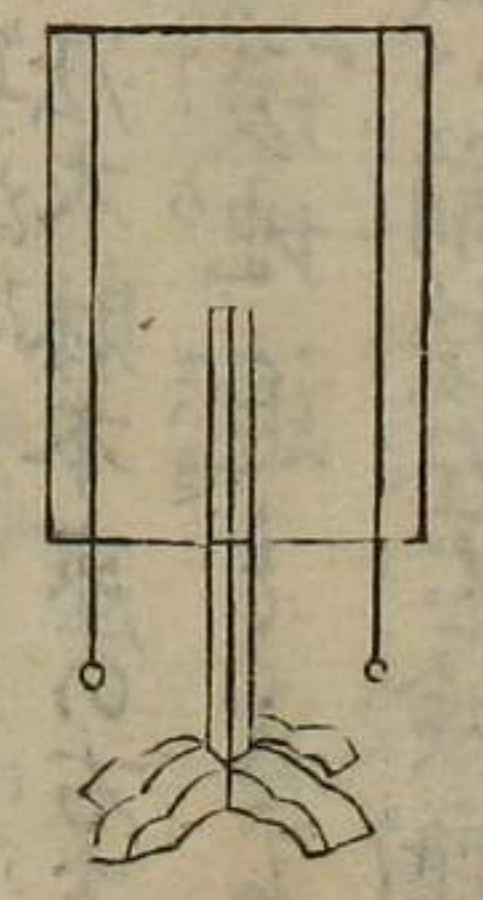
量盤を居る事山陸二様の差別あり。所謂陸地を盤と
 居る作法は連々上章をよむ。本座目的開地あり
 極て然るのら。本座は臨量盤と目的の方へ堅立
 盤南を彼。盤北を此。方正は居置枳其室の下小楔を
 盤東と左。盤西と右とす

施一水平 盤上すこは基上ふ 垂針 是は
 小載て針口と合と 釣玉 盤の四隅に細糸を
 かり其器下小図と 釣玉 かけて種玉と降る
 うら其器 等の平正器の安し随く
 下は図と 平正の器二物一同は用へると
 平正の器二物一同は用へると 彼基の
 下なる楔と縮弛して平正決定む
 たり。地形をうくちる。平面に
 右のおと 盤と居へば場取不平なり其
 盤と居へば 眺視の數余多し
 或は目的に近く開地は遠く
 等ハ盤は横小居るなり。盤と居る法
 用ゆるとも用るなり。其法連々下り記を
 横面をとも用るなり。又目的上下ハ盤面を上下と
 開地上下に定規めて上下はなかり

圖之の盤平



圖之の盤立



各其法式より 別卷より 所謂山谷あり盤と用ゆる
 作法云ふは右をいひて其盤は居へば地形は平
 面小折なり 豫め盤裏の左右に堅く圍のてく 墨を二條
 随分不邪やう引渡す 扱盤裏の柄筆を柱に指入て正直
 小折立然として 盤北の木口 盤北の木口上端より小針を刺す
 釣玉は兼て盤裏に設け置る 墨乃條と今降る
 系の條と一致し 即ち 盤正直に居るなり
 是を釣玉の法と云 又垂針を盤縁の 盤縁の 盤北
 又降系の法とも号く 小載て其針口を
 眺合せ正直に定るなり 又水平を用ゆるを可なり かく
 盤の正直立るところ小極する 其外の作法
 惣して平陸量盤乃居るに准知とす 猶後章に
 照一考べし

眈視とんしの作法の事

眈視とんしと云。眼力がんりきを以て見込見通再見みこみみとおし見返みかへ亦の目當めあたれ印しるしを見定みまる云。
 其作法そのさくは身体しんたいの居すまや眼中がんちゆうのこら
 各おのづかにひおほひおほまの盤ばん杯はい
 其座そのざ何なにも其居そのすまゆゆここ取とる云。小
 居すまと定規ていけいを盤面ばんめんに載のせ。定規の
 本端ほんたんと末端またんと彼目的印かのめてきしるしと何方どなたに
 ても一條いっしやうに見みここす。體たいと平直へいちぢく小
 ちとちと臀しんをすすてて遠巡えんじゆんし。跪坐くわいざと
 左右さゆうの手て杖しやう杖しやう一眼いっげんを以て眈視とんし
 たり。勿論もちろん右眼みぎがんを用もちゆゆへへ去さるが

眈視之圖



左眼ひだりがん利りききを以て左ひだりを用もちゆゆと害がいににつつべべ眼がん甚し定規ていけいに近ちかき
 ととは目的めてき散さんく定まるがが眼がん甚し盤面ばんめんに遠とほきととは眈視とんし
 乱みだれれ極ごくままる偏ひとへ其中そのちゆう正ただけ得えむ事ことををわわるる顔面がんめんてては
 めめるる但たゞ古法こほふを眈視とんしすすふふかかひ有事うじを不謂ふいふののづづし
 人々ひとびと吾軀われみは備そなはり規矩きこあり其已そのよが稟得りやうとくる規矩きこを以て
 見みるる一ひととといいつつり。唯ただ其至要そのしやうに坐作進退ざさくしんたいの間ま少すく。息いきを以て
 精練しやうれんななるるゆゆ馴致おんぢととりりとと云

見込みこ並なら求程もとあの事

見込みこと云。品々しんしん作法さくはのぶぶとと後のち本座ほんざは盤ばんを居すま。盤ばんの居すまや
 盤端ばんたんに定規ていけいを載のせせ右端みぎたんと左端ひだりたんの術じゆつ同一どうい其所そのところより正當ただたうに目的めてきを
 眈視とんしを云。前章ぜんしやうよりより記しす遠廣えんくわうを量はかるるゆゆと高深かうしんを知しるるふふも。

毎術其法同然なり。又盤面大成盤面大成といふ見込見通見返の術を云ふの形現ありて三四五の形現ありてと云ふ。此見込の條は四とと股とをかりのく。あま即求程の縮赤程といふ遠近廣狭高低浅深の術をいふなり。其求程を云。即見込大成する時の号なり。

見通并開除の事

見通といふ本座より作法のごとくして目的に耽視とまごみぬれば盤面ばんめんのごとくも不揺ふようして其終そのすまひに居置盤ゐまゐばんの此端このはしは限かぎりなくも此端このはしの事こともはかりぬべし。定規に載のせし其所そのところより横當よこあたり開地あひちを耽視とまごみと云ふ。前章まへしやうより遠廣えんくわうを量くらふとと高深かうせんを知しることと毎術其作法同然どうぜんなり。又盤面大成の時ときに盤面大成の事ことに前章まへしやうより此見通の條を三ととと鈎かぎともなげぬ。あま即開除の縮しゆくなり。開除あひちりといふ遠近廣狭高深の術じゆつの間の間敷まゐりを云。即見通大成たいせいする時の号なり。

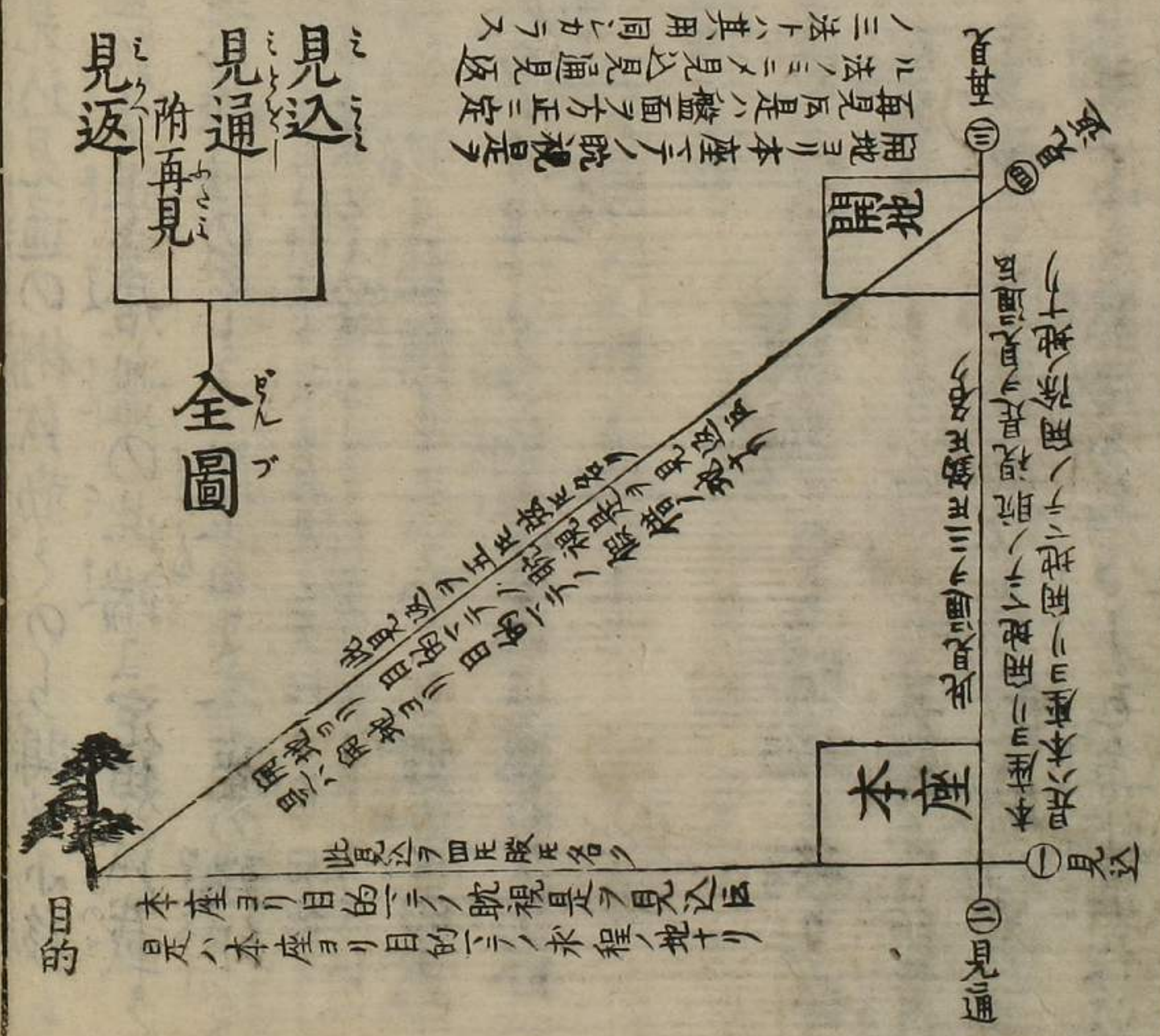
再見の事

再見さいけんといふ本座より見込見通の術に勤とまごみるのり。開地あひちより移うつり。作法のごとくして盤面方正ばんめんほうせいに居置盤ゐまゐばんの此端このはしは定規に載のせし其所そのところより見通の作法のごとく横當よこあたり本座の殘印のこしるしに耽視とまごみを云。此術見通の術を再またひする故ゆゑに再見さいけんと云。此法このはしも開地あひちより尤なほ此法見込見通見返の三法さんぽうに並稱ならびなづるといふこと。假令けいれいの事ことも實用じやうようにあらば然しかることもあらず。毎術廢まいじゆつはいとて事ことなり。録りくば。爰こゝより記しす其優劣そのゆうりやくに勤とまごみることを知るべし。

見返并假借の事

見返けんぱんといふ本座より見込見通の術に勤とまごみるのり。開地あひちより移うつり。即本座ほんざに再見さいけんしる。盤面ばんめんのごとくも不揺ふようして其終そのすまひに居置盤ゐまゐばんの此端このはしは定規に載のせし其所そのところより斜しやに目的てきに耽視とまごみを云。前章まへしやうより遠廣えんくわうを量くらふとと高深かうせんを知しることと毎術其作法

同然がり。まろ盤面大成 盤面大成の事れ。大成 前章よりハ。時ハ此見返の墨弦五とも弦とを号く是即假借の縮がり。假借も遠近廣狭浅深の術より。假借用ひ其術を成爲せしむる也。即見返大成一も右に述べさしむ。一番見込二番見通三番見再見四番見返次番を道て勤るハ。下は図す。盤面大成。量地術の全体備り。是をゆきえり。是を千萬里といひも立取。其八道程を知り。

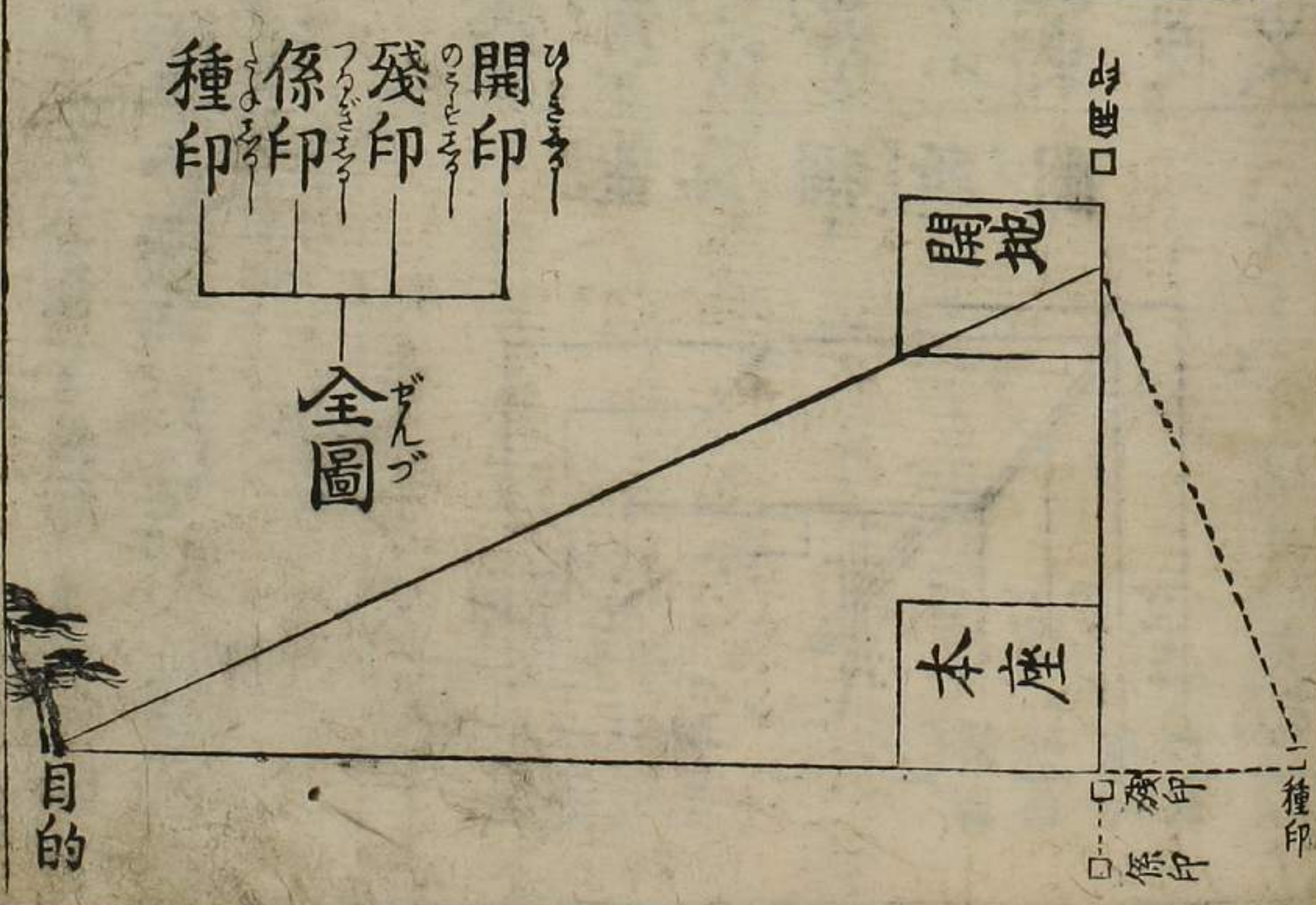


四品の標の事

四品の印とハ開印殘印係印種印の四種是なり。其作法各異別あり。小開場ホ。ソノヨリ見て。其座は迂る取。其的を見る取。ハ。毎取小是は立べ。又開印殘印の二品ハ。毎術不用して不可印なり。種印係印。取謂の二品ハ土地のかり。時期のより。思ひなり。開印。見通の印。本座盤居目的は見込ての。開地は求る。其より。是場。此印は立。本座より是を目的。其作法の。盤は平正な居。見通。開地を定め。印なり。所謂殘印。本座の印。本座より見込見通の作法。つ。此印は殘。置然。開地は移。彼場所。り。此印は目。當。其作法の。再見。盤乃。平正。極。印なり。此二品の標ハ。毎例。かり。所謂係印。本座と開地との間。沼。河。あり。開地への。

往反不自由なること。開印は不用本座の残印と此係印と
 二本は。係印ハ残印より五間も。正當に立く。係印と不用と云ふ。開印ハ
 用ると云ふハ。開印不立く。故に開除の間、沼河の
 用ると云ふハ。往來セキ。故に係印と用印と不立事有。本座の残印
 より此係印ハ見通く。代り用くことあり。本座の盤乃平正
 を極め。然して開地に移り彼所より此二本の印。係印を一條に
 耽視て正當に再見し盤に居る為の印なり。残印と一本立
 事ハ尋常の例
 然ども開除の間、沼河のありて。往來不自由の時ハ。開印立か
 故に再見せし目印なり。爰とゆへに残印と係印と二本と正當に立て。本座は残
 是と正當にありて再見せしなり。是開地へ往來
 せし。其條理すも違ふ事なき良法なり。此係印ハ開地へ往來
 不自由なる時のゆゑをわづらひ。毎術用ても利多かるべし。
 所謂種印と。本座と開地との間、沼河の有る。開除の町
 間、ゆゑにも量か。その時、その量より用也。其法本座
 少く開地すとの遠程ハ先量し。其三分の一の間数を積りて。

前(成)も後(なり)とも勝手
 ようし。一方(間數)に定り
 本座より開地と云ふ。所
 大際三十間ありと先量し
 即其三分の一の十間をゆへ
 種の間數と定り。猶後弄ゆへり
 種印に立。本目的と見込
 本座より是ハ正當小
 耽視せし條理に定置然
 しての。開地より。場
 選びく盤と居。本座の残印と
 係印と一條に耽視く。再見
 の條理より定り。扱其盤
 少く。此種印と見返。俱小

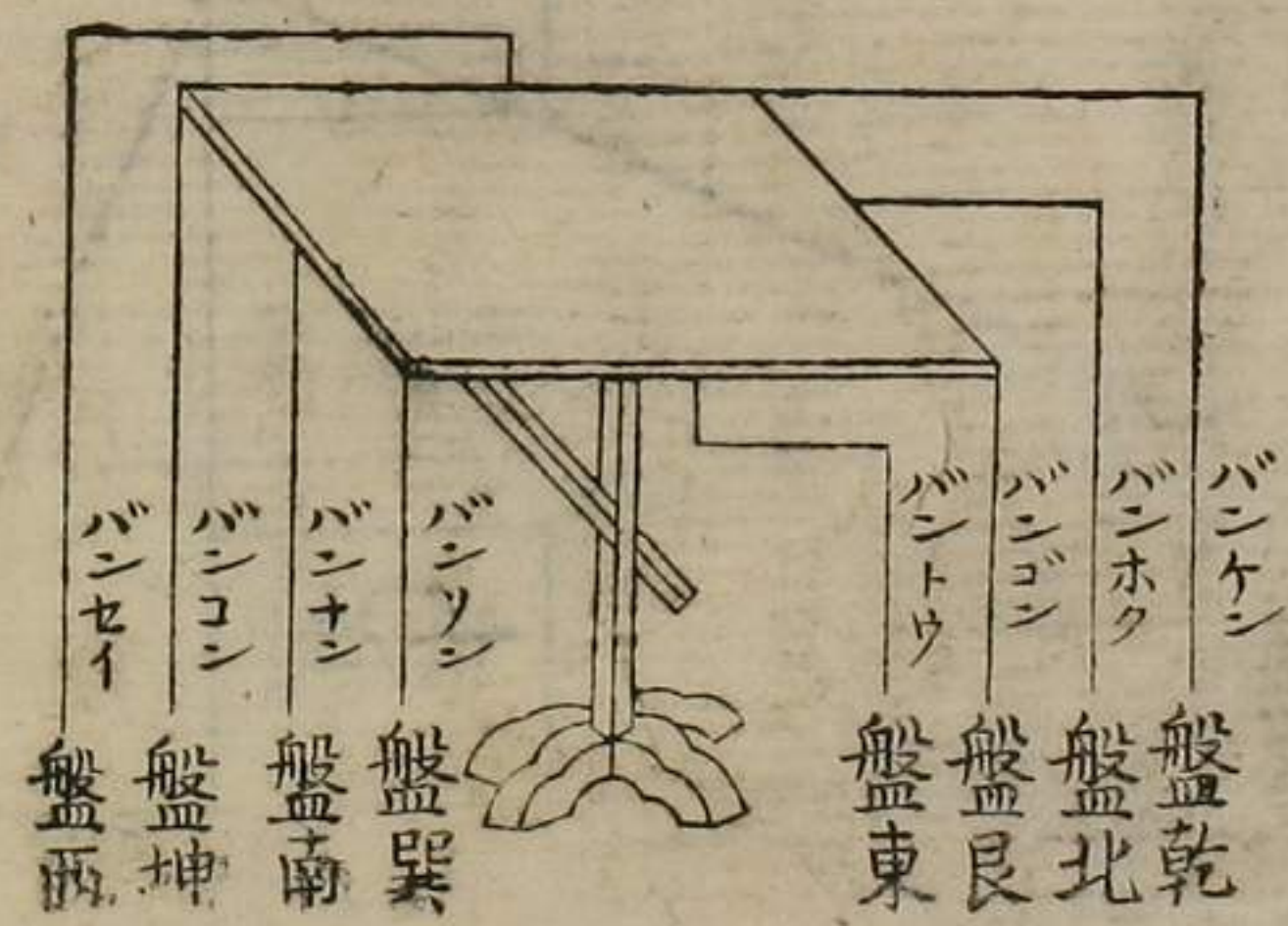


盤面は墨引渡りとする。種間の縮口出来後なり。此縮口
の間の開除の縮口量よりなり。即其開除の沼河の程度より
なり。後考ふる其大法を述ぶ。其審かろ
事。後考ふる其大法を述ぶ。其審かろ

盤面稱所の事

量盤の上面四方四隅八箇の稱取
り。所謂左方を盤東とし右方を
盤西とし彼方を盤南と云此方
盤北とし。東南隅を盤巽と
し。南西の隅を盤坤とし。西
北乃隅を盤乾とし。北東
の隅を盤艮とし。是より一
より稱し来る所よりなり。

盤面稱所圖



と。初學のやうに其所を指しあひなり。是より新小
其稱所をゆづ。學者知るべし

量盤始終作法の事

往々右に述ぶごとく。空眼視觀察等の先量法なり。本座
より目的すその里町反間を大槩に見渡す。其遠近は隨ひて
三十分の一の開除を假し定置品々作法整ひくものなり。本座
量盤を方正に居し盤面の堅端を左側の端より左方の端
を載せ。定規を見込見通再見見込。毎法
見込と云。次に假し定置し開地をゆるし竿をゆるし間敷を
らゆる。此間敷古法三十分の一を用也。大槩は準して其所に開印
を立す。假し立す。然して
定規に載て彼印を眺視なり。是を見通と云。尤彼印

定規と正當まこと小合くわいと比ひつらうらう。一不合いふあひと比ひつらう。幾いくばくも彼印かゝりを進退しんたい成なり。一進退しんたいの仕事しごと。是も正當まことを專せん一いっと云いふ。左ひだり右みぎの時に果はら承うけの間教まね差さ異い。定規ていぎと正當まこと小合くわいと云いふ。一正當まこと成なりる時とき。盤ばんの隅すみ小残せうぜん印いんと立たてまゝ開地ひらきへ遷うつれず。扱あつか開地ひらきより開印ひらきいんへ盤ばんの隅すみ小假か一合あひせ。初はつのぶと盤ばんの此端このへた而して定規ていぎと載のせ。此所このところより本座ほんざの残印せういんへ耽視たんしなり。是こゝに再見またみと云いふ。尤なほ其印そのいん盤ばんの此端このへたの定規ていぎと均ひとく合あひと云いふ。宜よろ若し不合いふあひと云いふ。幾度いくばくも盤ばんに居直いぢくして残印せういんと定規ていぎと正當まことと云いふ。扱盤あつかばんより居いる。其時そのとき。定規ていぎを斜なに盤上ばんじやうに置おけて本目的ほんもくへ耽視たんしなり。是こゝに見返またみと云いふ。尤なほ目的もくと定規ていぎの本もとと末すゑと二所ふたところ一條いっぺんの成なりや。幾いくばくも定規ていぎと動うごかして目的もくと合あひと云いふ。其定規そのていぎより目的もくの合あひと云いふ。即定規すなはちていぎは隨したがひて盤面ばんめんは墨すみを引ひかり。

見込見通みこみみとお再見またみの三法さんぽう。盤ばんの端はたと定規ていぎと一致いちじなり。故ゆゑに墨すみを引ひく。疆きまとす。及および見返またみの一法いっぽう。盤ばん中ちゆうは斜ならざるがゆゑに。墨すみを引ひく。ゆゑに印いんとす。扱墨あつかすみの引ひき。工匠こうじやうのやうに曲尺まがぢやくをゆつて。材木ざいぼくを引ひき。惣筆そうふでをゆつて定規ていぎと云いふ。ゆゑに引ひかり。渾まる發はつをゆつて。界引かゝりひ仕しる。形かたちのごとく見込見通みこみみとお見返またみの法ほ悉しつく。一時々ときとき。盤面ばんめん大成たいじやうして三四五さんしゆごの形かたち。一微妙めうめう其中そのちゆう小合くわい書かき。一盤面ばんめん小模せうも。一現あらる形かたち。目的もく本座ほんざ開地ひらきの形かたちをす。一不變ふへん。一大おほを小せうに引縮ひぢくる。圖ずらりと知しべ。渾發まるはつ用もちの事こと。上章じやうより。量盤りやうばんは據たま。見込見通みこみみとお見返またみの三法さんぽう悉しつく。一時々ときとき。盤面ばんめん大成たいじやうして。每術下まいじゆつげ圖ずする。一釣股弦てうこげん三四五さんしゆごの形かたち。二法ふたぽうとあひ。一三四五さんしゆごと云いふ。一事いっし別名べつななり。そのつづき。是を。一或あるは左右さうぶ間ま或あるは正角せいかく或あるは斜角しゃかくの別べつ。一猶なほ委あやま。一別卷べつけん。一記きを。一其形そのかたち異いと。一其二三そのふたさん。一盤ばんの此端このへた而見通みとおの條じょうと云いふ。一開除かいてい。一本座ほんざより開地ひらきす。一の縮ちぢむ。

其四々 四々右よりいふがごとく 本座より目的までの縮なり

其五々 五々右よりいふがごとく 假借 遠程をいへりていふの縮なり

以上ハ盤面よりいふがごとく形を記す 扱渾發をいへりていふ其遠程をいへり

知べし作法は 渾發の口は開き 開除の縮口の三々

縮口の四を量る 然るに即求る所の遠程或は幾十町

或は幾十間と其數量立よりいふは知るがごとく

の間數十間ある時ハ 盤面は現し 三の口寸ハ十間ハ縮

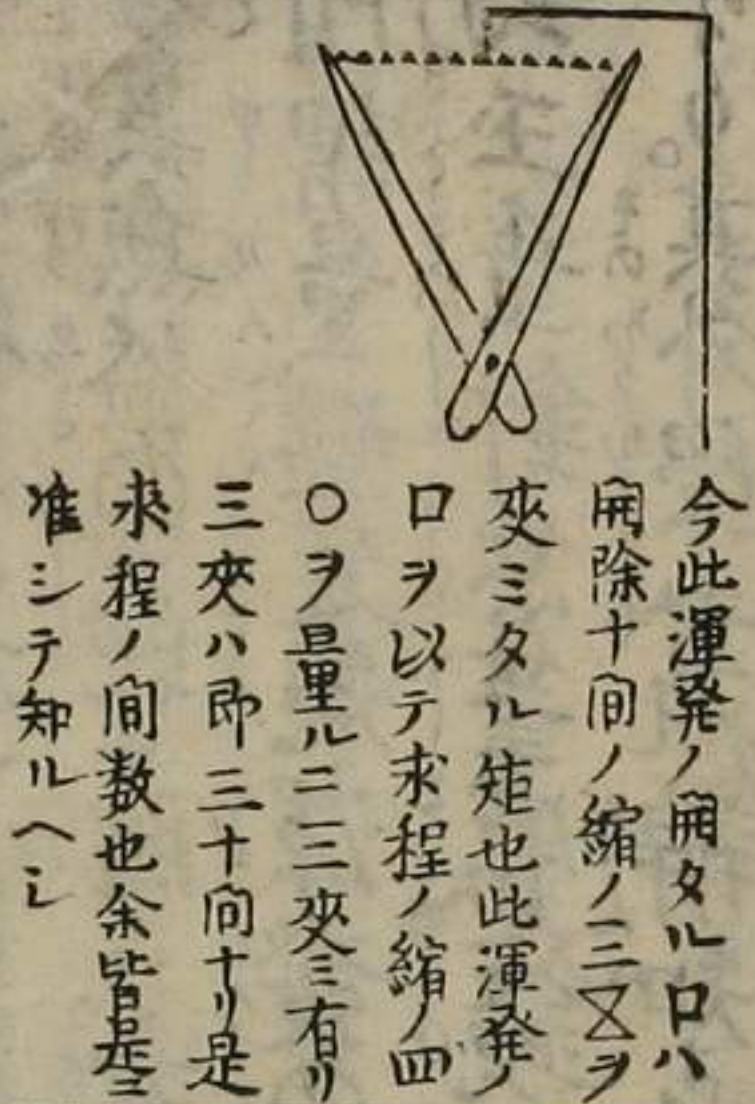
むれ口寸なる故ハ 渾發の口寸ハ彼三乃口寸と二変は変

是を十間の矩と名き 渾發をいへりて三の口寸と変は事一変

と名き是と五変は事一変 其十間と名付る渾發の矩より

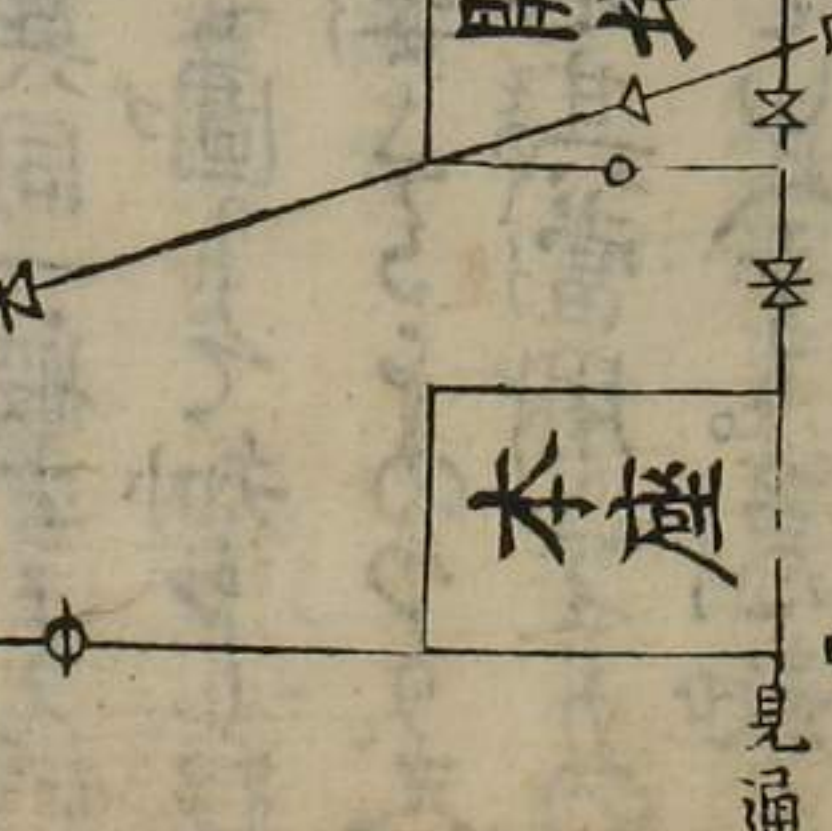
二間の矩と定むべし 余ハ假之 即四の口寸ハ求程の遠程ハ縮き口寸

渾發用法之圖

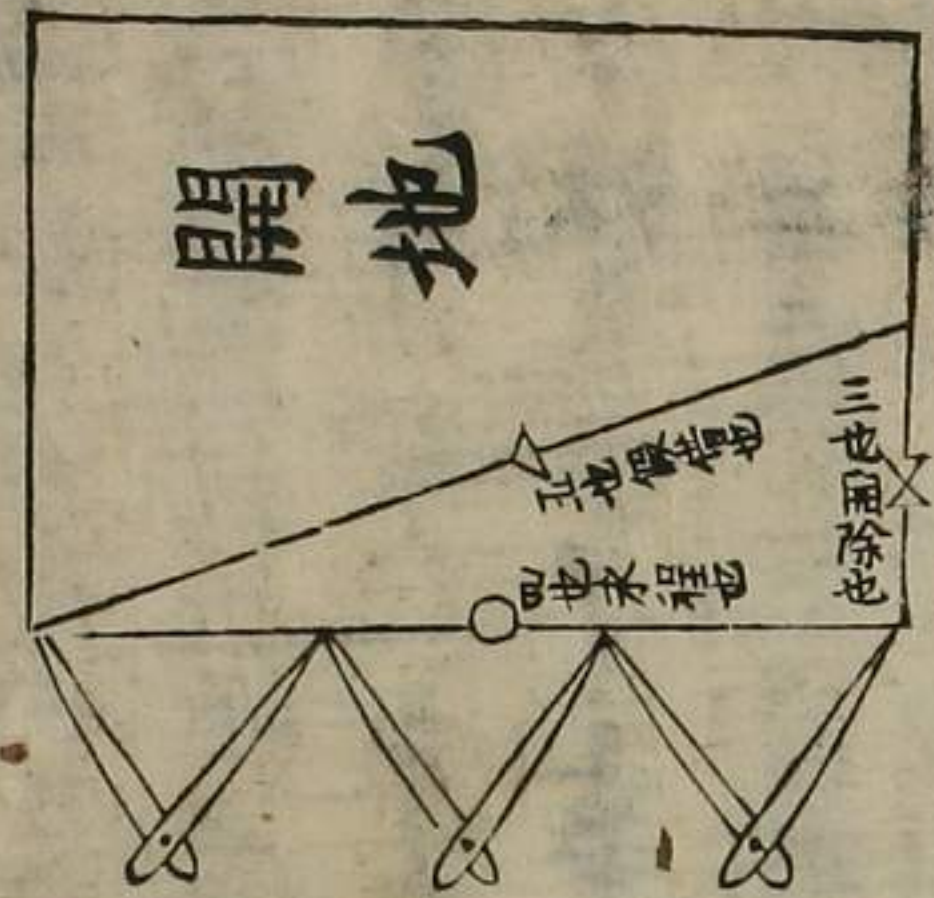


今此渾發ノ用タル口ハ 兩除十間ノ縮ノ三ニ交ラ 変ミタル矩也此渾發ノ口ヲ以テ求程ノ縮ノ四

云此遠程ヲ三ニ摸ス也 此遠程ヲ三ニ摸ス也 此遠程ヲ三ニ摸ス也 每術如此地形ノ大ヲ以 盤面ノ小ニ引縮模ス也

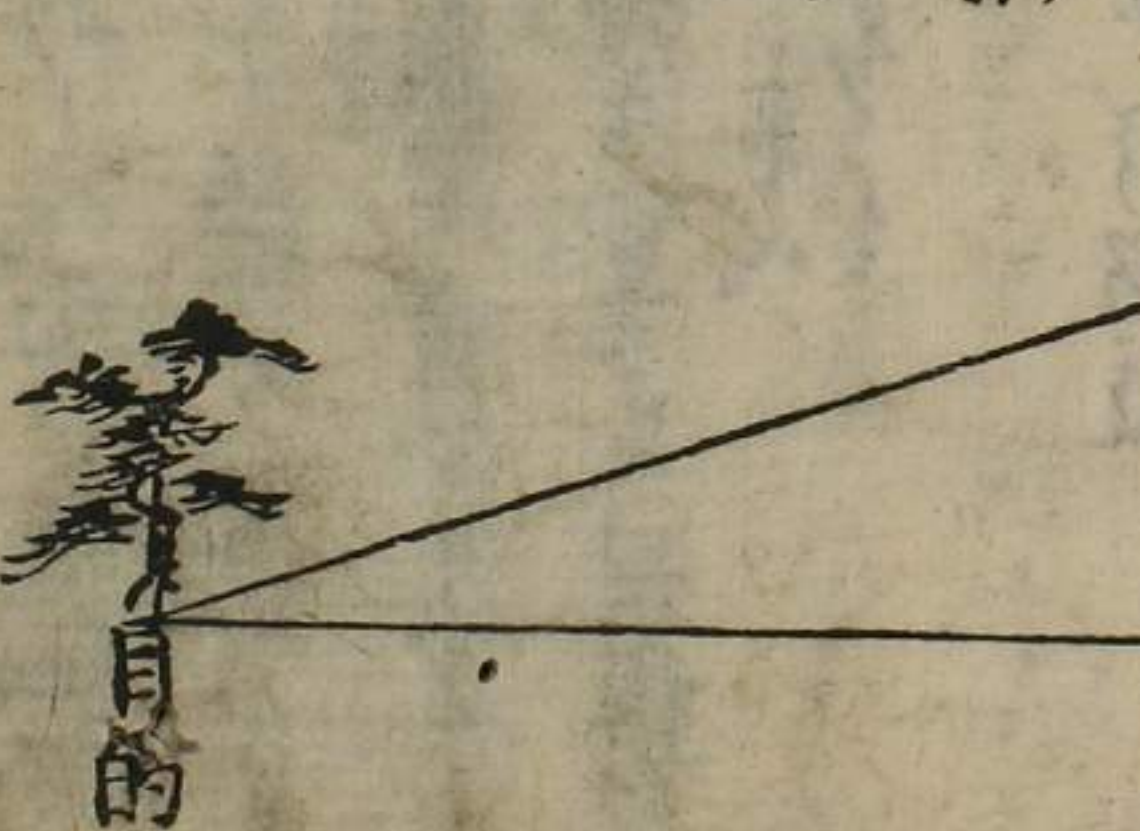


量盤用法之圖



此盤ノ口ハ下ニ因スル所ニ同シ今ハ再 變ニ因シテ以テ渾發ノ用法ヲ明スナリ

又此口ヲ用除ノ縮ト云是本座ヨリ 用地ニテ同數ヲ幾程アリ凡ハ三引 縮メ摸レタル所ナリ 此口ヲ求程ノ縮ト云是本座ヨリ 目的ニテ同數ヲ幾程アリ凡ハ三引 縮メ摸レタル所ナリ



△此口ヲ假借ノ縮ト云是用地ヨリ 目的ニテ同數ヲ幾程アリ凡ハ三引 縮メ摸レタル所ナリ 每術又此口ヲ渾發ニテ量リ合セ 其渾發ノ口ニテ此口ヲ量ルハ 遠程立所ニ知ル也△此口ハ假借 トテ假物ナリ故ニ大成ノ後ハ不用

かる故。渾發の矩少く此四の口寸三夾あり。即其遠程
三十間あり。四夾あり。其遠程四十間あり。二夾半
あり。其遠程二十五間あり。とて幾數里幾十里の遠程を
量るも其理ハ一なり。また高低廣狭淺深を量るも。遠程を
量る法は異なる事あり。往々其術の下は事ハ。

量盤術器械品々の事

量盤術の器械古制新作大小精粗すべし其異同一般なり。今其無益の品と除き有用の物を探し。左に圖して知らしむ。所謂量盤定規渾發の三器ハ就中其樞要なるものなり。又釣玉垂針筵筆感鏡標木間繩間竿等是其當用なるものなり。其外學者辨知すべき品物少く。急務なり。後卷に記す。又盤針術渾發術筵筆術亦。

器物よりしては。皆其編の巻首に圖し。異同古新の差別
はれもの。或問の編論。然中分度の規矩ハ量地術の
神器大寶なり。故に初學の士。知らざるは
為。量盤術は。下小圖と

量盤

量盤。遠近廣狭高低淺深のかるは。盤面は
引定ると知る。即當術の跡とする。取は
其要器なる事。今更述る。不及なり。其制ハ方正
平直。本と盤。檜板にて。臺柱。俣ホ。檜板にて
る。大躰其大なるもの。堅長一尺四寸。横中一尺なり。
其小なるもの。堅長一尺。横中七寸なり。高程ハ何れも
一尺四五寸を節とす。其餘の制作ハ恰好なり。應
とす。尤大小の好むるは。隨ふべし。願くハ

大なるふく事なり。猶審か事ハ下圖にて示すと見らるべし

定規 定規ハ盤面ニ載せて見込見通再見見返の模範として器なり。其制ハ檜又ハ檀をのくと。長一尺八寸余横中一寸弱厚三分是其大畧なり。猶量盤の大小よりして長短心得有べし。其器尤正直ニ制すべき事ハ不及又不時の需ニ應じざる為一序方ハ曲尺の星尺よりする

渾發 渾發ハ盤面ニ現せしる圖形ハ是のりく量り遠近廣校高低淺深ハ此器なり。或ハ規ニ用ひ。規ハ用ひ用ひ。假量地此器紅毛國より来るハ上品と其制黃銅をのり作る又鐵をのり制するも有り。彼も得失あり此も得失あり。強く拘泥する事ハく。つらよ任造るべし。長五寸余其形扇子の上骨二本合きとあり。似あり。下と太く鋒ハ細くと。下の方八分を去り去り要を施す。要の跡を固くと。又鋒の内頬ハ墨溝を設く。又外頬ハ曲尺の星尺より付するも有り。

鈞玉 鈞玉ハ盤面の平正と定る器なり。其制針ニ糸を施し。鈞玉の錘ハつき盤の四隅ハ降るなり。此糸の曲直をゆりて糸針ハ尋常ニ用る品ハとくと。鈞玉ハ稱目三四文目をりたる。銃丸のどに制を用ゆ。

垂鍼 垂鍼ハ盤面の平正ハ極む器なり。其制黃銅をのり作る。恰好惣体下ニ圖をり。形天秤ニ用る所乃針口とく。似たり。其理もまは是とあり。制作の

大小精粗其望一任之。多しは異作を好む。其理をめぐりて會得せ。用るは実ろくおへ。

窓筆 窓筆ハ盤面やく定規小隨ひ墨引器なり。竹を以て作る平生工匠木客のや。用ゆるは器物。ひさし故。敢て贅言不記。

間繩 間繩ハ間町寸尺決定具なり。長六十間を以て太鐵管や。伏吉と。上品の麻草を以て作る。大射微索の連綿ゆるがぶと。固く緋りて三糾を以て。或は蠟を引濕引て漆る。水濡く屈伸なり。多むが為なり。其一間毎に印付置て急用便。遠程一町及。引渡事。其心を得有。又無用の時藏め置る。

小、簡、篋、捲、置、る、と云

間竿 間竿ハ間町寸尺決定具なり。其制檣又櫃を以て。長九尺方二寸と。三尺づみ。胴金を入。一枚寸尺の星を以て付。片方三尺を。其厚の半分を削去て。間尺なる時。竿二本を組ら。又或制あり。試く。其。

標木 標木ハ開印。見通の印。種印係印。亦用。具なり。竹木を以て。長二三尺徑二寸内外。其大。尤長短大小其時の宜。兼て野。具。期。臨。作。但開除一町以上の印。小。標木の丁。紙。も帛。を。結。

一町ふらふら用除うらふら別々
目印を付あふ不及る
時を用れ印、此制より
或又州郡の地圖がを勤る
彼制作。盤針術
の編中よ。委

感鏡 感鏡、眼勢の不及を
目的を明く見定れ器なり。其制紅毛國の作物と佳
と。其上品なるものは數十里をて。其中品なるは
數里をて。其次品なるは數十町をて。其下品
は得安く、上制するも數里をて
見る物と、求め携へ。此器の制作吾邦尋常の工人
の能く取らるるを、爰に其作用を洩す。
名工のりく是を制せば、永く倭朝の重寶なりん

規矩

分度の規矩、地理の遠近廣狹疎密方角を
てのり。其圖紙紙上、摸と器ふして、規矩兼備の要物也
或は是は條貫を用ひ、或は是は曲尺を用や。故に規矩兼備の要物と
し。其外かくのごとく機轉なるとりて、べりとして用べし事甚とおほし
尤此器規矩の妙と、方圓の理と、故に古今
の量地者家大寶神器と、是は秘藏と、誠此器
乃要用に識達せし、量地の底蘊は會得し、
いふべ、爰に量盤術樞要の具より、
と。下は圖として初學の参考、備ふ其制黃銅をり、
徑一尺の周圓十二分の一分なり。名工は課やく、分釐毫髮
あり、其制差誤を、其形象寸分の審
かる事圖を按して知るべし

盤

盤 一尺四寸
横一尺
厚五分弱
兩端端込ヲ施ス

算

算 長七寸五分
中四分強
高五分強
兩端端込ヲ施ス

柱

柱 長一尺二寸
太方一寸

臺入柄 長一寸
太方七分強

算請溝五分強
算立溝三分強

算入穴 長一寸余
中四分

竿

竿 長一尺四寸
太方四分強

算夾 長一寸三分
中九分

算請 長六分
中四分

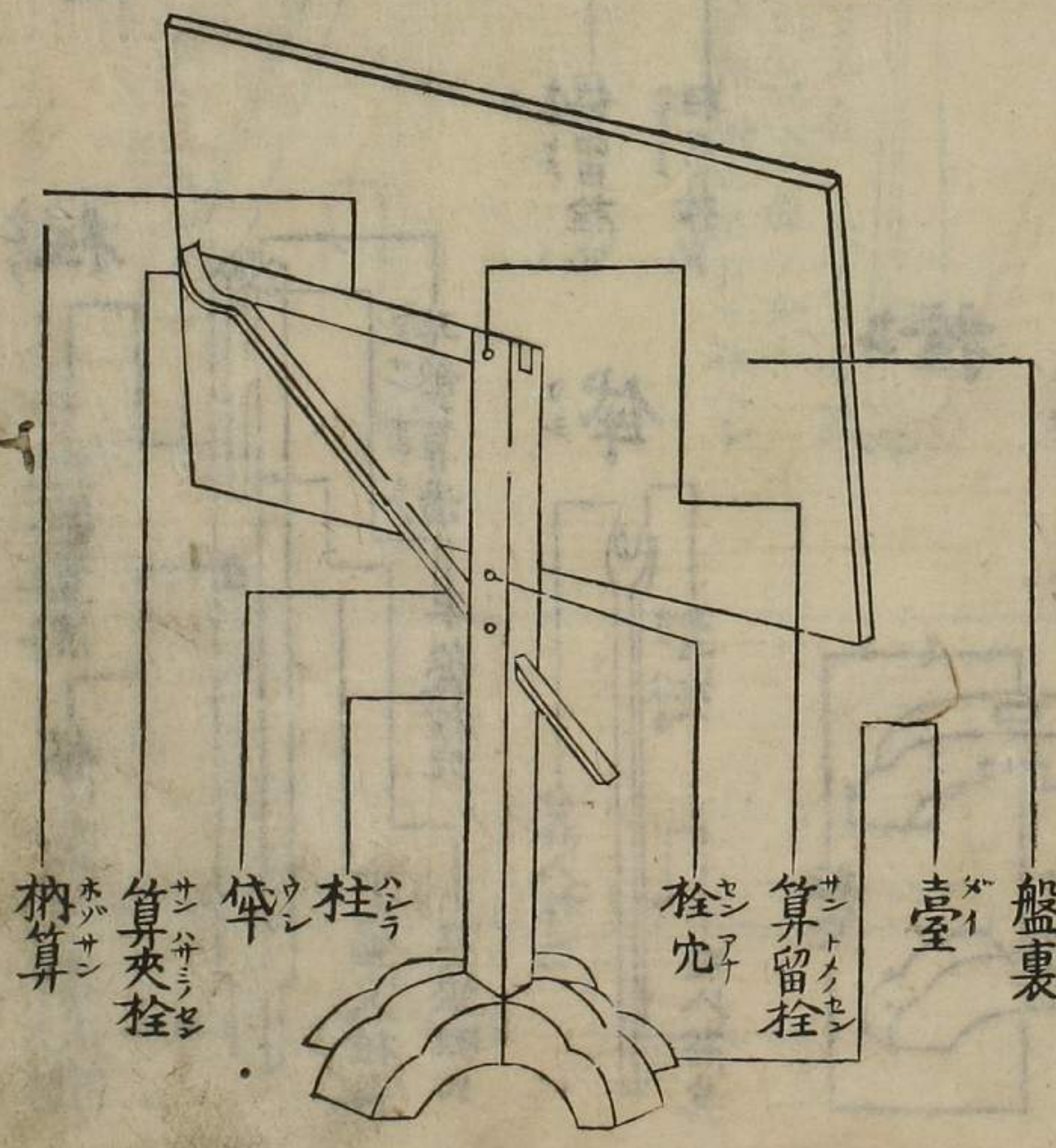
兩所栓穴ヲ施ス
臺 蛛手

栓

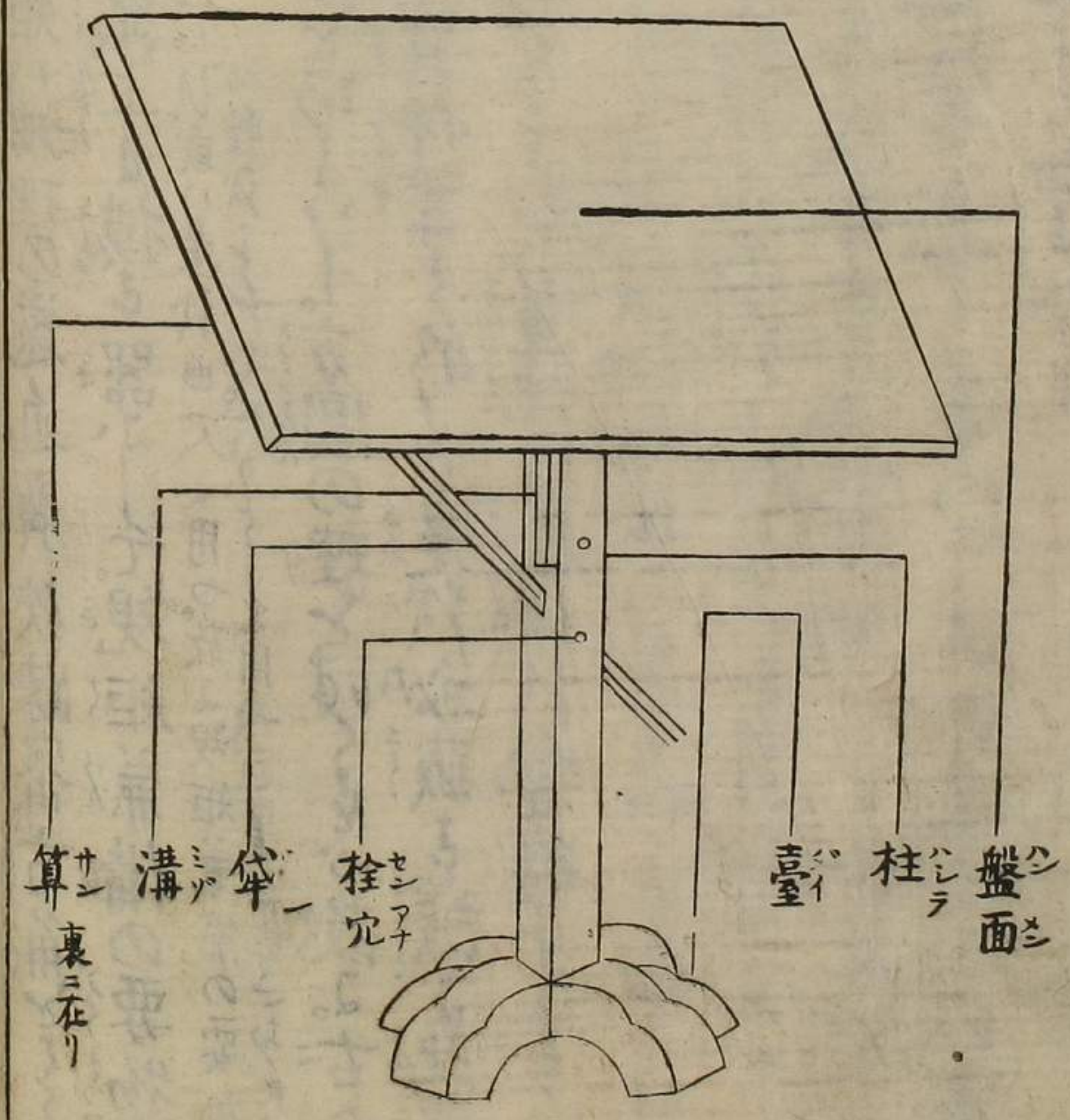
栓 長一寸余
中一寸四分
柄穴方八分
深一寸

總高一尺四寸
但臺下ヨリ盤上ニテ

量盤裏之圖



量盤表之圖



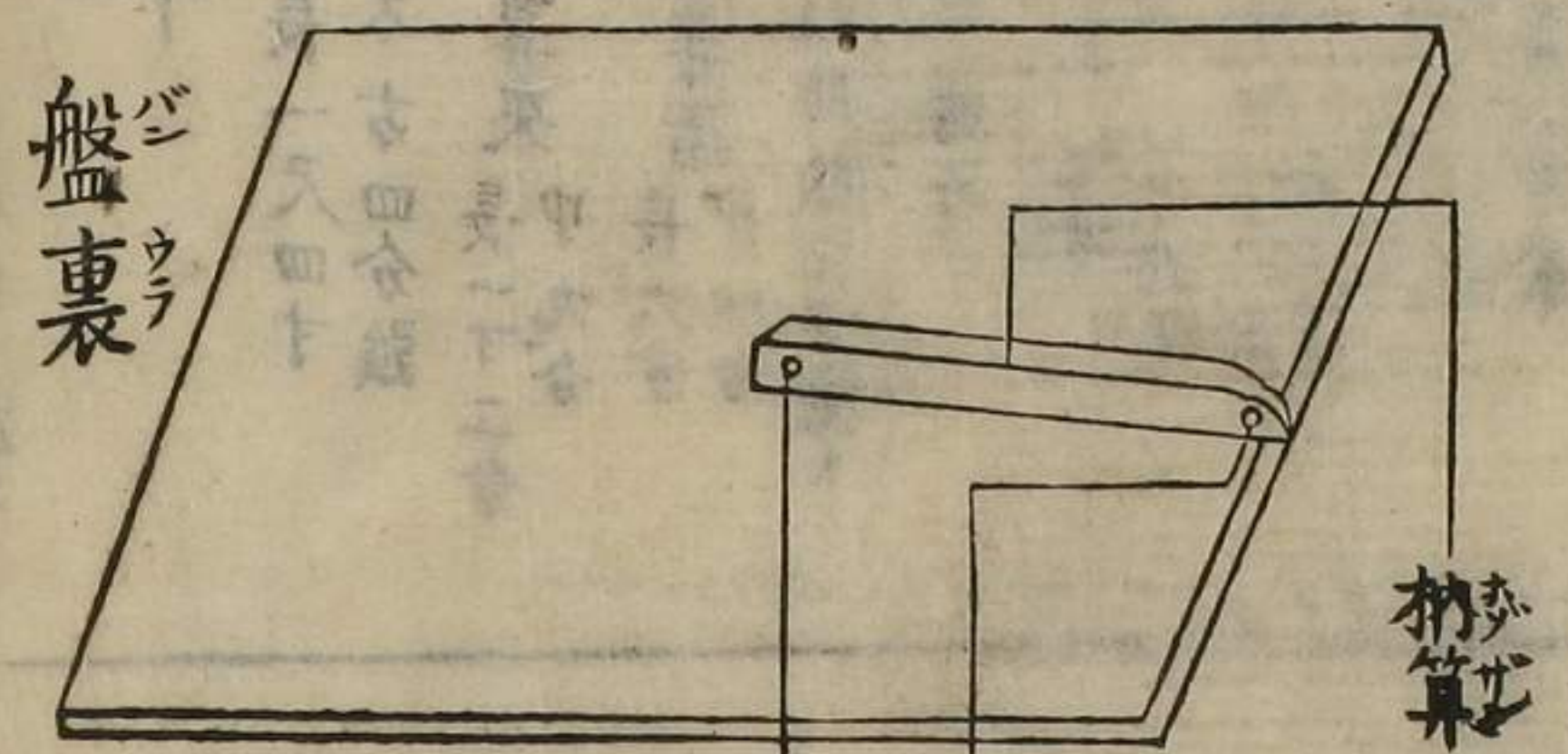
量也旨角卷一

六

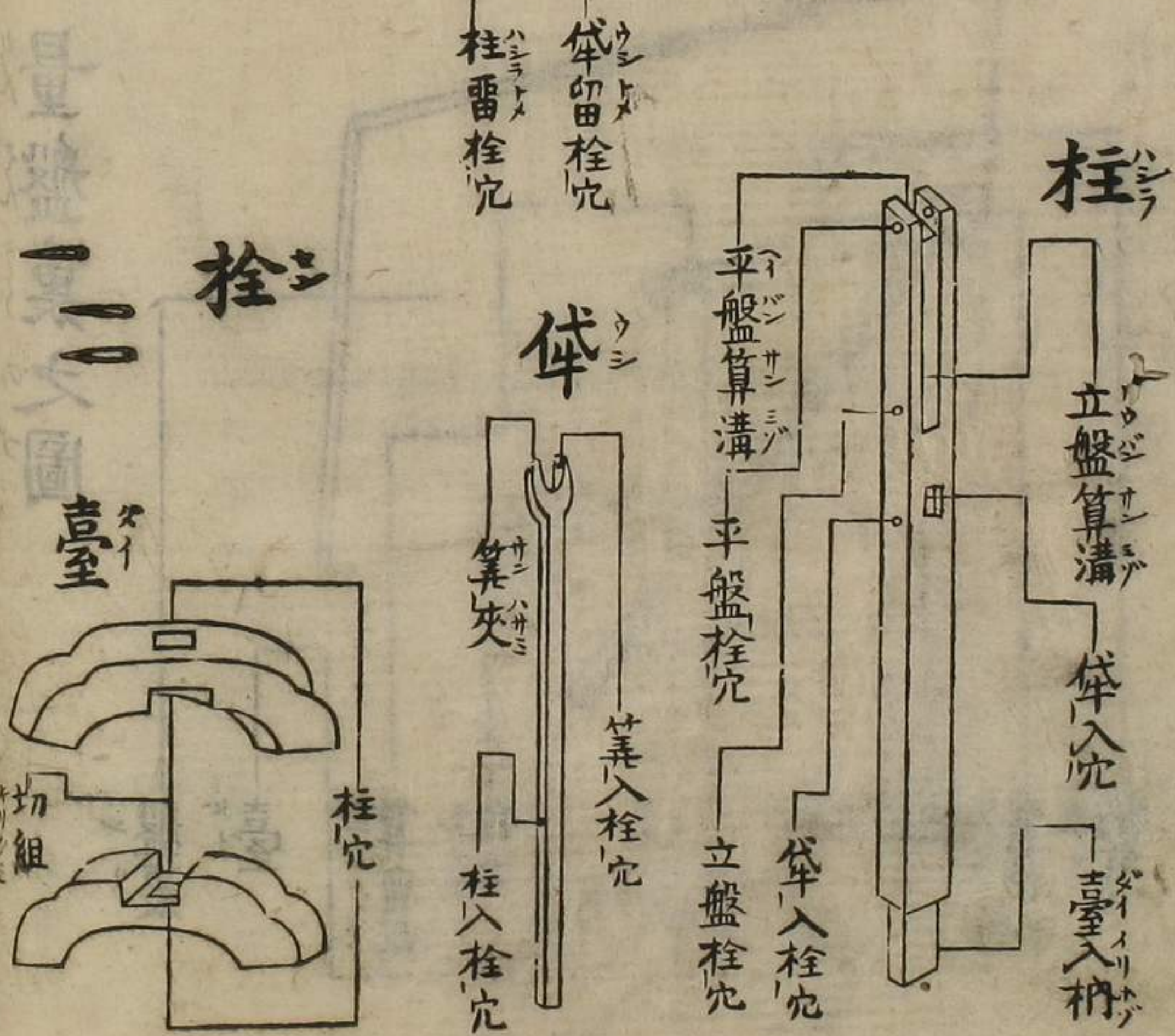
一十

算盤指百卷一

量盤分離之圖



柱

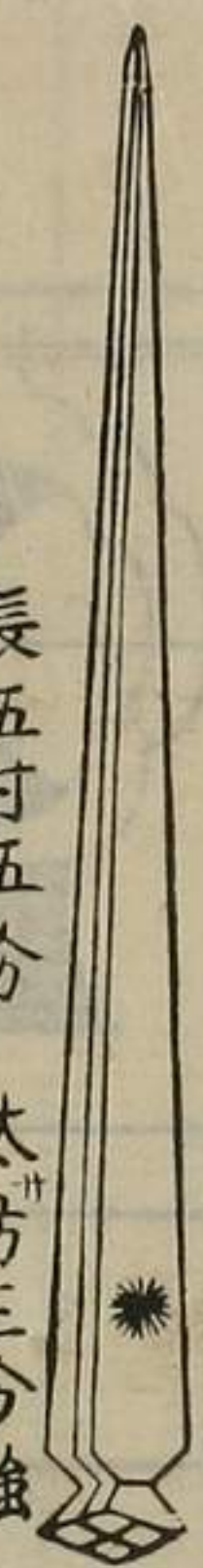


盤裏

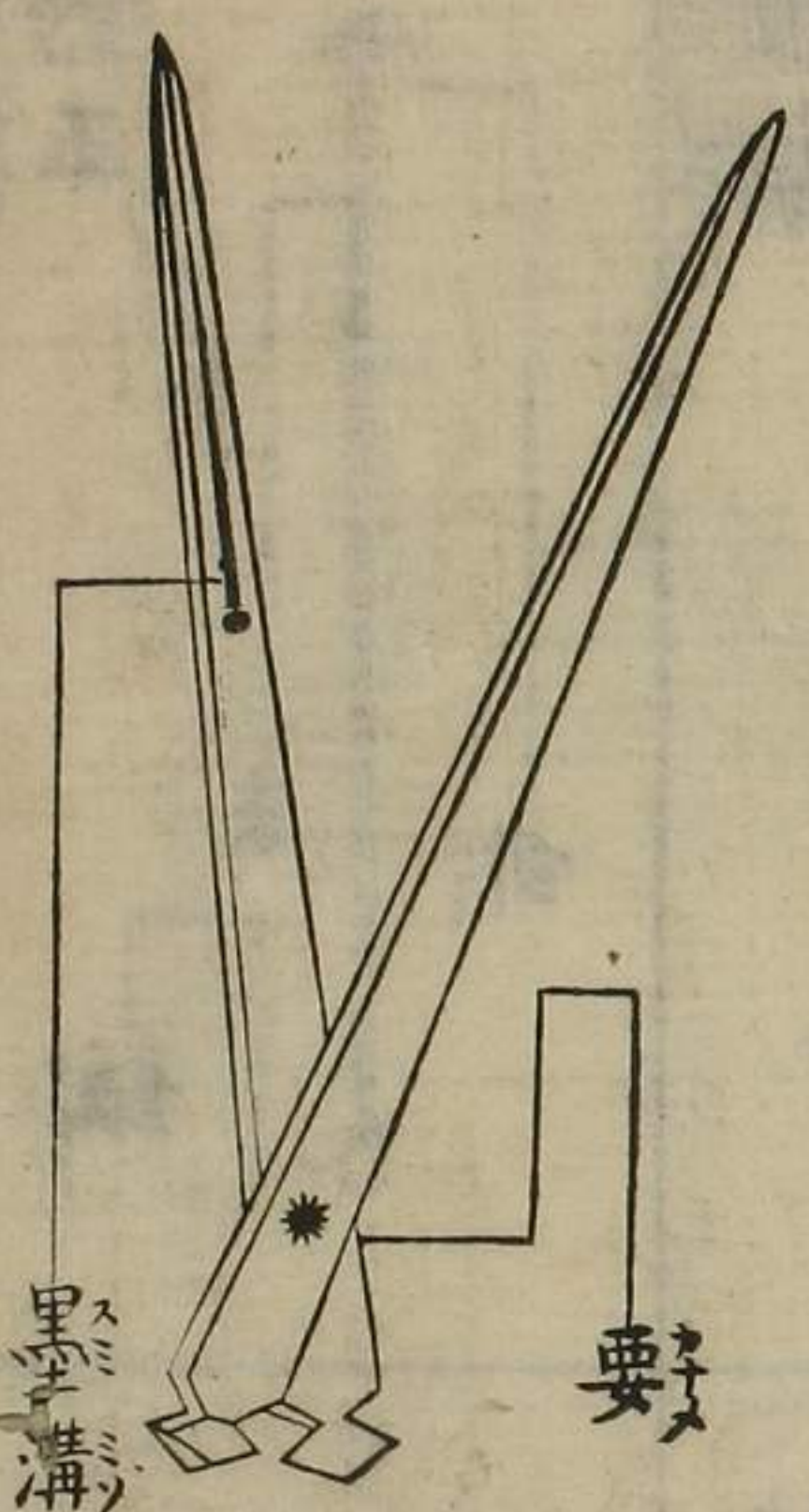
栓

臺

渾發為閉圖

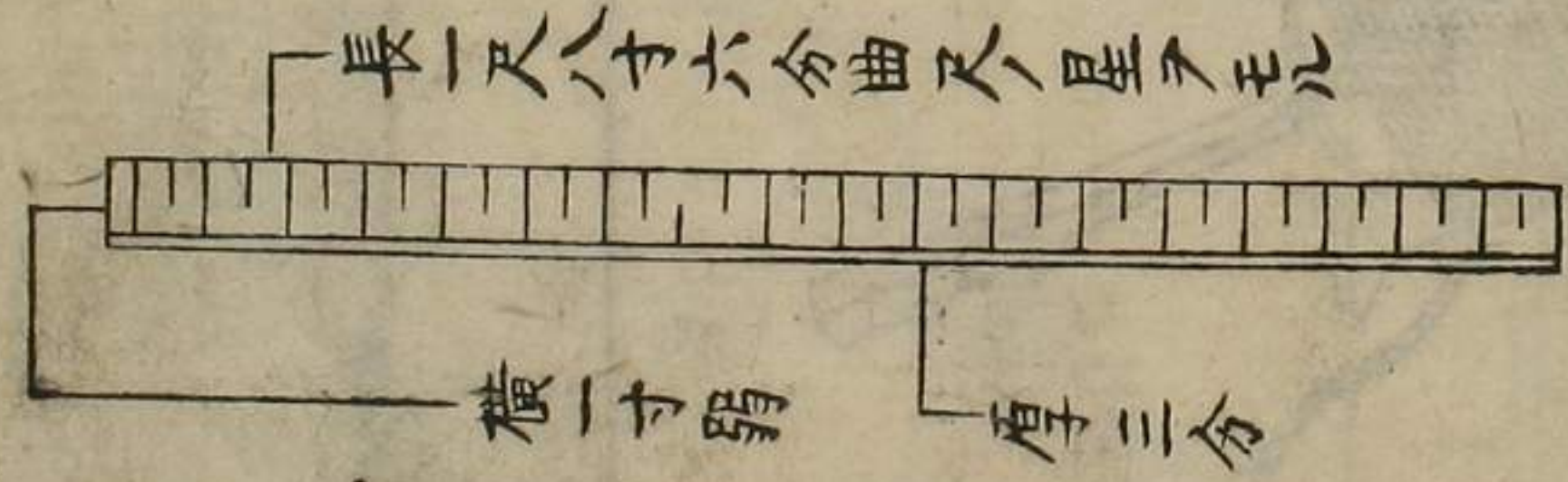


渾發為開圖



長五寸五分 太方三分強
為用形象方錐ノ如シ
頭形蜻蜓頭也但好ニ依ヘシ

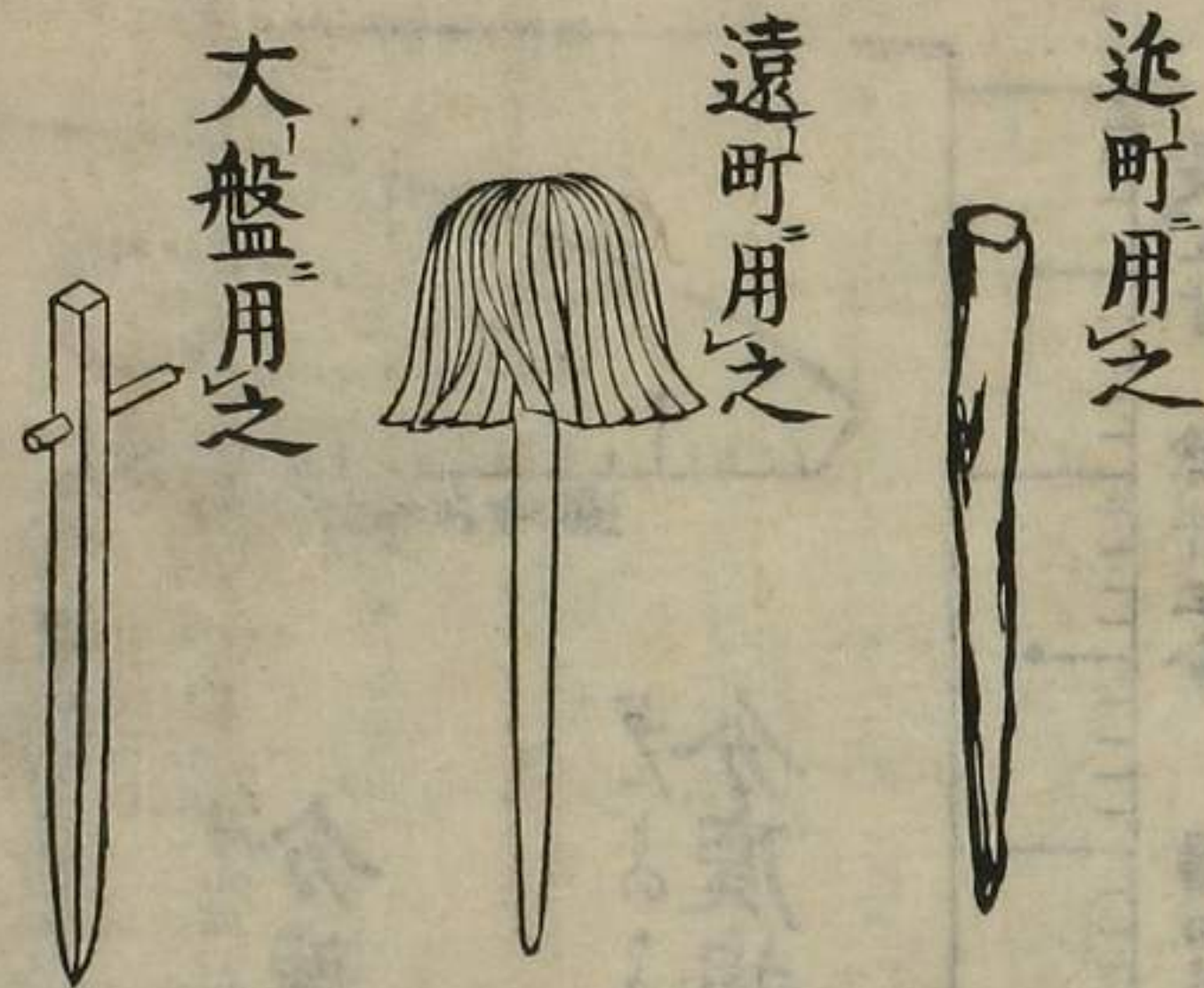
定規



量盤指百卷一

十一

標極



大盤用之

遠町用之

近町用之

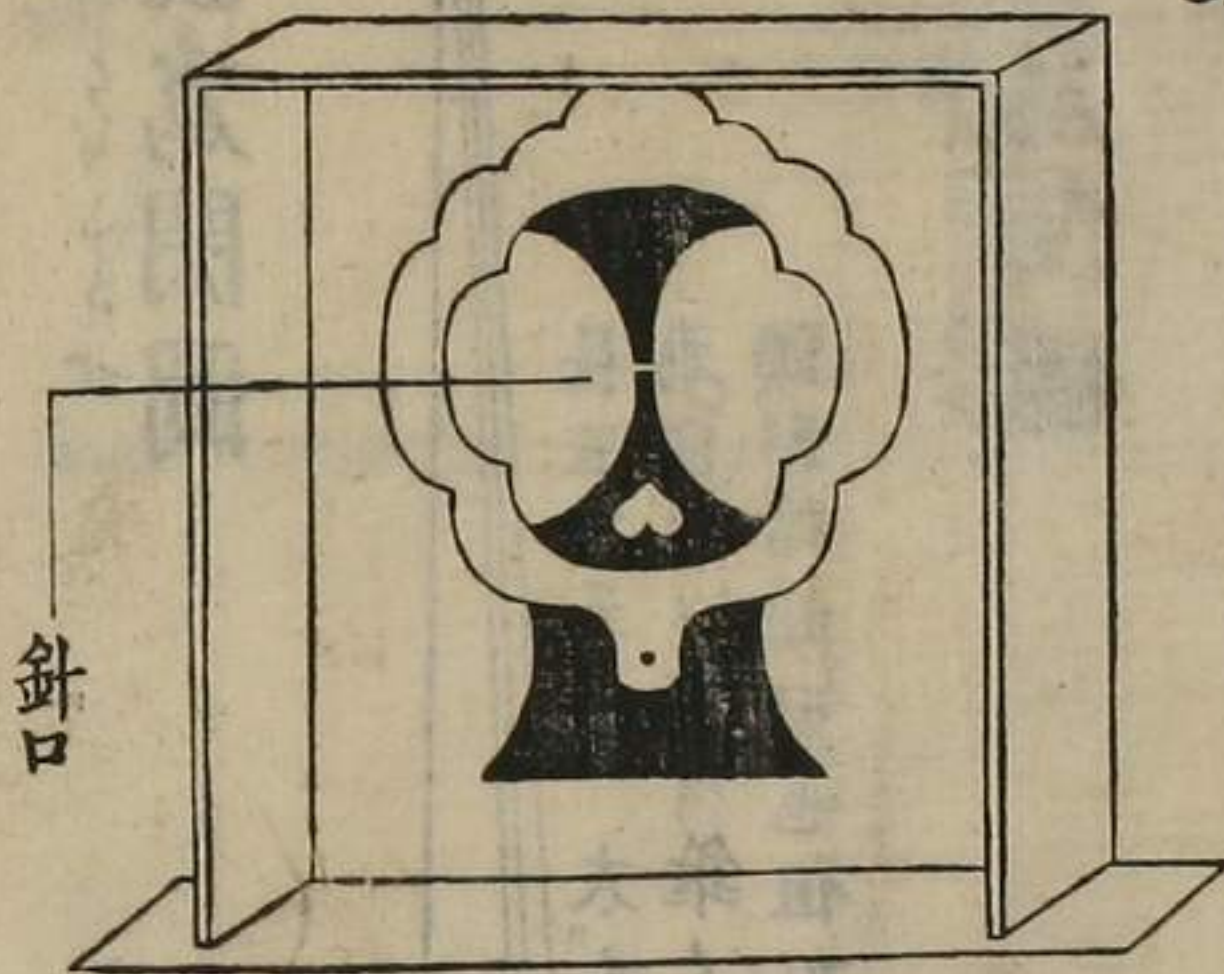
間竿

長九尺
方二寸
胴金四所



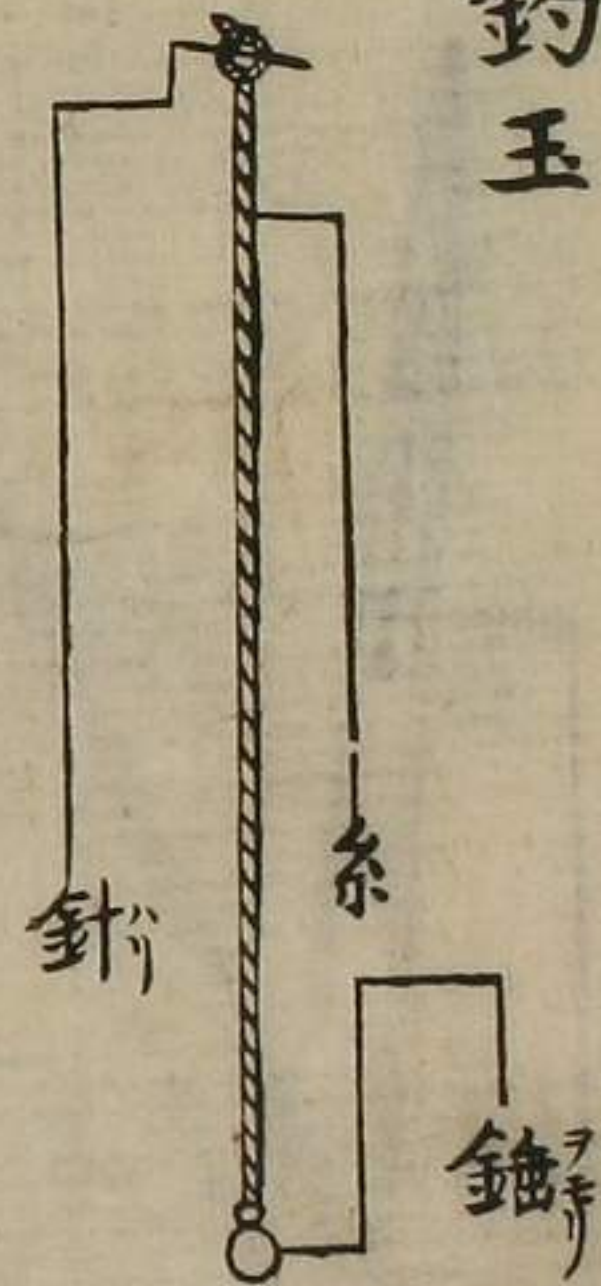
自是以端半割法

垂鉞



針口

釣玉



針

糸

鉞

感鏡

為伸圖

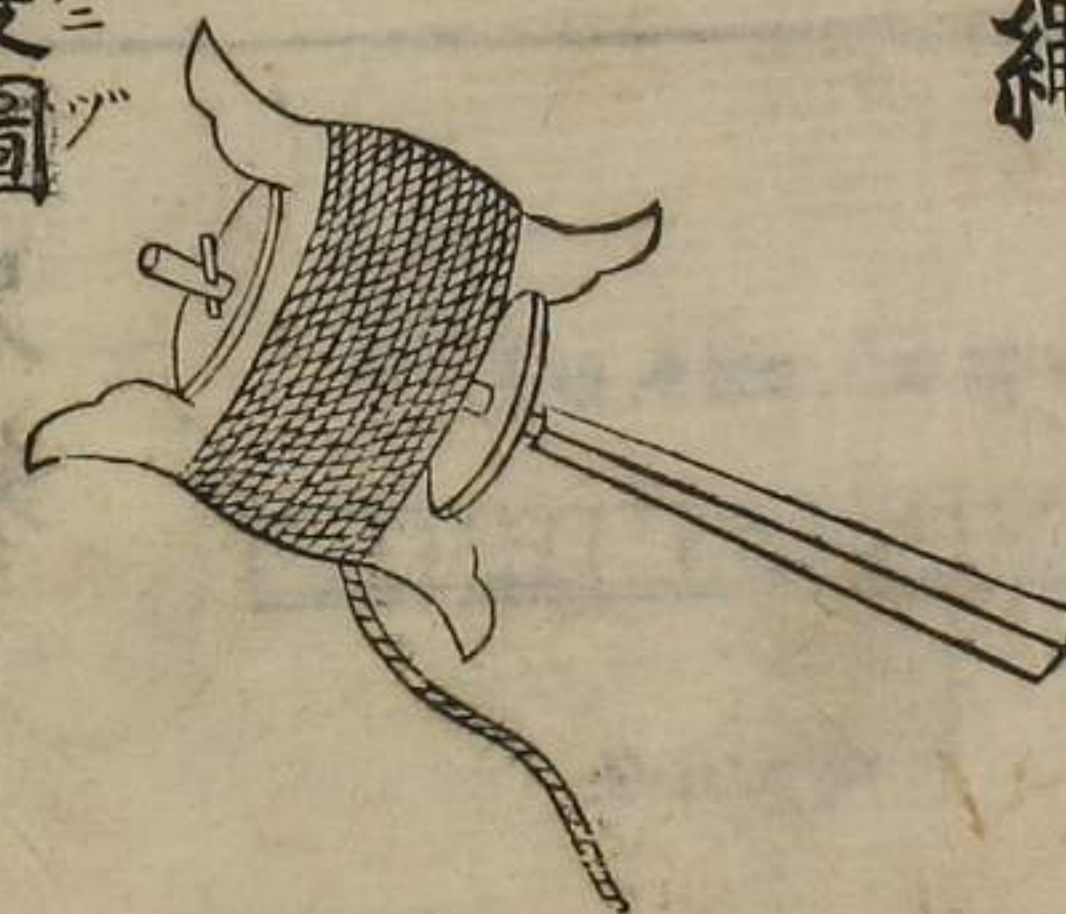


為屈圖



間繩

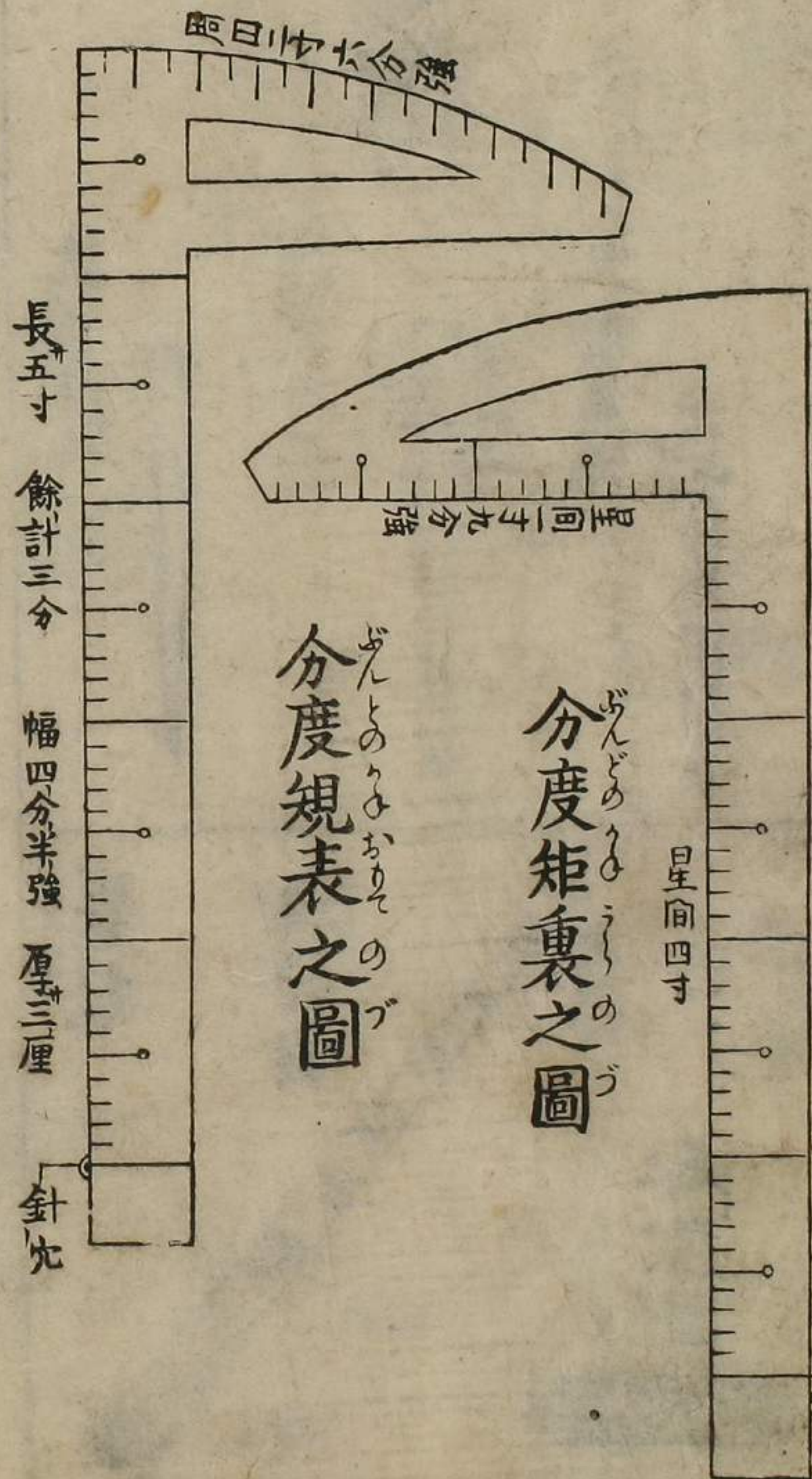
捲篋圖



悠筆



量地指南卷之一終



量地指南卷之二

勢南 處士 村井昌弘編述

量盤術遠近法上

左右正開方

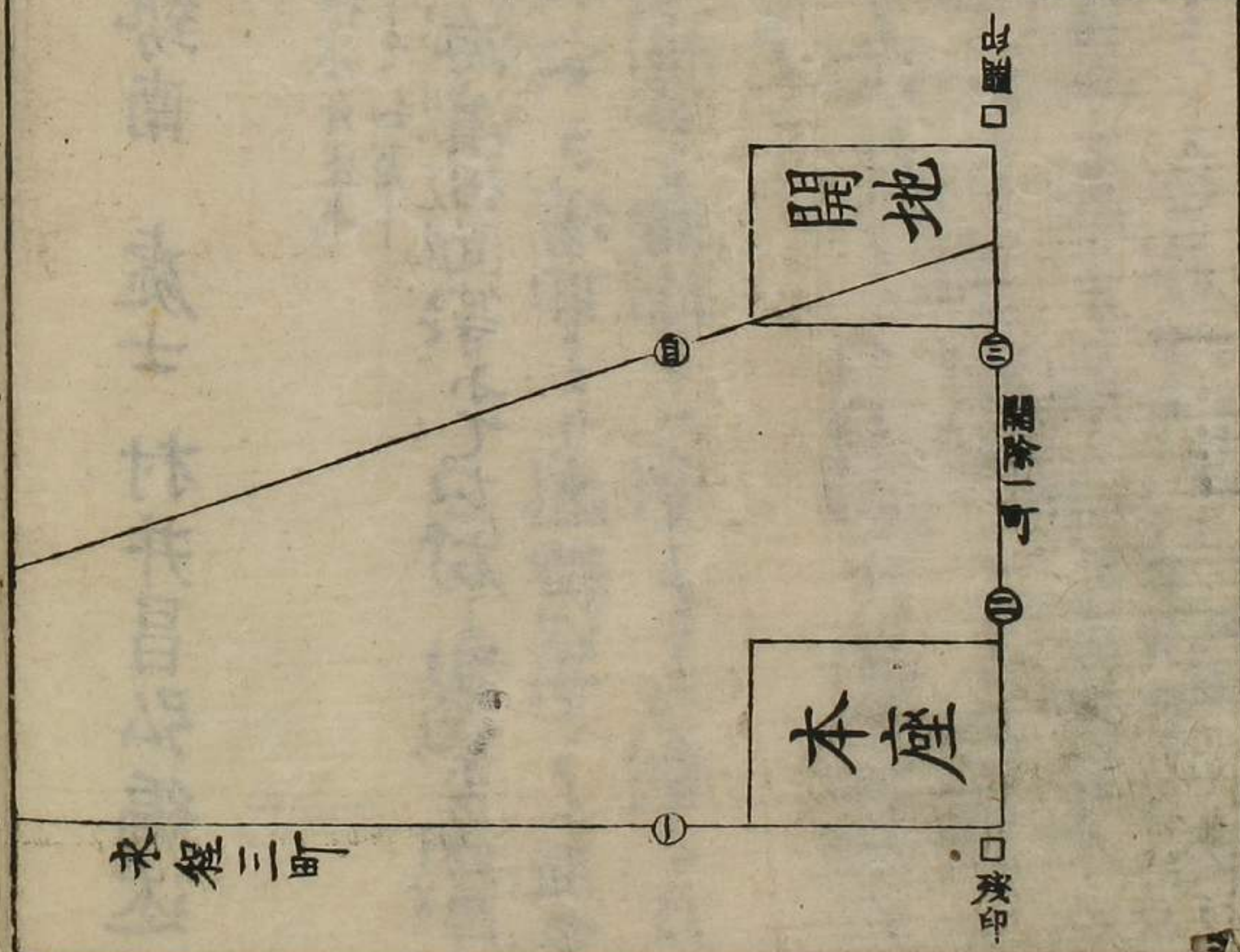
爰小ハ右正開の作法を述ぶ。左正開の法も准じて知るべし。

此術ハ廣野平易又ハ海濱田面等ふて。左右ノ觀察の妨障なく。開地心ノ任を求安き場取より。遠程は量るより用也。其法左右何き成と。正當ノ開除して量るなり。委くは術中ノ記と勤く知るべし。

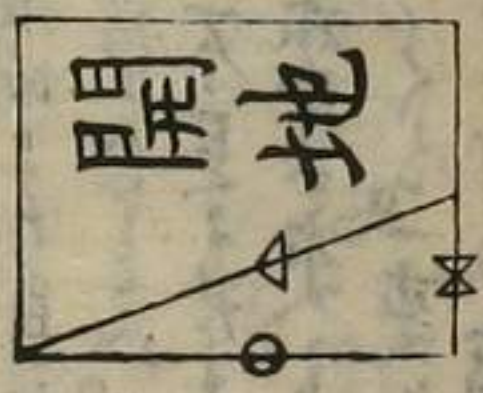
術云下ノ圖を往々初卷ノ述ぶと。先本座ヲ選ビ目的ヲ定め。本座より目的までの里町ハ大槩幾程なるかと先量し。先量しハ空の目づより外云。其遠近ハ應じて假し開除の地ヲ求め。其法ハ一ノ初卷ノ法也。開除の作法ハ畧古法の。かこはぶとくは始計。始計ハ本座ヲ選ビ目的ヲ定め。開地ヲ求る。類ひさる。

量地指南卷之二

盤方居る以前の法云。の作法
 以下皆是よりぬるの作法
 采心く整正ひてのち。①本座
 盤方方正居。盤北比此と。
 盤東比左と。盤西比右と。定規を
 とし。每術こゆるおれ。定規を
 とし。定規ハ見込見通再見見返
 盤東より正し目的見込
 其盤方揺るぬやうに居置
 見通の法おろすまじ。本座の盤方
 とし。揺るぬる事。每術おれ
 ②始計小く假。右方へ定置
 開地。字をゆり
 正し間數一町を量り。彼方へ
 開印立させ。今こは。圖す。
 今こは。圖す。求程の

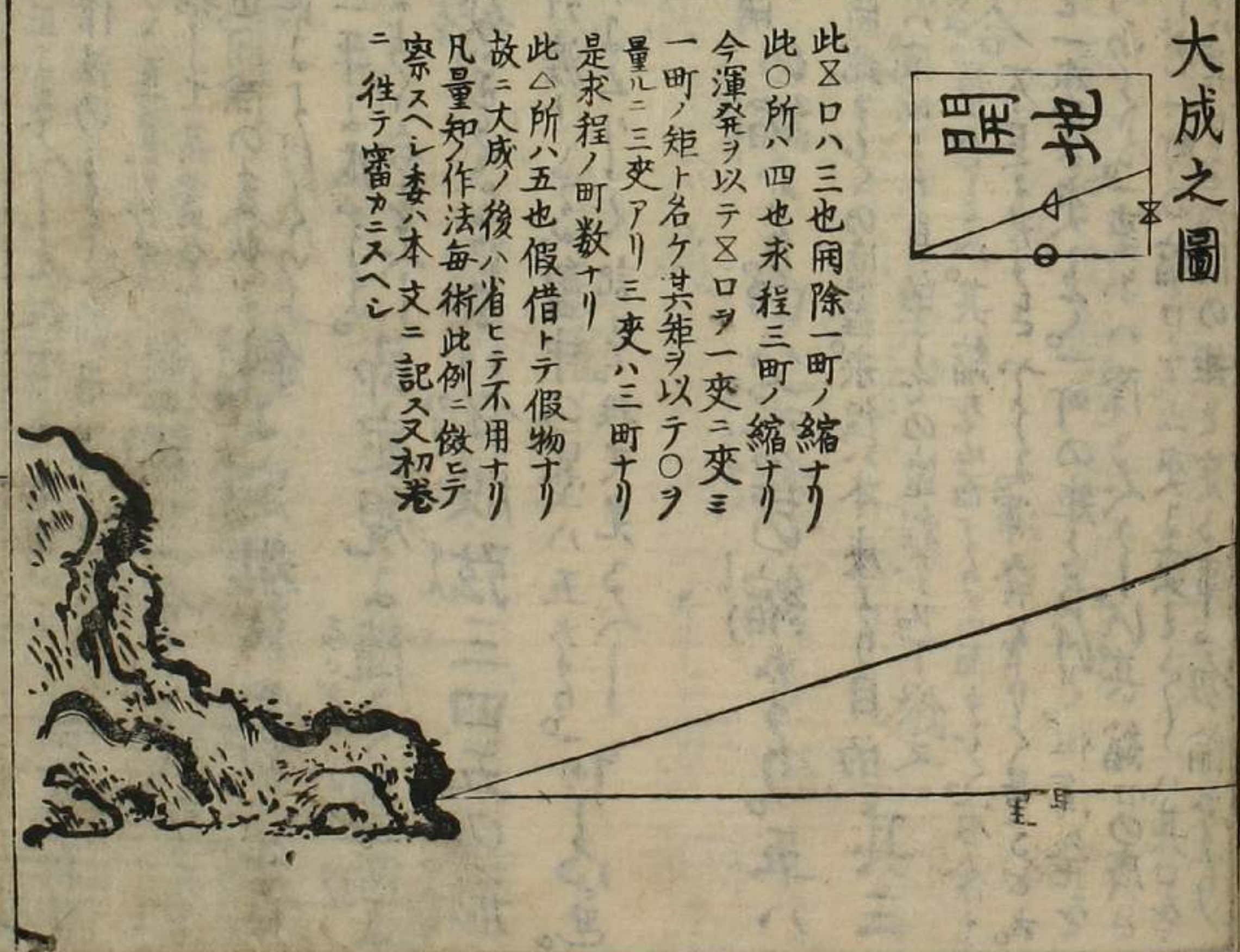


大成之圖



此区ロハ三也用除一町ノ縮ナリ
 此〇所ハ四也求程三町ノ縮ナリ
 今運登ラ以テ区ロヲ一変ニ変ニ
 一町ノ矩ト各ケ共矩ヲ以テ〇ヲ
 量ルニ三変アリ三変ハ三町ナリ
 是求程ノ町數ナリ
 此△所ハ五也假借トテ假物ナリ
 故ニ大成ノ後ハ省ヒテ不用ナリ
 凡量知作法每術此例ニ倣ヒテ
 察スヘシ委ハ本文ニ記ス又初卷
 ニ往テ審カニスヘシ

町數三町のとこハ開除の間數
 六間とす。事古法三十分一ハ
 相叶とす。下は圖す。所ハ
 小畷ろく。其織密。さう
 がく。畧して三分一を用ひ。一町
 の開と定む。往々後章より取と
 見さ。用捨さ。即定規を
 盤北に載正し彼印と見通
 開印と定規と。正し合とこハ
 若不入とこハ。いづくも彼印
 進退せしめて。定規と。然りて
 正し合とこハ。開地へ迂む
 本座に殘印立。開地へ迂む
 本座に殘印を立。事
 每術同。下是倣へ。③開地
 正し定規盤北に載せ
 殘印を再見し。盤方
 正し居。殘印と定規と。合とこハ
 正し居。残印と定規と。合とこハ



幾度も盤は居直して殘印と正まざる。尤此再見の法ハ兩地
 あり。盤は方正は居べき為の作法の^一別用あり。④其再見
 たる盤の^一定置る作法の^一不括して再見ある。盤異は會小^一必しも
 會よまざるハ^一目的の遠近兩除の多少は斜は定規に載て見返
 りて異らざる。爰ハ^一目的の遠近兩除の多少は斜は定規に載て見返
 目的と定規の本と末と三所を一平に成や。即定規は隨て盤面は
 幾たびも定規を置直して目的より合まざるハ^一即定規は隨て盤面は
 墨は引^一盤面は墨は引作法。然るも^一ハ^一鉤股弦三四五の形
 盤北ハ三なり。盤東ハ四なり。今引渡して。盤中の墨ハ五なり。一
 盤面大成と

今現於所の三ハ開除^一右正兩の縮なり。四ハ求程の縮なり。五ハ
 假借の縮なり。開除ハ本座より兩地まざるの遠程。求程ハ本座より目的
 を開除の間數一町は量り合^一量合とは其縮を山より山を量る。右余も
 其法渾又元の口は開さて。此三を一変は変として。一町の矩とらむ。但渾又元を
 持ち。五変は^一十変は^一尤一町の縮口を五変は^一其縮口の廣さ
 十二間の矩と定め。十変は^一其口を六間の矩と定む事。勿論なり

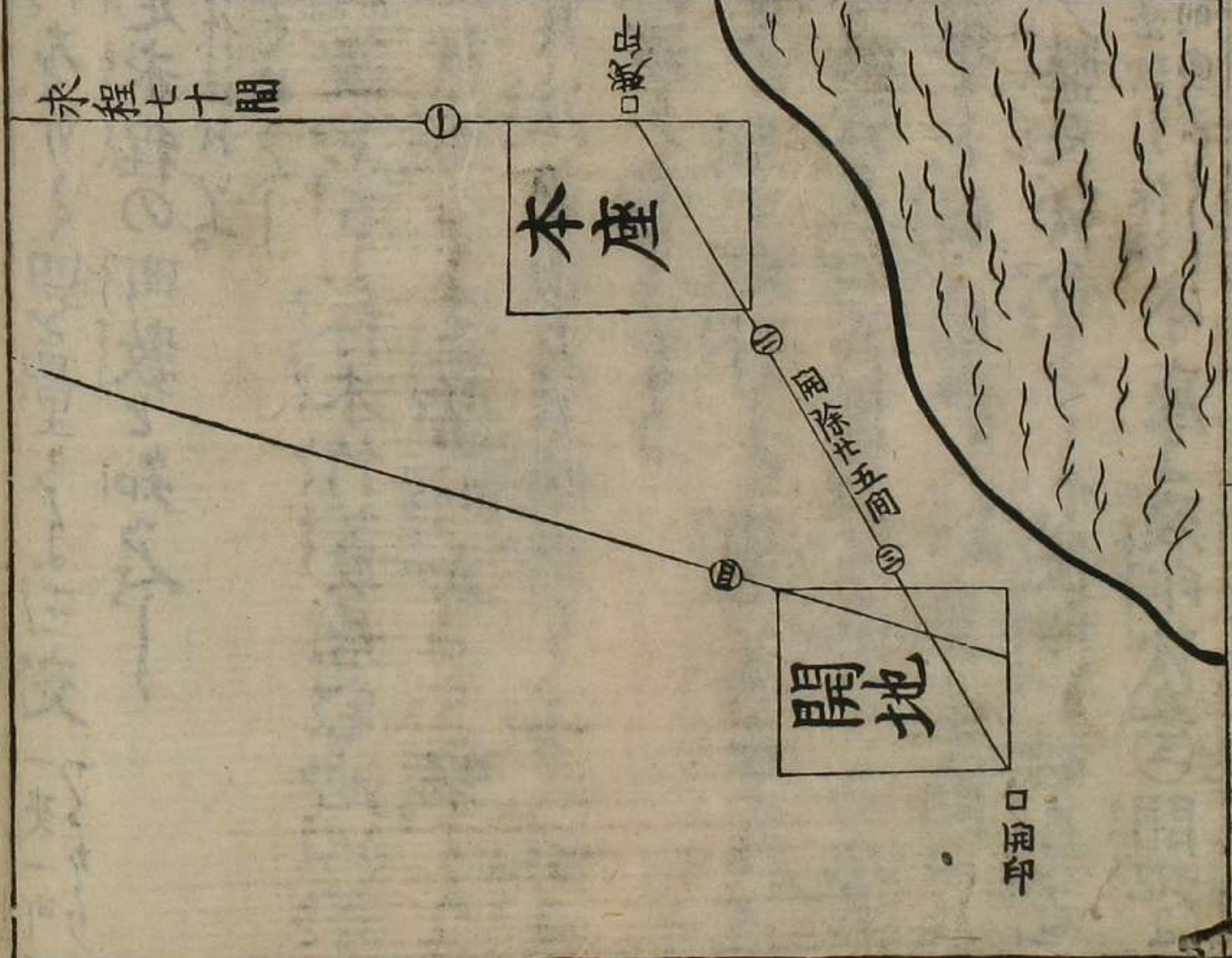
其矩^一其矩ハ渾又元なり。三を^一をの^一四を量る。三変^一一変一町
 あり。三変ハ即三町なり。是求程の町數と知るべし

左右斜開方^一爰ハ左斜開の作法なり。右斜開も是より悟るべし

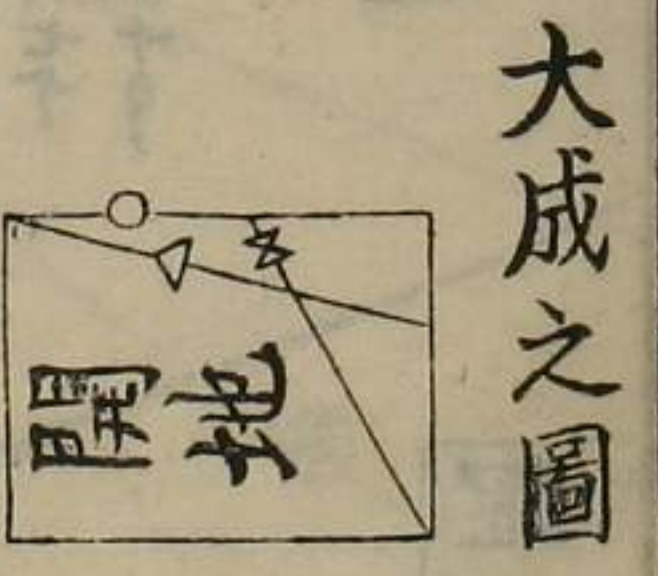
此術ハ本座の地形前後左右は林木竹叢居宅池沼等
 一のこの障りあり。開地は求るは正當叶かこる取あり。
 遠程は量るは用也。其法前後左右順路なる方へ好小
 由り。斜當は開地は求る量るなり

術云^一下は高まれば作法れごとく品々始計して後①本座ハ盤は
 方正は居盤西より正は目的は見込。其盤は不揺や。小居置
 ②假は左方の^一定置るは開地。斜は間數を^一量りて開印は
 立させ。即盤西の中程より盤良は會小して。彼印を斜は見通
 定規は隨て墨は引^一墨は引作法。前の^一本座は殘印は立③開地は

いづりて。本座を引く。盤面の墨を定規とて。殘印を再見して盤を方正に居。盤面の墨と殘印と。一盤を直して方正に。幾度も居る事。前のこと。④其盤北より盤坤を會小して斜に目的を見返。定規を隨ひて黒を引然るときは斜に三四五の形。盤西より盤坤へ現きこと。用也。盤北より盤乾へ現きこと。用也。斜は不用。今現るを取れ。三八開除



左斜開の縮なり。四八求程の縮なり。五八假借の縮なり。其三を開除の間數。廿五間。量合。此三を一変。其口は左斜開廿五間ノ縮ナリ。今渾發ヲ開キ此ノ口ヲ廿五間ニ量合其矩ヲモテ此ノ縮ヲ量ルニ二変五分ノ四アリ本文ニ述ル如ク二変五分ノ四八即七十間也。是求程ノ間數ナリ。又此△墨ハ假借トテ假物ナリ。故ニ不用也。彼此ノ作法前術ニ同シ。猶審ナルヲハ初卷ニ記ス考ヘ合スヘシ。

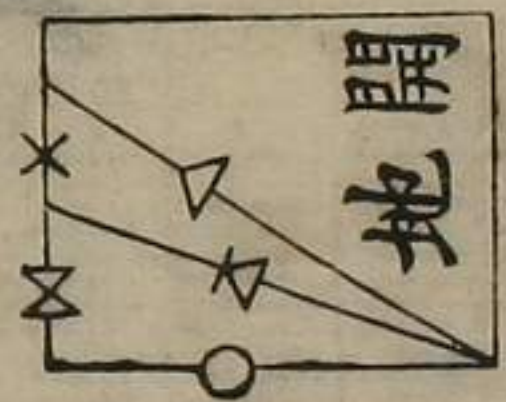


前後當開方

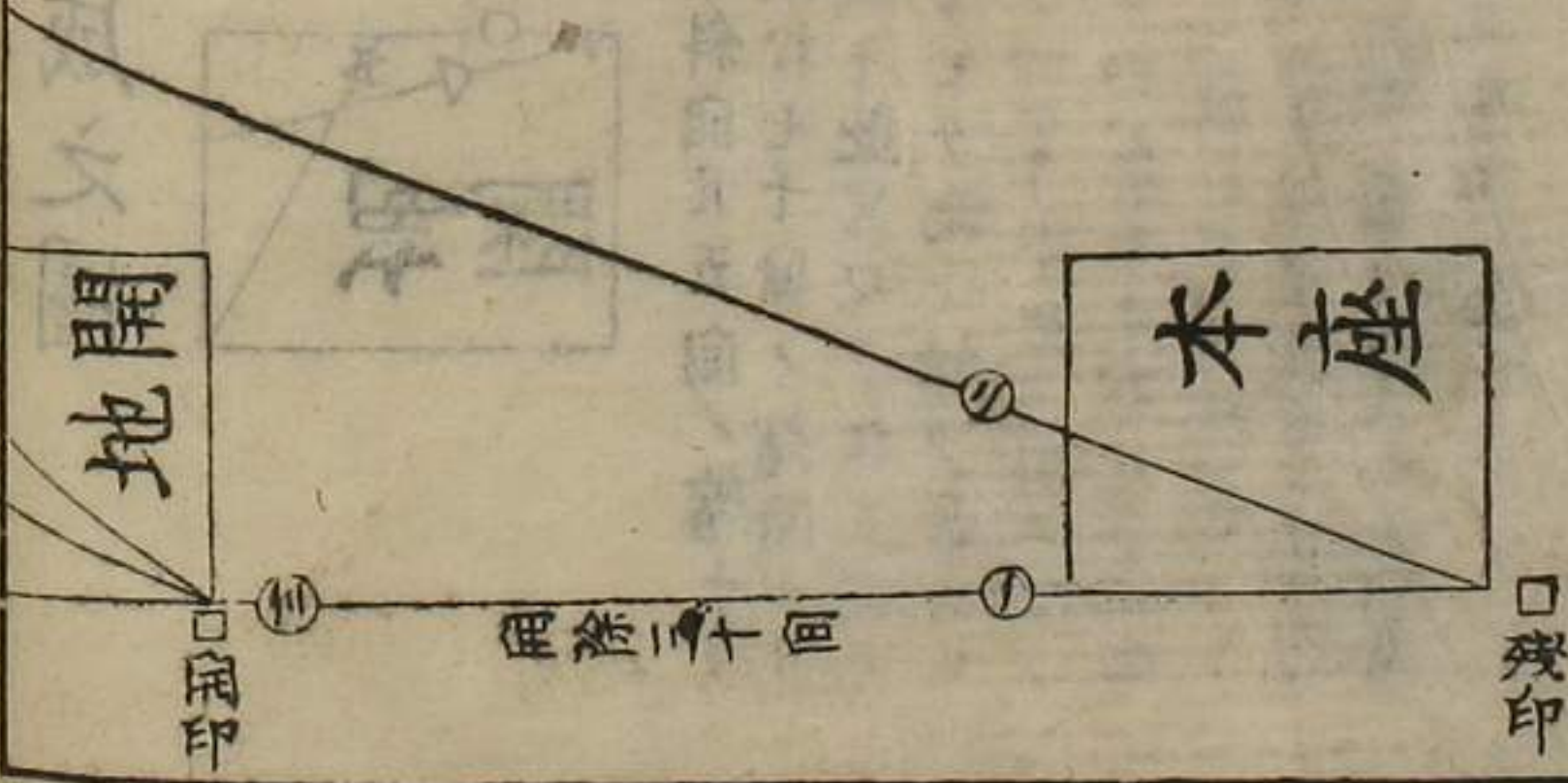
後當開もこれよ
の作法は

此術ハ本座の地形或ハ
畷塘田疇又ハ窄道橋上
等して左右へ正し
斜し開地求が
より遠程を量る用也
其法前後何とへ成
勝手より一方へ正當
進退して開地を求
量るなり但此術ハ目的
の外は假目的と定め其

大成之圖

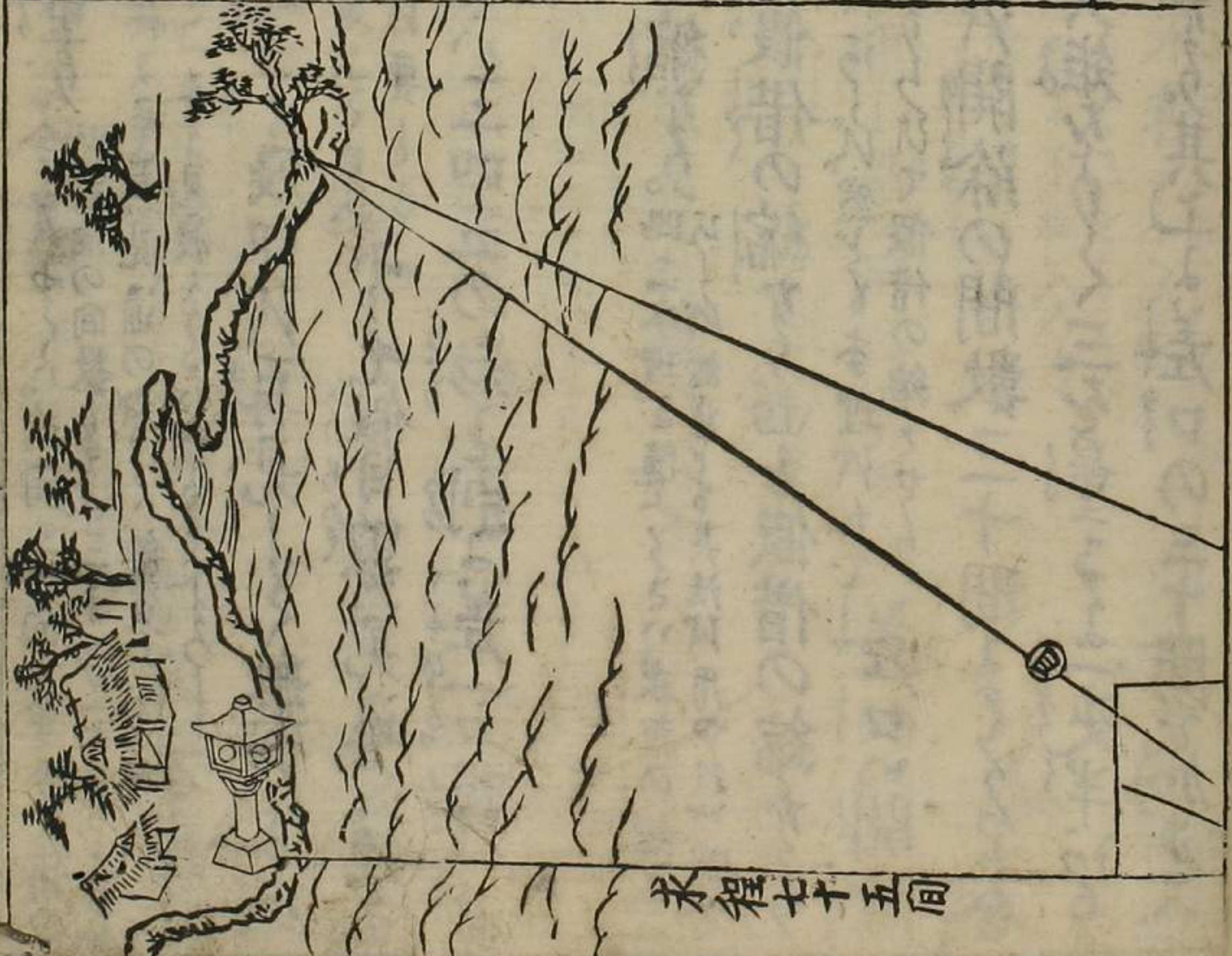


此ハ差也開除間ノ縮也
又ト合メ求程ノ縮トス
此ハ三也ト合メ求程ノ
間数ナリ今渾奈ヲ開キテ
×ロヲ一夾ニ交ミ間ノ
矩ト名ケ其矩ヲ以テ×ロ
ノ量ルニ一夾半アリ一夾
半ハ四十五間ナリ其上へ
×ノ間ヲ加レハ即七十
五間是求程ノ間数ナリ
此ハ四也假借也
此ハ五也假借也
此ハ六也假借也
此ハ七也假借也



兩目的の間の間数と種
々進退の間へ移
量るなり其ハ事
術中ノ記と

術云 下ノ因と云 品々作法の
始計と後 一 本座
盤状方正ノ居 盤東より
正ノ本目的ハ見込 其盤と搖
前ノ事 二 其盤良ハ要
小一定規ハ斜ノ載セテ假
目的ハ見込墨引走
正と不外ヤ 彼方へ竿を



とく何程少くも間敷を量り。今爰ゆくハ。前開三十間を量りて用也。
此前開の間敷を量りて三十分一を去りて
 開印立此時本座の盤の具俣居置見通の心ゆく盤東より本座より
 殘印立本目的と此開印と定規と一平見渡りハ弥ゆく置一平見渡りハ弥ゆく
 ③扱開地より迂りて殘印立再見ハ弥ゆくて盤立方正
 小極④盤良法要取初本座より見込少くも假目的の見返定規より
 隨ひて墨引然るとととハ三四五の形と別は差一口現ハ弥ゆくす
 即盤面大成と

今現ゆ所の三の求程の縮なり。此三本理に隨ふととハ求程の縮小ハ
其術鬻るる故今畧法ハ五の假借の縮なり。四も假借の縮なり
四も本理をゆふととハ假借ハ何ゆハ然ども本理ハ差口の開除
それ其術鬻るるゆハ畧法ハ何ゆハ假借の縮とせり
 前當開三十間の縮なり。其差口ハ開除の間敷三十間より合
 渾糸をゆく此差口を二変ハ其矩をゆく三を量るよ一変半より
 夾ハ其口ハ三十間の矩とと其矩をゆく三を量るよ一変半より
 一変半間一変半ハ四十五間なり。其上ハ差口の三十間を加ふハ

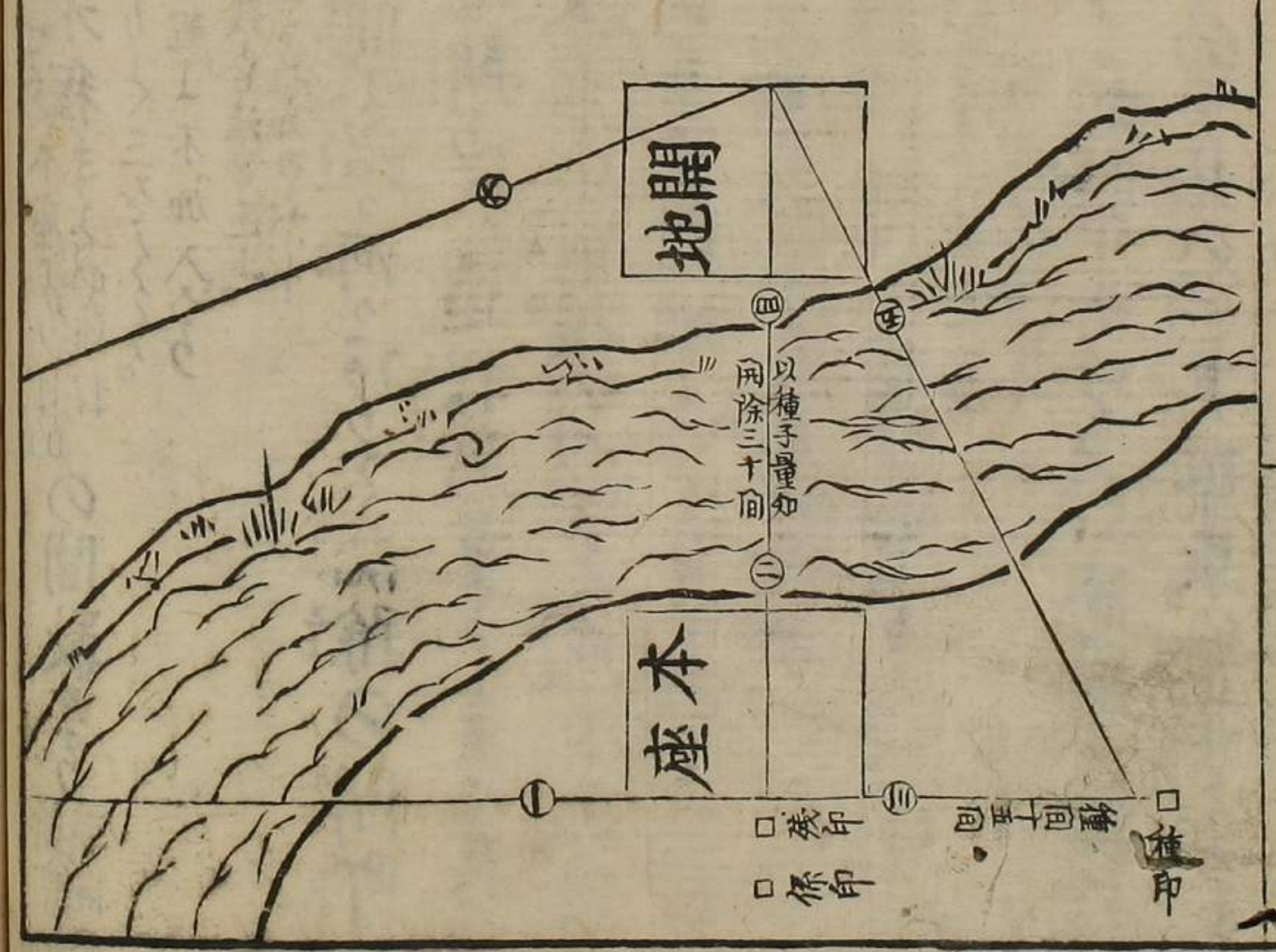
都合七十五間なり。是即求程本座より目的の間敷なり前開の

作法なり。後開の量法ハ差口ハ何ゆハ三をゆく
 即是次求程と。差口をハ其遠程ハ不加入り
 殘子一開方爰ハ後種ハ殘と法と推知とと

此術ハ本座と開地との間ハ沼河より開除の間所
 幾許もゆくが場所少く遠程ハ量る用也。其法
 開除の間敷ハ應じて本座の前後ハつと成とと。正當
 間敷ハ定め種印立置開地よりゆく時此種の
 印立見返てもハ開除の間敷ハ量知種印立開とるハ
開地の間敷を知ら
 然してのら其求程本座より目的を量り知るなり開除の間ハ
沼河より

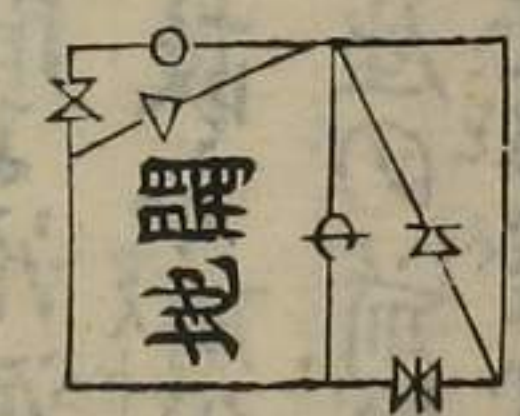
術云下二圖より作法のごとく始計してのら①本座ハ盤立
 方正ハ居盤東より正目的を見込②其盤東の正中より

とこ一下方少く正開地
 右の方を見通 此開地の印ハ
 右あり 何れも其地は
 有合する品物用へ。若其品
 物ハ本座係印ハ残じへ
 定規は随て墨を引三
 間數は定十五向本座の後小
 正種印は立よ也 此種印ハ
 本座の前
 立ても其術ハ本座より
 種印すくの向數ハ大旨開除の向
 數ハ空眼よりつりて半分り又ハ
 三分一やど用事よつと云
 本座より此印を立亦正
 見込然しそのら残印を立
 開地の印よりハ 四開地に移り
 係印を立べ 四開地に移り
 盤中より引て墨を定規を



當殘印は再見して盤は居
 五其殘印は再見して盤は居
 盤西の墨乃端を要して
 種印は見返墨は引六又
 同取は要ふれ目的は
 見返墨は引然と時ハ
 盤東と盤西と上下兩取
 三四五の加つりつり
 盤面大成と
 今現る所の盤東の三四
 五ハ本座開地種印の縮形
 かり其三を種間 本座と種印
 の間の向數

大成之圖



此五ハ種向十五向ノ縮ロナリ
 此ハ求ル所ノ開除ノ向數ナリ
 此ハ種子ノ假借ナリ又ノロラ
 以テハ量ルニ二変アリ二変
 ハ即三十向也是求ル所ノ開除
 ノ向數ナリ
 扱此ハ八開除三十向ノ縮ロナリ
 此ハ求程七十五向ノ縮ロナリ
 此ハ假借ノ縮ロナリ又ノロラ
 開除ノ三十向ニ量合其矩ニテ
 ○ノロラ量ルニ二変半アリ二変
 半ハ即七十五向ナリ是求程ノ
 向數ナリ猶巨多ノ前術ニ依テ
 推知スヘシ



求程七十五向

の間數十五間量其矩此矩種間の間數十五間の矩なり是ハ開除の間數を和し其四以量るる二変りり二変ハ即三十間是開除の間數なり
此三十間と本場の三の縮口は名もて量合なり 盤西の三四五本座目的開地乃縮形あり其三以種の為量知る開除の間數三十間より合量得る向數より合を合と成なり 其矩 盤西の三以一変一変を和し其四 求程の縮口なりと量るる二変半より一変亦向二変半ハ即七十五間なり是求程の間數なり

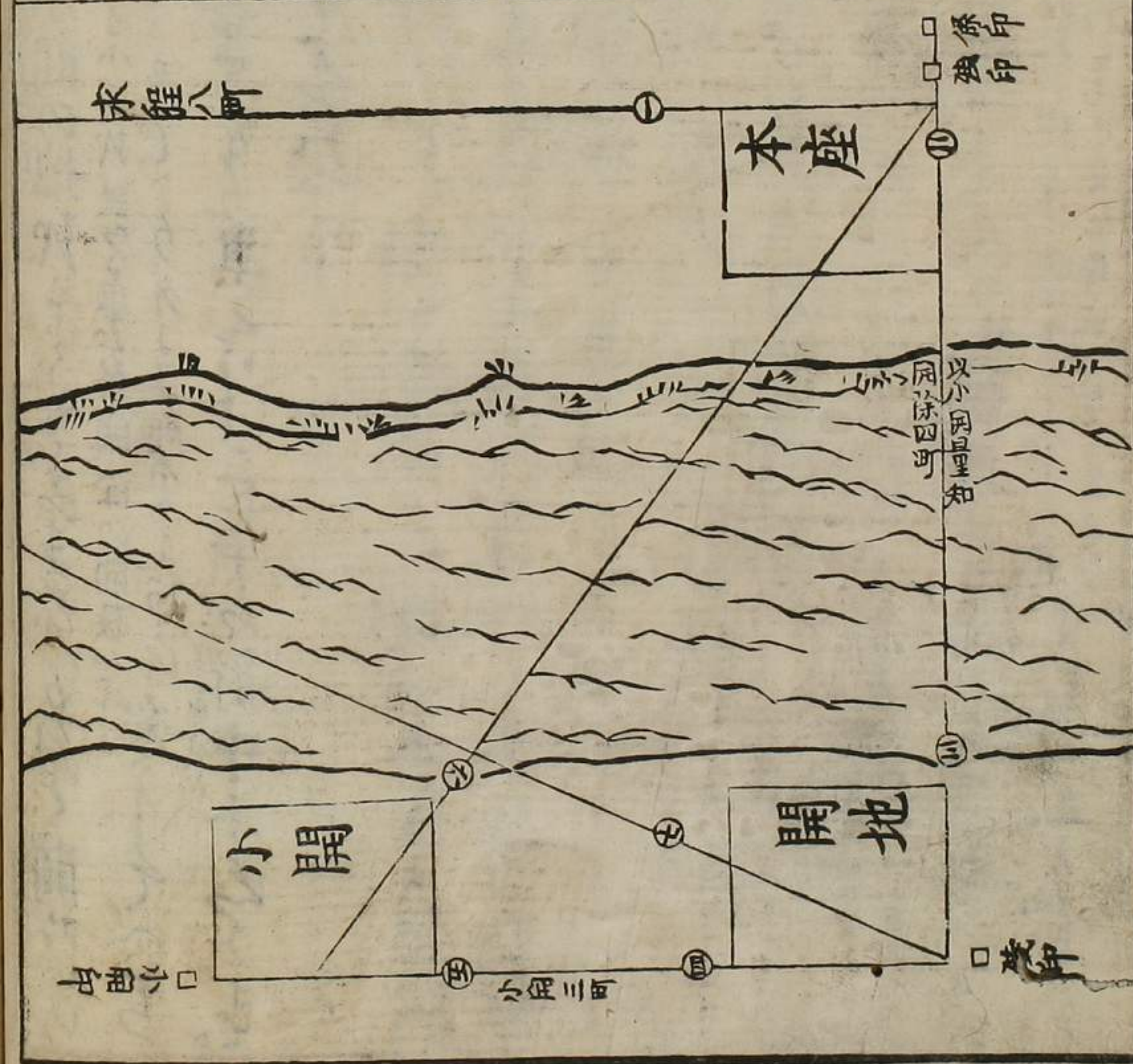
正當兩開方

此術ハ本座と開地との間ハ沼河田畑など有りて開除の間數幾許とを量り故に前術の如く種印以残して開除へことすとも本座の前後もまこと數多障有りて其事成がこと取有り遠程以量るる用也其法開地の外ハ又正當ハ小開の地以ともまこと開除の間數以量り別ハ小開の設る事ハ開除の間數を量る為の事なり外ハ子細有る事ハ然るるのち 其遠程以求め量るなり其より一三事々術中おとるまこと猶又圖と按しておとるべし

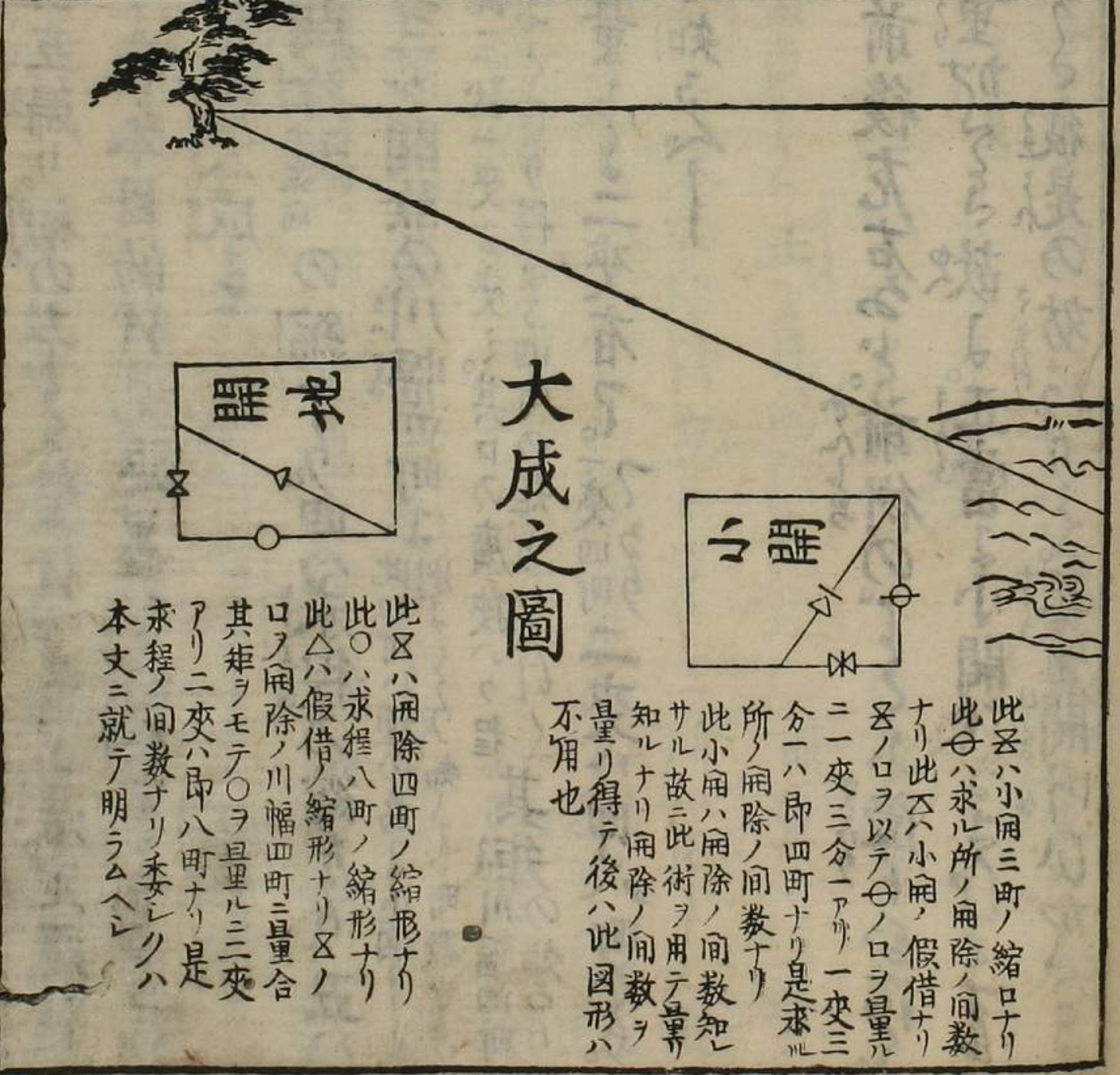
術云下は図を以て作法はごとく品々始計して後一 本座は盤以方正は居盤西より正は目的を見込 二例の如く本座は殘印此殘印の立やうもを立其印より五七間を除いて正は係印此係印と係印との間數果はを立此二本の印正は不合時々開地の正當より猶多少の心得有へしを立此二本の印正は不合時々開地の正當より猶多少の心得有へし 定りがごとく尤念以入るを置るなり

開地の印以見通ごとく本座の盤本座少く目的を見込少く彼二本の印と盤面の定規と三所一正は見渡此見渡即見通 三開地より盤以假は居る盤北より彼二本の印と三取一正は再見一二本の印以一本は見ゆる事なりより正は合せ

盤方正極④
然して其盤の彼方
正面は小開の地状
求め。前當用
三十向印を立
用地の印より小開の印
まぐ。同繩同竿を用ひて
何やいも回数定む
べし。大躰其回数ハ本用
の半分。三分一程
を其法とるべし。開地
より正は是を見通
⑤ 扱小開の地は迂り
盤状居る開地印を
再見し。開地印ハ残印
として再見と
⑥ 又盤面は定規と



載て本座の残印状
見返墨引引爰り
おのく種の三四五の
形現る。三ハ小開
の縮なり。四ハ本開
の縮なり。此三と小開
の三町は量合其矩
小開の町数
三町の矩
量より一夾三分一
あり。二夾ハ三町より
三分一ハ二町より
開除の川幅四町と
量知。此四町を後の三
量知。縮口よりさげく



⑦然して後開地は立歸り。初のおとく盤は方正居。定規は斜に載せやく盤良より本目的は見返墨を引然とるとさし三四五の形現は盤面大成と

今現る所の二八開除左正用の縮なり。四八求程の縮なり。五八假借の縮なり。其三を開除の川幅四町此四町ハ種の為ノ小開一ニ別ヨク知ル町数ナリ量合渾奈存カク此三ハ一変ニ変ニ其口の廣狭ハ程成とも種の四ハく量り得る四町の矩となづく其矩の矩なり。是求程の間數と知るべし

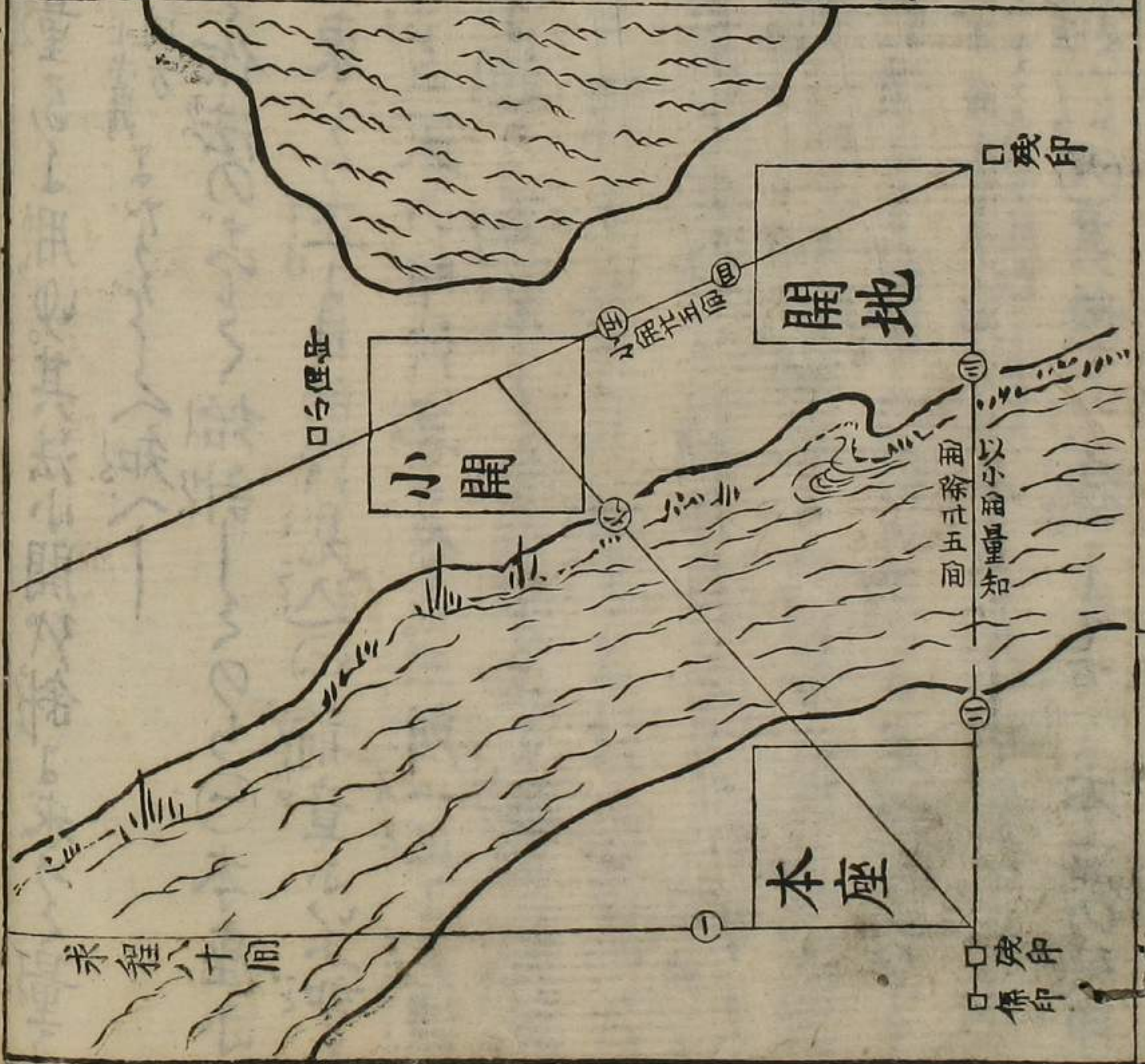
正斜兩開方

此術は本座の前後左右など前術のごとく不障りおぼく開除の間數量がごとく故は正當は小開はさしびとすとどと。其地もさして彼是の妨はりり。正當開叶はがごとく

取より遠程は量るは用ゆ。其法小開は斜に求り量るなり。大畧前術正當用方よたごごとく知べし

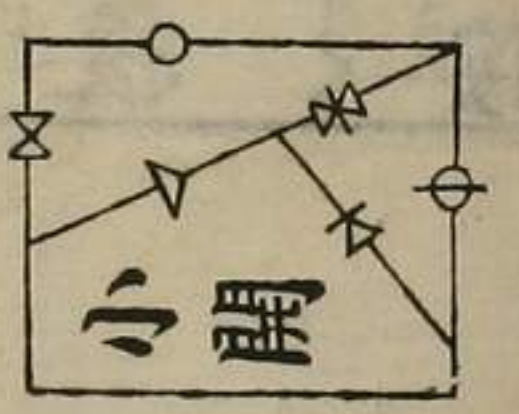
術云下は因とされ取をり云品々作法のざとく始計はのり①本座小盤は方正居。盤東より正目的は見込②前章ふよ如く其所は残印と係印と二本の印は立させ。三所一正見渡是見通の③扱開地は迂り。再見は盤は方正極④盤乾を要しして斜は本目的は見返。定規は隨墨は引其墨は條理ふして彼方へ間數を定斜は小開印は立させ正は小開を求る事⑤即小開の地は引渡り。開地は引渡り。盤中の斜の墨は定規を以て。開地の殘印此殘印ハ本座より見通るを再見して盤を正し居又此取は本目的を見返する今殘印とらるを再見して。盤を正し居。又此取は本目的を見返する。⑥其盤を不揺して直は本座の殘印

を見返。定規は随て墨坎引。然るもことい盤の南北兩所は三四五の形はくま盤面大成と今現る取の盤北の三四五は本座開地小開の縮形なり。其三を小開の間數二十五間は量合其矩を其四を量るよ一変と五分の二あり。一変ハ北五間



五分ニハ即開除の間十間なり。數三十五間と量知此三十五間を後の三の縮口よりかく。其矩は開除の川幅を量合の作法。往々前術は述る取は准して知を其矩は開除の川幅を量るよ。二変と七分の二あり。二変ハ七分ニハ二変七分ニハ十間なり。即八十間なり。是求程の間數あり

大成之圖

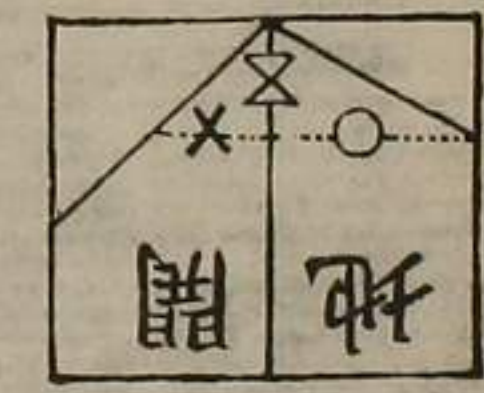


此は小開北五間ノ縮口ナリ此ハ求ル所ノ開除ノ間數ナリ此ハ小開ノ假借ナリ又ノロラ以テ母ヲ量ルニ一変五分ノ二有リ一変五分ノ二ハ即北五間ナリ是求ル所ノ開除ノ間數ナリ此ハ開除北五間ノ縮口ナリ此ハ求程八十間ノ縮口ナリ此ハ假借ノ縮口ナリ又ノロラ開除ノ北五間ニ量合其矩ヲ以テノロラ量ルニ二変七分ノ二アリ二変七分ニハ即八十間ナリ是求程ノ間數ナリ猶又本文ニ考合スヘシ



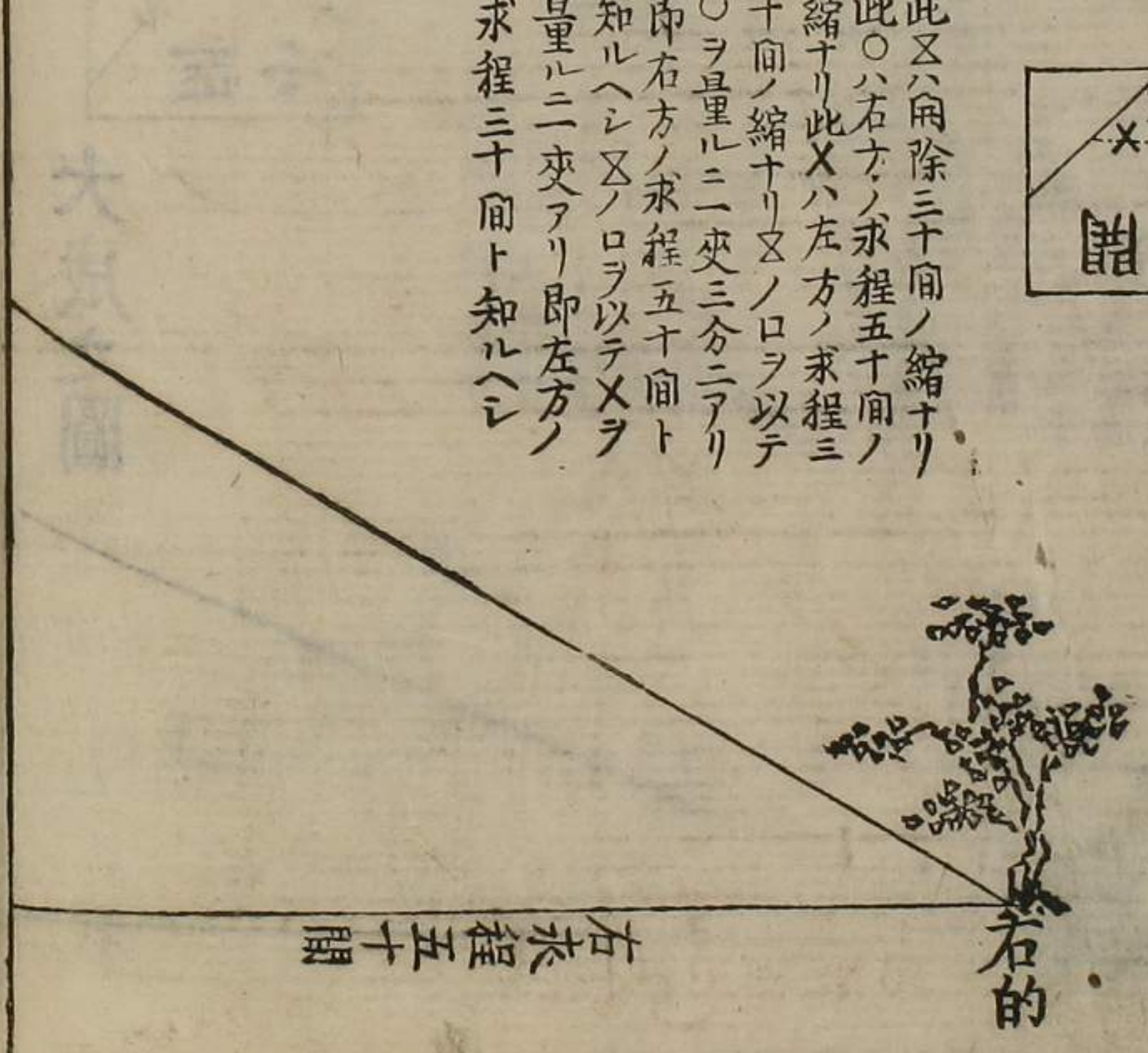
兩知一開方 量る法なり

前後を量るも
其術らおゆ
此術ハ今此所よりして
或ハ左右の遠程を量
或ハ前後の遠程ヲ知
むと欲するも一術を
とらふ兩旁の求程を
一同に量知る小用也
其法本座於正中
敷く左右も前後
少くも心よはる粉を
量るなり。猶又圖を按



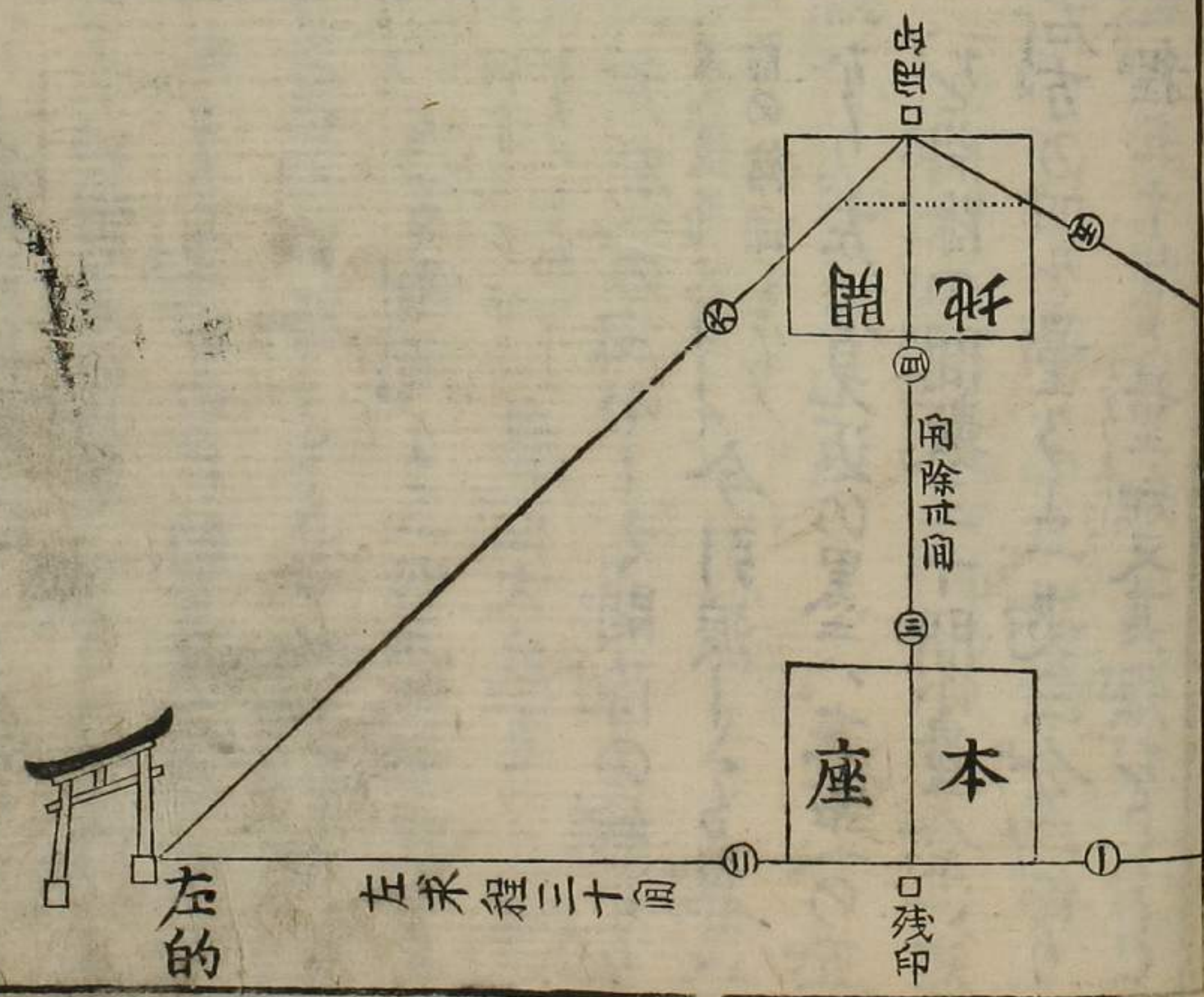
大成之圖

此区ハ兩除三十間ノ縮ナリ
此ハ右方ノ求程五十間ノ
縮ナリ此ハ左方ノ求程三
十間ノ縮ナリ又ノロヲ以テ
○ヲ量ルニ一丈三分ニアリ
即右方ノ求程五十間ト
知ルヘシ又ノロヲ以テ×ヲ
量ルニ一丈アリ即左方ノ
求程三十間ト知ルヘシ



とらふ工夫とて

術云 下は圖するまが作法の
おとく品を始計してのら
本座は盤於横小方正居
盤南と右より盤北を左より
盤東を彼より盤西を此よりと
盤西より右方の目的を正し
見込ニ同所より左方の目
的を正し見込ニ開除の
間數三十間を定む彼正し
開印於立さ也然して盤の
東西の正中は正横に墨以
引渡し此墨は定規を當て



開印伏見通。本座は殘印伏立置④開地より。殘印を再見して盤伏正居⑤正中の墨の盤東の端を要して右方の目的伏見返墨引⑥同所より左方の目的を見返墨を引

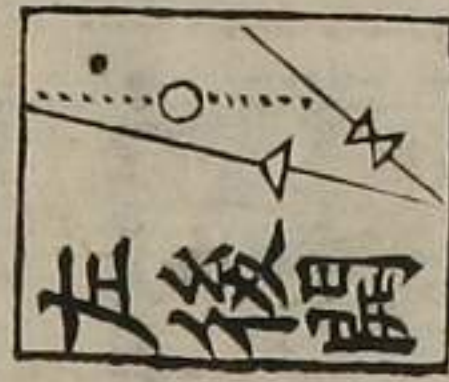
⑦然して割盤法なり。左右の四伏極るところ。割盤法をかく左右の見返の墨を因のこく横界を引。左右兩所は三四五の形現い。左右より。今引渡して界ハ四なり。正中の墨ハ三なり。左右見返の墨ハ五分なり。今引渡して界ハ三なり。今現る所の正中の墨ハ左右への三より開除の縮なり。盤の正中は家初引。今引渡して界ハ四なり。今引渡して界ハ三なり。今現る所の正中の墨ハ左右への三より開除の縮なり。左右への四より求程の縮なり。左右見返の墨ハ左右への五より假借の縮なり。其二三を開除の間數三十間小量合其矩

開除の間數三十間の矩を。左方の四伏量より一変なり。是即左方の遠程三十間なり。爰はおわく左右の求程俱に知る。爰は書中混とる故に其事を省く。或向よる事。

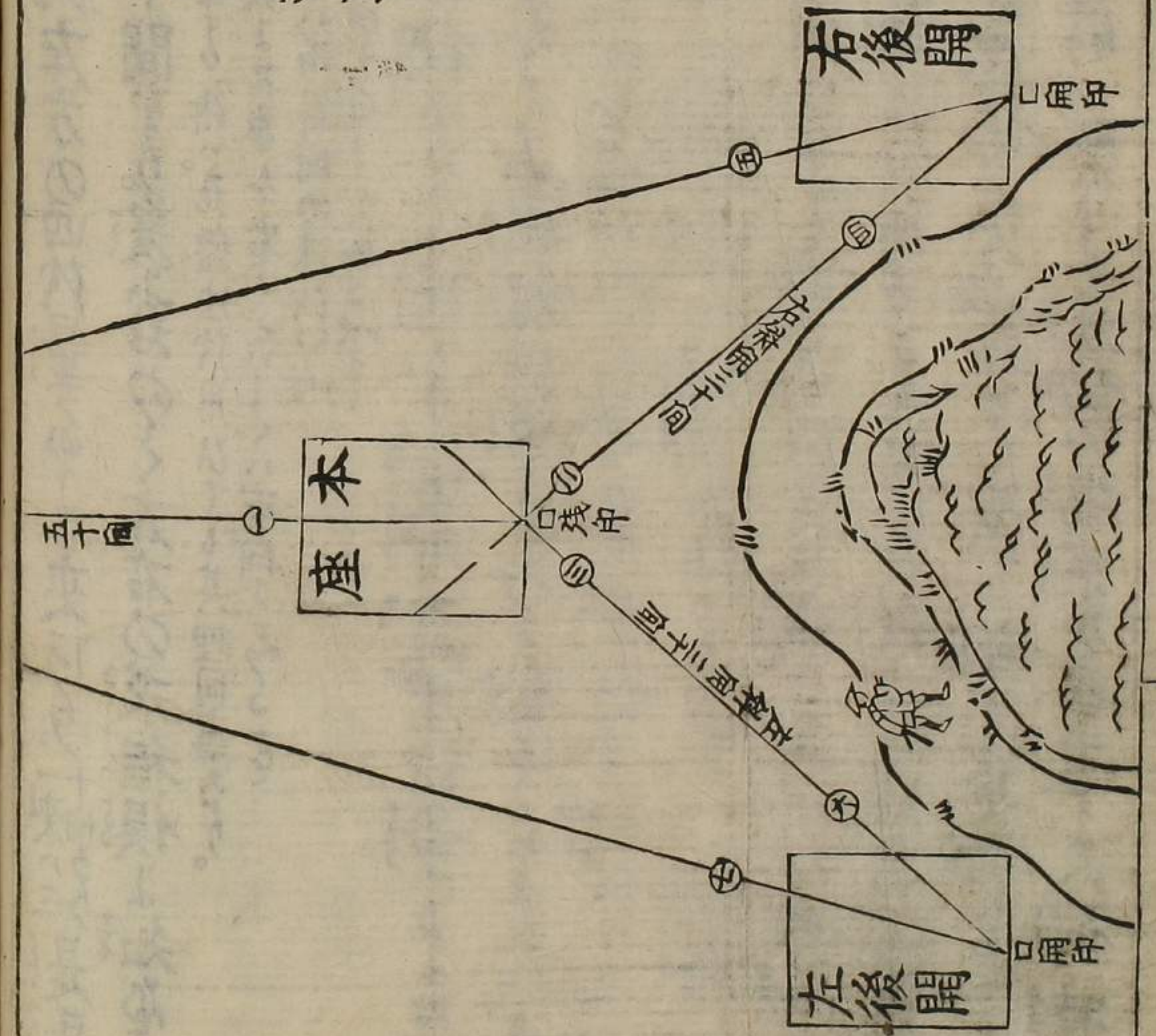
一知雙開方

此術は本座の狭小なる取より遠所遠里の量るに用也。をより一里より遠程の量らむと欲する事。其開除の地徑三町を求むべし。是は三分の一の古法なり。然ども見渡三町の間は全く眼目のほくらりたる場所ハ平陸易地といふも尤すべし。故に狭小の地形にして莫太の遠程の量るは是を佳とす。此術は左右の開除を求め其符節の合せり量る故に事術とて。差異する事。惣して太切の場所を量るは何時と

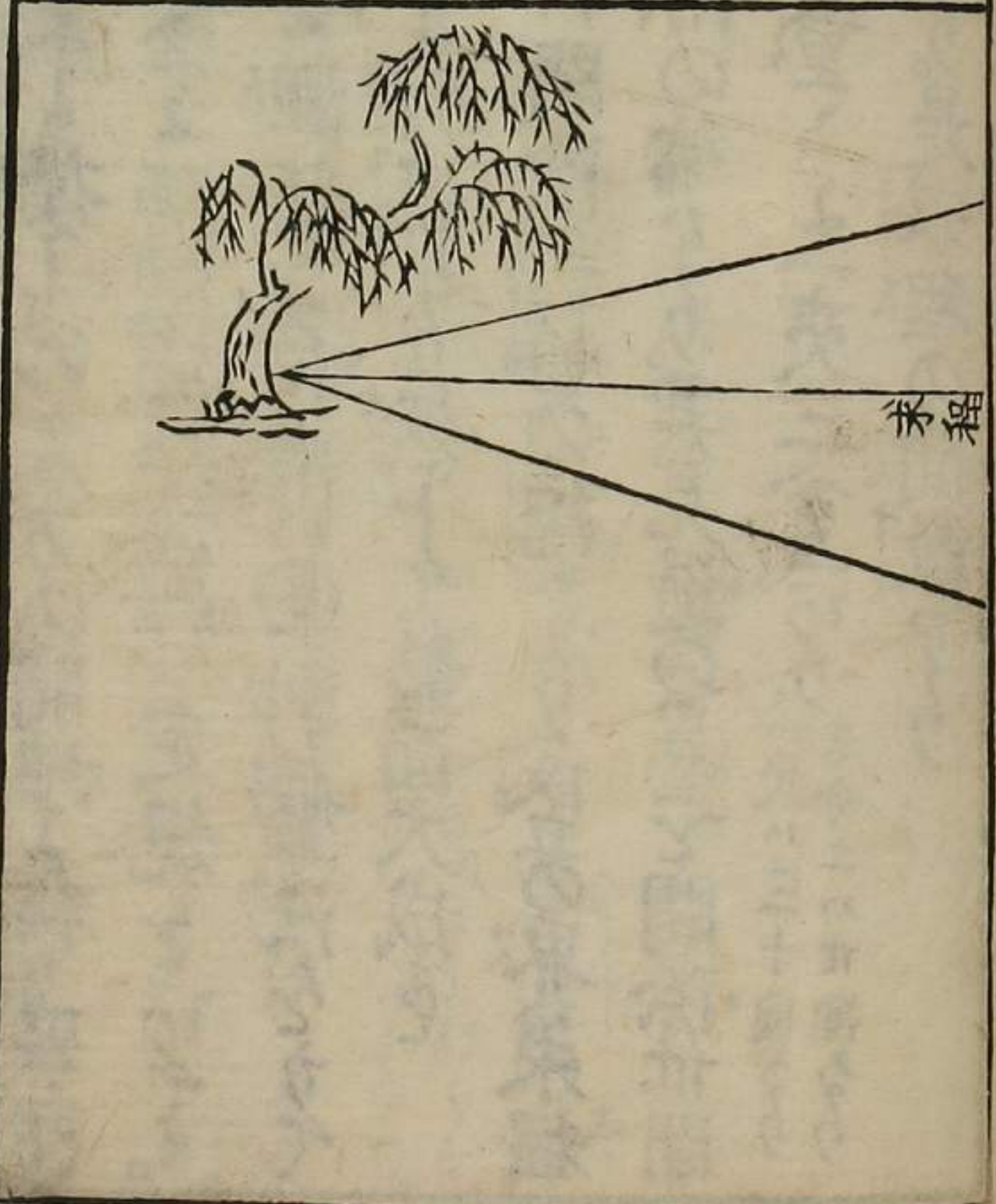
大成之圖



此区ハ兩除三十間ノ縮ナリ
此〇ハ米程五十間ノ縮ナリ
此△ハ假借ノ縮ナリ此区ノ
斜口ヲモツテ此〇ヲ量ルニ
一夾三分ニアリ一夾三分ニ
ハ即五十間ナリ是永程ノ
間敷ナリ知ルヘシ



此法然る處也。又いづれ
の術ゆくと。家初量置
もる法も。眼力のゆや
まり有哉と疑ハレ。事
事等ゆへ。此法をりて
改正まべ。其中否立
ごころ小頭及旁をり
良法と謂べ。



術云 下は因まされ
取れり云 正盤の正中
正盤正立より盤北へ
作法のどとく本座は盤
正座正立より盤北へ
當く正は目的は見込
斜は右後へ間敷
さやく。盤中の墨の盤
北の端を要小して。盤
東より是を見通

③斜左後へ右後と同間、開印を立させ盤中の墨の盤北の端を要ふ。④盤西より是は見通。⑤初右方の開地は遷り、残印は再見して盤を極。⑥其再見の墨は端と要ふ。定規を引て、本目的は見返墨を引然して今見返さる盤西の墨は、毫釐厘も違わぬやうに盤東は摸し。⑦左方の開地は移り、残印を再見して盤を極。⑧其墨は右方の見返の墨は、定規を引て、本目的は見返初左右の墨齧語の時、⑨界割盤法をかりて見返の墨の盤南の端より見通の墨へ正取立界を引渡り。然して盤面大成と今現る所の見通の墨は開除兩斜開三十間の縮なり。堅の界求程の縮なり。見返の墨は假借の縮なり。其見通の墨と開除の間は量合其矩をりく界を量るは一夾三分二なり。一夾ハ三十間より一夾三分二ハ即五十間なり。是求程の間數なり。

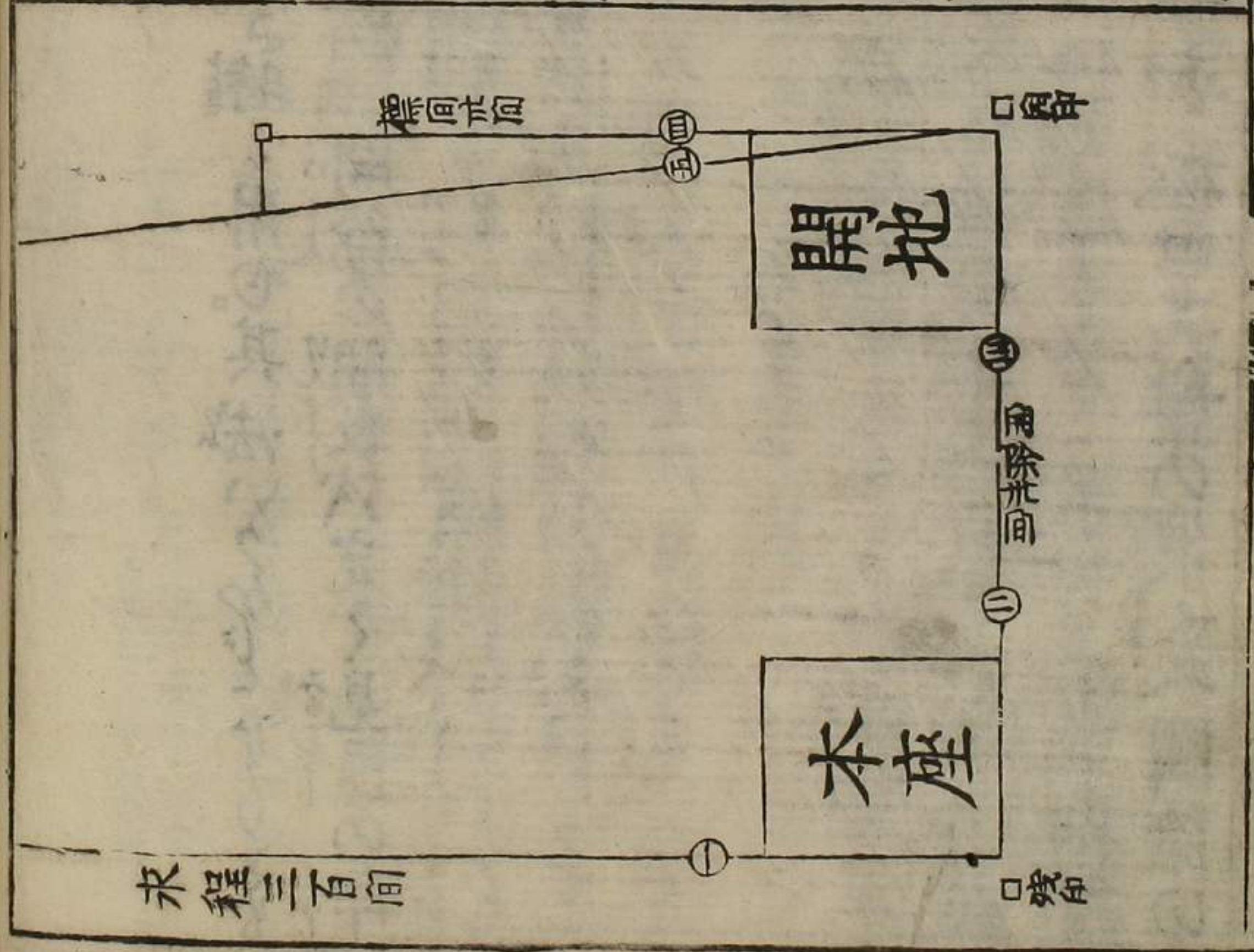
量盤術遠近法下

神速大盤方

此術ハ目的遠く開地少く時、其法いづれどなりとも五間七間より十間十五間乃至二十間、開除の間數は定む見通の印と立其彼方へも開除の同間は、爰より其ヤとさよよつくりたり。間數は定正は合せり標を立。此印自余は用るといふ。是は量るなり。畢竟方面十間九間の大量盤は用ひく。大元方大元方の作法ハ、術を勤るころなり。術云下は國を作法のおとく品々始計しそのち、①本座小盤は方正は居盤東より正は目的は見込。②右方へ正は間數を定。三十間開地は求るこれ見通本座は残印を立。③開地は移り残印は再見して盤は方正は極。④其盤の彼方へ開除の

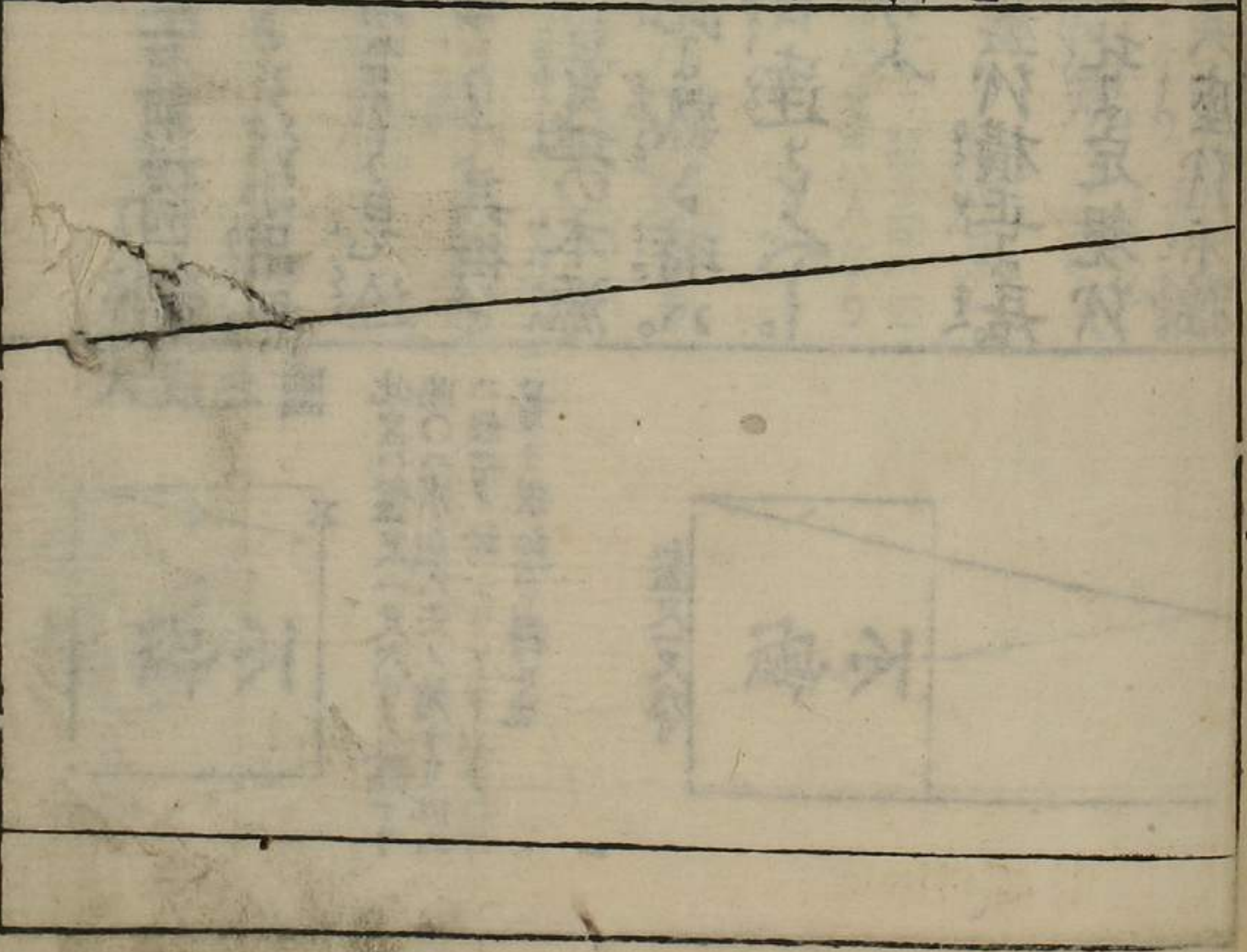
同間は間敷が定開印と正
 は成りて標が立。此印用印と
 正を外さぬ
 やうに。随分念入てまべし。正當
 いさうに置ふとさう大差と成るり。
 標の制作もまご尋常と異るり。櫃を
 かく作る。方面二寸堅長二尺二二寸
 なるり。但地は入やぐり外なり。盤の
 惣尺をわく。此長尺の節と下。下は
 石突有り。頂より五分去く。定規を
 徹を小竅有り。楯作用宜まへ任べし。

○盤乾より小斜を見返時、
 彼標は徹置ゆる定規の
 先は差出して盤面の定規
 と目的と彼標は徹ゆる定規
 の先と三物一正は見渡なり。
 然るもさうとさうハ三四五の形



現る盤面大成。此作法は
 おく。方三十間の大盤めく。右よりの
 大元方を勤るこころ持なり

今現る所の標より差出を
 定規ハ三なり。開地より標
 まぐりの地徑ハ四なり。盤面
 の定規より標の定規の先
 まぐりハ五なり。其三は開除
 の間敷ハ間ハ量合。三の定規と
 三十間の矩
 と名るり。其矩ハとく四ハ
 とくハ小十交有り。一夾三十間
 十交ハ即三百間なり。これ
 求程の間敷なり



規矩大元方

此術四方障礙多し。左右前後四斜の開除との叶ひがこと此小用也。其法本座は不去して居るが見込見通の事だ勤め。盤尺をりて其術を竭せり。抑此法此理の量地の本源。量盤の玄微なり。故に此は熟する時ハ。其他の不學とすとも自達とすべし。此謂は號て大元方といふ。

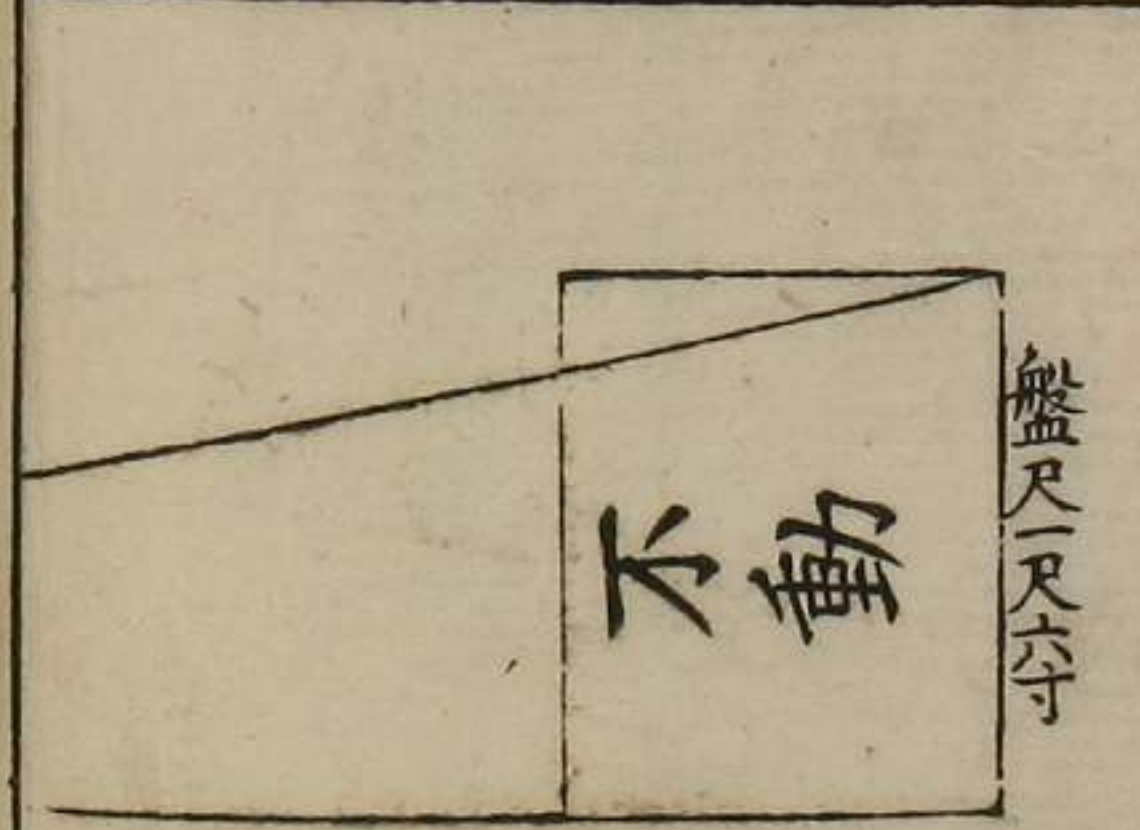
術云 下は図する。すの本座は盤は横正し居。盤南を右とし。盤北を左とし。盤東と彼とし。盤西と此とし。盤北は定規は載て正し目的は見込。次は其座は不揺

を要す。斜は目的は見返。定規は隨く墨は引然る時ハ盤南より盤東へかきとく。三四五の形。盤東ハ三なり。盤南ハ四なり。斜當の墨ハ五なり。今現る所の三八開除一尺六寸は縮る。盤の長尺たより一尺六寸より。其三の縮は一尺六寸の口と名する事。尋常同一ことなり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其三ハ開除の盤尺一尺六寸より量合。其矩盤尺一尺六寸の矩をりて。四と量ると。五十夾有。一夾ハ一尺六寸宛なり。五十夾ハ即八丈なり。是求程の間數と知るべし。

大成之圖



此ハ盤尺一尺六寸ノ縮ナリ。此ハ求程八丈ノ縮ナリ。此ハ假借ノ縮ナリ。此ヲ以テ量リ求程ヲ得ル也。

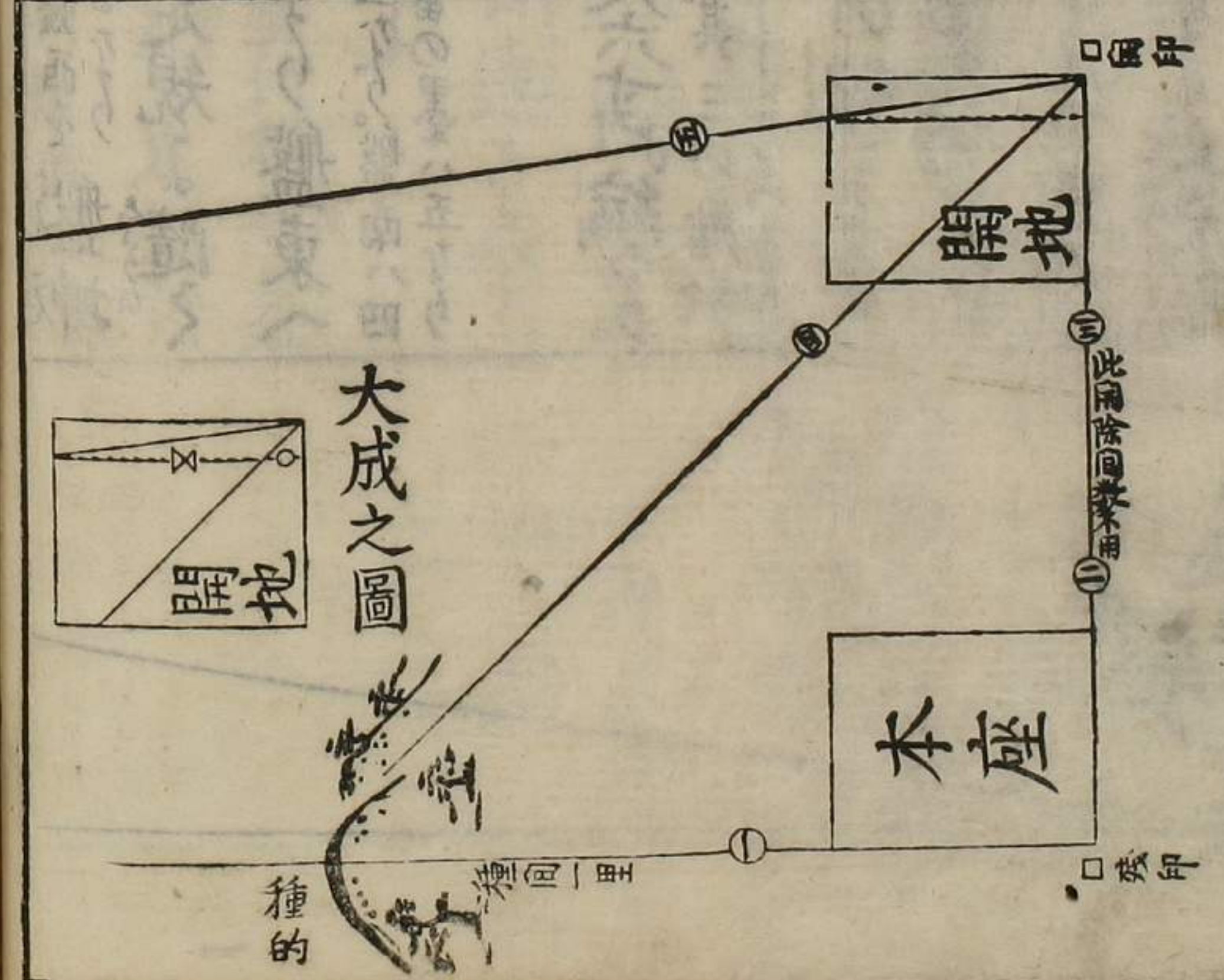


盤尺一尺六寸



幽遠大量方

此術ハ郡郷と累々列國と
 隔々十里廿里乃至卅里
 五十里の遠程丈量に用
 其法種の小目的の設置
 此間數と求程の矩とて
 量知るなり。
 遠程丈量のハ
 其間除一里とて古法は
 叶えりとて一里の間數全
 眼力の所、より地形ハ大國
 の中を稀なるべし。此故に種
 小目的の設置より其間數以即
 間除となりて求程丈量知るなり
 是ハ大量方と號く
 術云 下は圖を先本座より



此ハ種間一里ノ縮ロナリ
 此ハ求程五里半ノ縮ナリ
 ○ヲ以テハ量ルニ五夾半
 アリ五夾半ハ昂五里半ナリ
 是求程ノ間數ナリ委クハ
 本文ニ記ス勘合スヘシ

求程六里半圖

空眼沈りて山頂は目的の決定
 遠里を量るとしては、山頂を目的とし、
 目的ハ山頂に用ひて、
 本目的の此方少く山林なり
 と堂塔なりとも。里町の
 知る種目的の決定。種目的の
 不知ハ其期は臨み、種目的の間數を
 量るなり。今其遠程假一里と定む
 次は左右いづれへ成とも、
 目的の見へ安き方へ開地を
 定め。下は圖を先本座より
 右方へ開くなり。如此は始計
 して後、
 ①本座は盤状方正
 ②居盤東より種目的の
 加むと本目的と正見込其

盤不搖ゆるやうに居置すまひ②右方へ正ただに開除ひらきを求もとめ開印ひらと立たす也。
此兩地の回数ハ求程の種ハ不用なり。故に回数つうめとてくも 盤北よ
くううい。但種目的まくの遠程三十分一とてを節とてくも 盤北よ
定規のりに載のく是こに見通みとお本座もとよ残印のこに立た③開地ひらは後のちに残印
を再見またして盤ばんに方正まに居ま④其盤ばん乾かんと要ひらくして斜しやに種目的
と見返みかへ墨すみに引ひ⑤同所を要ひらくして斜しやに本目的を見返みかへ墨すみに引
界かいを引渡ひきわたると然しからざる時ハ盤面大成と
今現いまに所ところの盤ばん北きたより種目的見返みかへの墨すみまくの界かい種の間數
本座より種目的一里の口なり。種目的見返の墨より本目的見返
まくの遠程より一里の口なり。種目的見返の墨より本目的見返
の墨すみに盤南の留とどまくの界かいハ求程の間數の縮なり。其種界の
縮口ちぢに種の間數一里に量合りやうが。此縮ちぢは一変いちへんに變へんし
の界かいを量りく小五せうご變へん半はんなり。一變いちへん一里五變ごへん半はんハ即五里半なり。

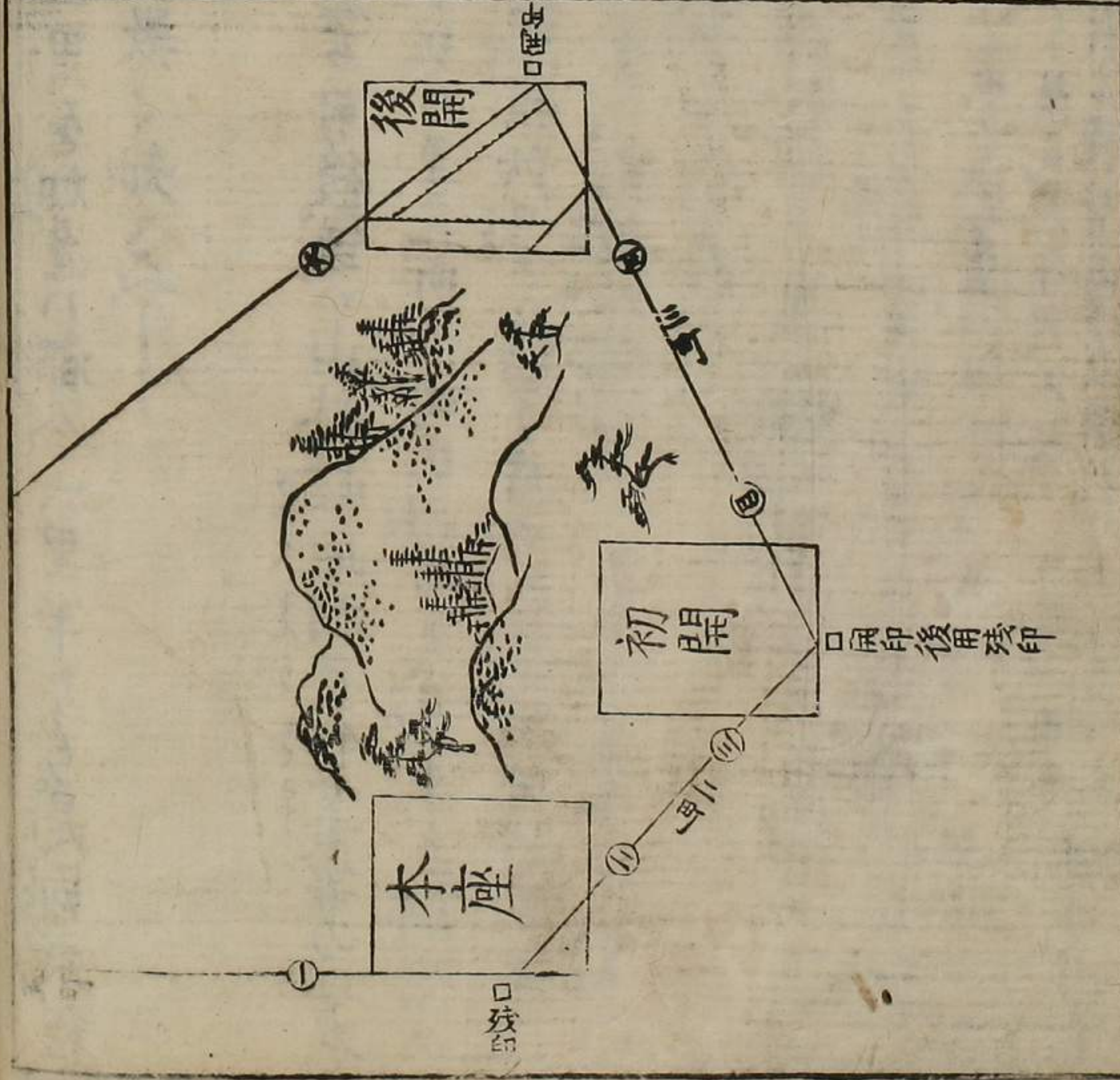
其その上うへに種の間數一里を加くわは都合六里半なり。是即求程
本座より本目的まくの遠程なり の間數と知るべし

二地重開方

此術ハ本座の左右前後。或ハ山林嶮岨村里竹葦叢等の地を
一町二町の間より乃至三町四町の内を。宜よろしき開除の
場ばなを求もとめ遠程に量りる時ハ用也。其法開地ハ兩所よ
累かさを求もとめて量りるなり。尤彼二開方ふたひらとハ其術異なり。未いまにハ
術中じゆちゆうに記しと勤つとまらざらん

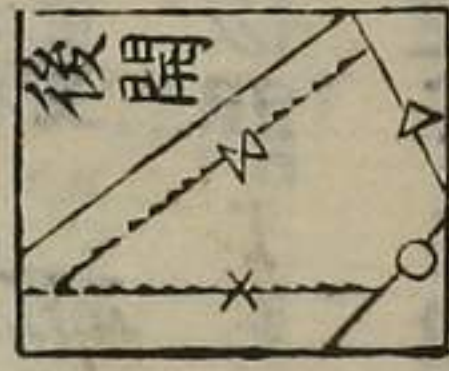
術云 下したに四よは云 作法のおとく品々始計畢てのち①本座よ
盤ばんに方正まに居ま盤東より正ただに目的見返みかへ②右後の方へ斜しやに
間町を定さだめ斜開地を求もとめて見通の印しるしに立た③開除の法りやうとして正ただに
前後左右のよりぬき故ゆゑに是非しぜいに論ろんして斜しやを用也。盤東の中
よとく斜開地よりぬき故ゆゑに是非しぜいに論ろんして斜しやを用也。盤東の中

程より少く下の方
 斜は初開の
 地は見通定規小
 志とくひて墨は引
 本座は残印は立
 ③開地は移る残印
 を再見して盤は
 方正居④右前へ
 斜は間町と定め
 後開の地は求め
 見通の印を立る
 初開の墨は盤北の



山を要小く彼
 見通の印 後開の地の
 用印を以て
 と見通其定規よ
 随くひて墨を引⑤
 後開の地より
 初開の印を殘印小
 なり。初開の見通の印
 爰して殘印とを
 是は再見して盤
 を方正極⑥今
 再見して後開の
 墨の盤西の山を
 要小して本目的を

大成之圖



此○ハ初開二町ノ縮ロナリ
 此△ハ後開三町ノ縮ロナリ
 此×ハ見返假借ノ縮ロナリ
 此×ハ承程五町ノ縮ロナリ
 ○△×等ヲ量リタル矩ヲ以
 テ×ヲ量ルニ五交アリ五交
 ハ即五町也是亦程ノ同數也
 其作法ノ審ナルヲ本文ニ記
 ルス考ヘシ



後開

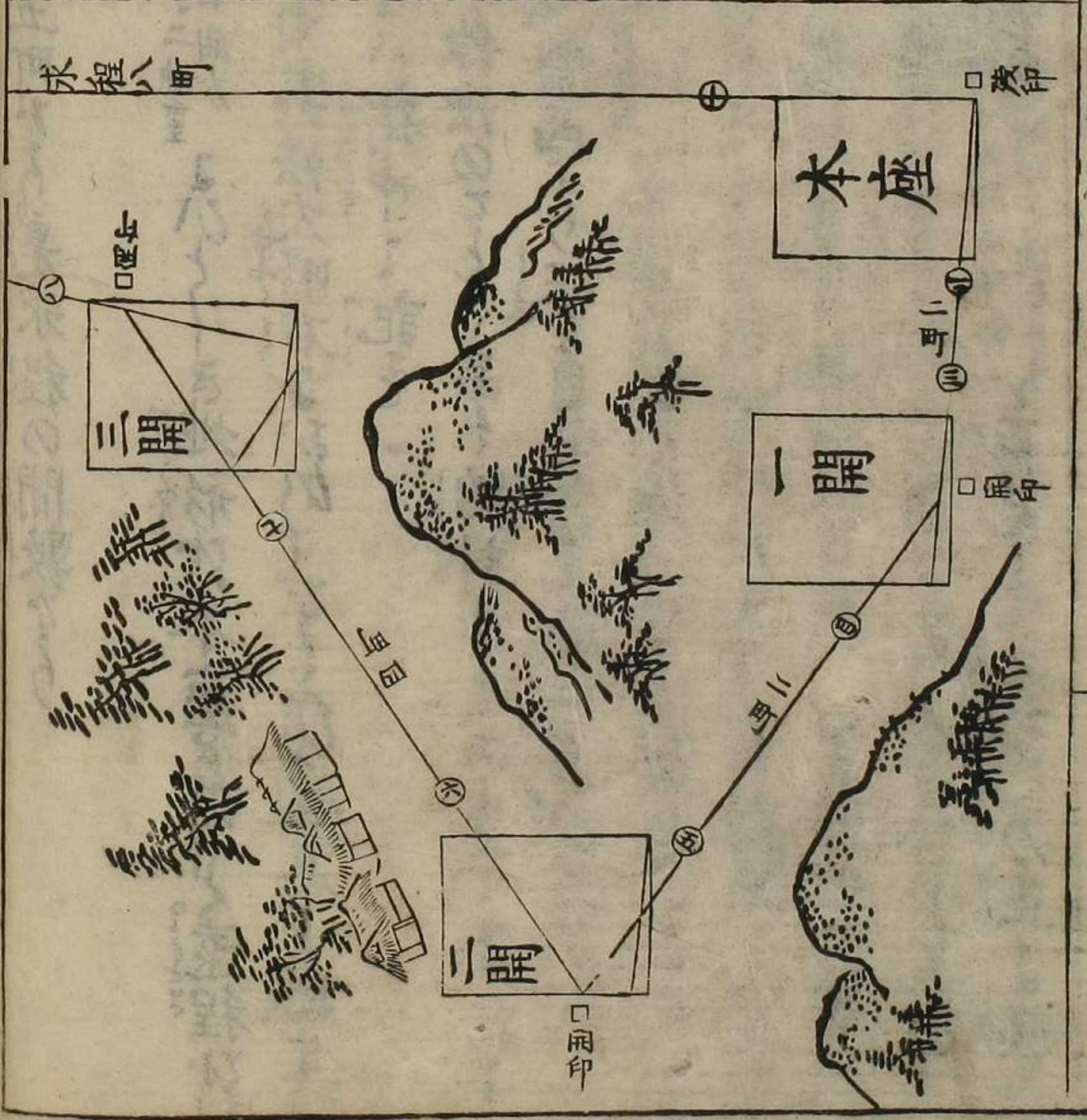
見返墨引界 扱盤法はよく見返の墨乃盤南の留より
 初開の見通の墨すく。南北へ正堅界引渡 此界即求程の縮となる
 其界と墨との會より盤北の要すく。初開の墨と其間數 初開の同數也
 二町量合 會より要すく二夾は夾し合せ 其矩より後開の墨は
 其間數 後開の同數也 三町量取 量取よりつらむと成とも其矩をりて其間數
 其より違つ。混ぶ。其より留より求程の界すく。又斜小
 界を引 此界ハ見返の墨は随ひ曲節 然して盤面大成
 今現れ所の盤良の方の墨は本座より初開より見通二町
 の縮なり。盤乾の方の墨は初開より後開より見通三町の縮
 なり。盤坤の方の界は後開より目的すく見返假借の縮あり。
 盤東の方の界は本座より目的すく見込求程の縮なり。扱
 初の矩 初開後開をりて ちく求程の界を量るよ五変 二変一町
 あり。五変は五町なり。是求程の間數なり

三地重開方

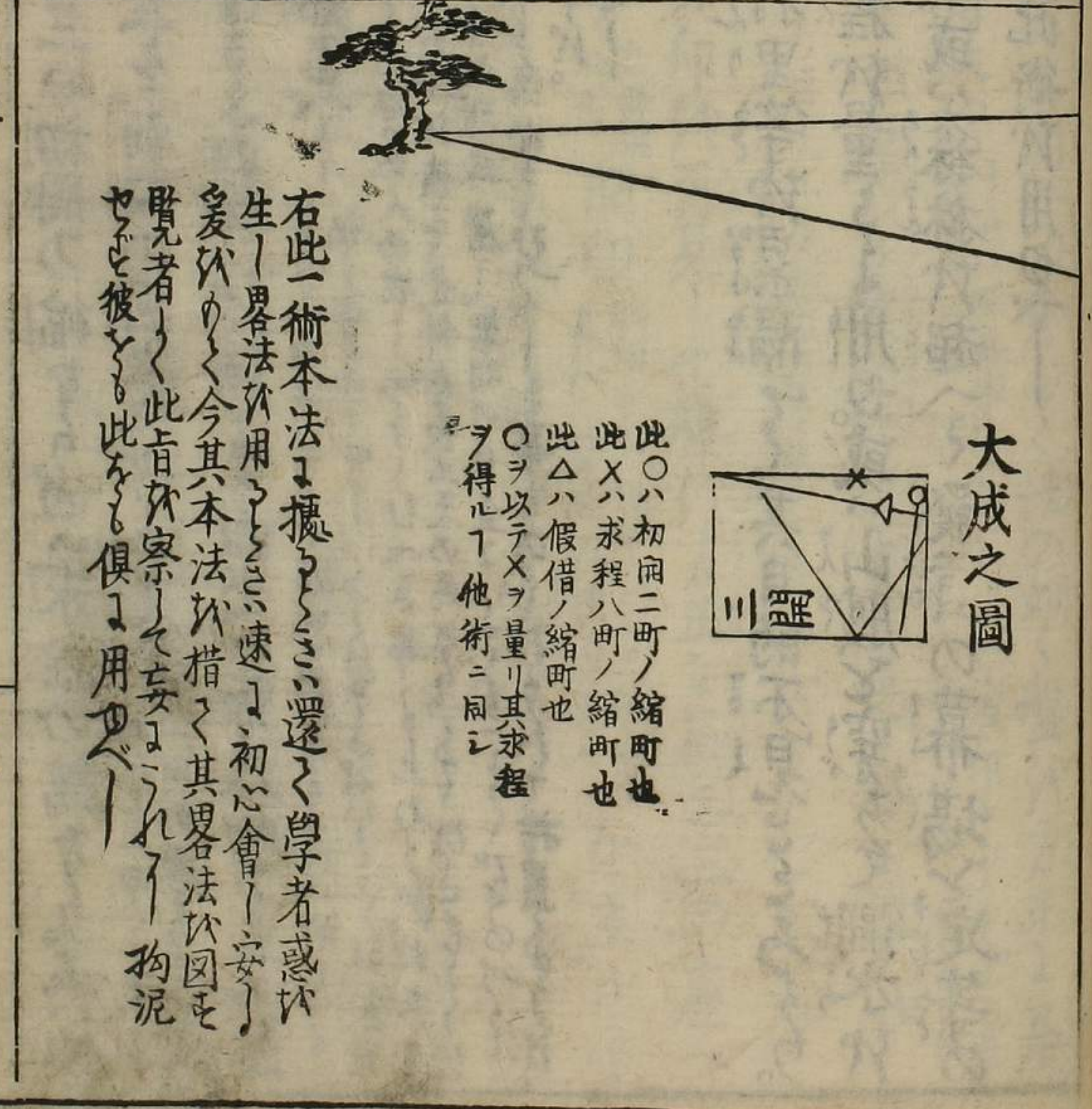
此術も前術 二地重 よいよき地形は本座より遠程は
 量る小用也。其法大略右よおめ。ちくひく知るべし猶其
 審なる事ハ術中よ記す

術云 下は図をり 作法のことく品々始計してのち ①本座は
 盤は方正居。盤西より正目的は見込 ②左前の方へ少
 斜は間數は定 左斜角 見通の印は立す。盤乾よりこれを
 見通。定規は随ひく墨は引。残印は立す ③一の開地は
 殘印は再見して盤は方正極 ④又左前へ斜は間數は定め
 左斜角 三町 開印は立す。盤北の正中程より斜は是は見通墨を引 ⑤
 二の開地は迂り殘印 一町の用印即 と再見して盤は方正極

六 右前へ斜に
間敷決定。右斜用
開印は立一の
開地の残印を
再見しつる墨
の盤東の端を
要小して開印
を見通墨と引
七 三の開地
移り。残印 二用の
成り。を再見し
て盤次方極



今二の開地を
再見しつる盤
西の墨の端を
會小して盤北
より斜に目的
を見通定規を
随ひつる墨と引
時ハ盤西より
盤北へかきつ
三四五の形現
る。然しつる
盤面大成と



右此一術本法は擬して遠く學者惑は
生一畧法は用とて速く初心會一安
爰はゆゑ今其本法は措く其畧法は因を
覽者一此旨は察して安よこれ一拘泥
ヤと彼も此をも俱に用也

此〇ハ初開二町ノ縮町也
此×ハ求程八町ノ縮町也
此△ハ假借ノ縮町也
〇ヲ以テ×ヲ量リ其求程
ヲ得ル一他術ニ同シ

今現る所の。二ハ初開の縮なり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其三を。初開の間數二町ハ量合此三を一交ハ交して二町の矩と名なり。其矩少ク四を量るハ四交ハ一交二町ハ四交ハ即八町なり。是求程の間數と知るべし。此法の正しく縝密幽妙なるもの。倏忽に加へり。初學者の人の曉へず。此故。今其大畧ハ爰ハ述く巨細ハ殘是併參攷工夫の爲なり。日ハ逐月と移り。切瑗珠磨。黎明の白昼。其理と。悟る期終ハ有べし。學者者。皆此術ハ用也。

累隔指正方

此術ハ山林村里等ハ累隔て。其目的不見とるより。正當ハ遠程ハ量るハ用也。或ハ山腹を穿ちて澗水ハ此方へ通し。或ハ森林林ハ超へて發貢の幕場と定等の術云。取とかり云。一ハ一の座少ク。法の如ク盤ハ方正ハ居。二の座ハ斜ハ間數ハ定。三ハ開印。三の座ハ見通。墨ハ引。見込の作法ハ。一の座ハ殘印ハ立。二の座ハ迂り。一の座乃殘印ハ再見して盤ハ方正ハ極。三の座ハ斜ハ間數ハ定。四ハ開印。座ハ再見の種とる。一の座より二の座へ見通の墨ハ盤西乃端を要して。三の座の印ハ見通。墨ハ引。四ハ三の座ハ至。二の座の殘印を再見して。盤ハ方正ハ極。五ハ開印。墨の盤東の端を要して。四の座の印ハ見通。墨ハ引。六ハ四の座へ移り。三の座の殘印を再見して盤を方正ハ極。七ハ

此所より。目的見ゆる故。を立させ。二の座より三の座へ見通の墨の盤東の端を要して。四の座の印ハ見通。墨ハ引。六ハ四の座へ移り。三の座の殘印を再見して盤を方正ハ極。七ハ

目的へ斜に間敷
定^{左斜用}三の座より

四の座へ見通の墨の
盤東の端を要し

して本目的の見返

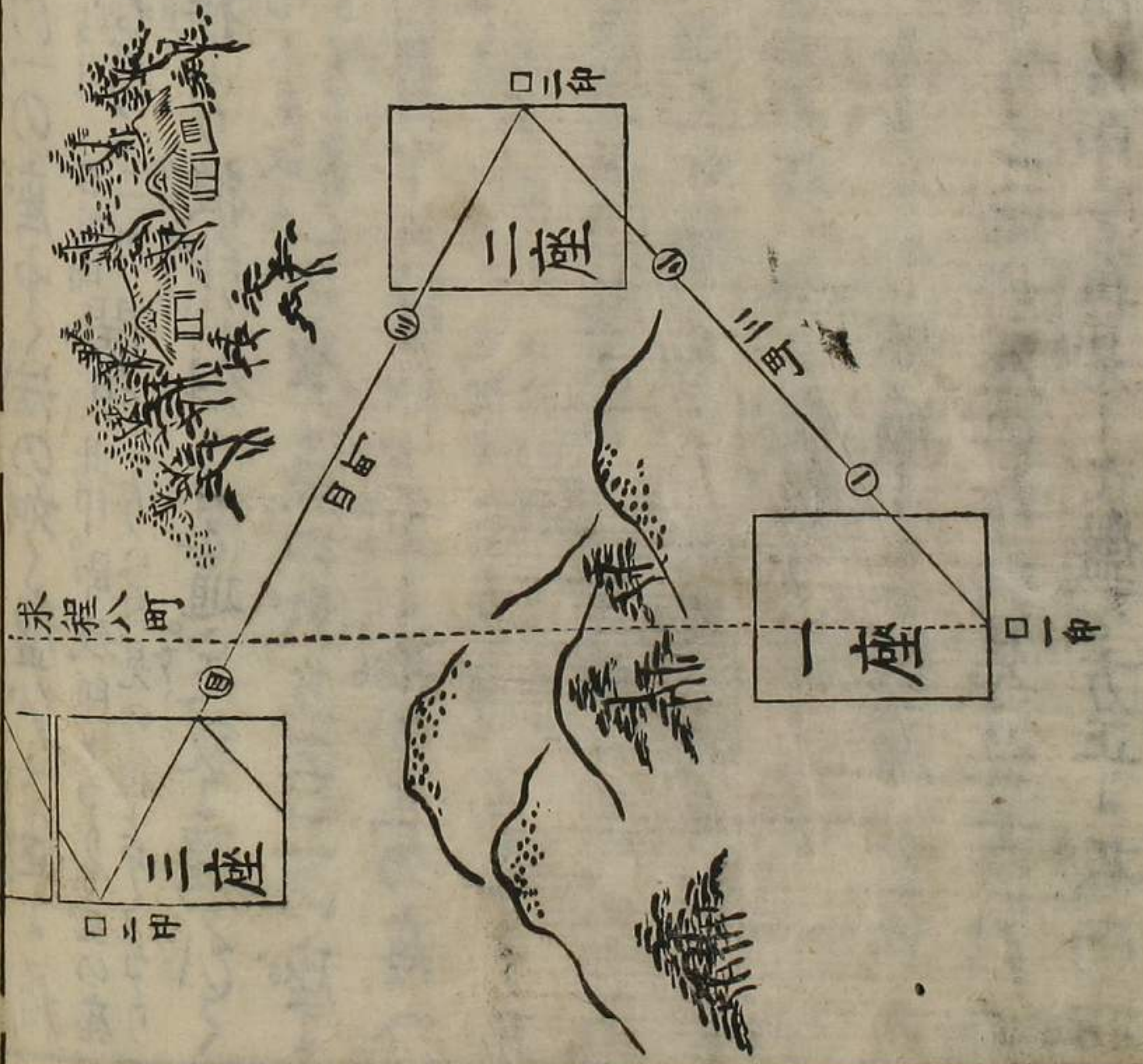
四の座より目的の見ゆ

定規に随く墨を引

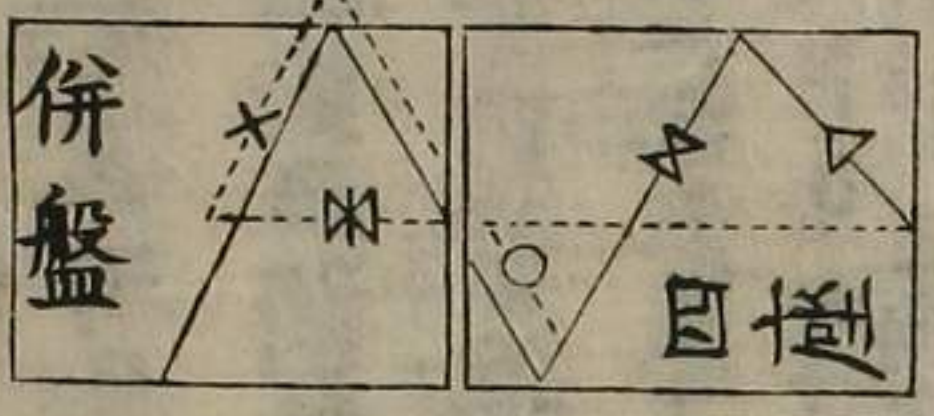
界^{まきえん}扱盤法^{びん}ひりて

新^{あらた}分間の矩^{かた}設^{たて}

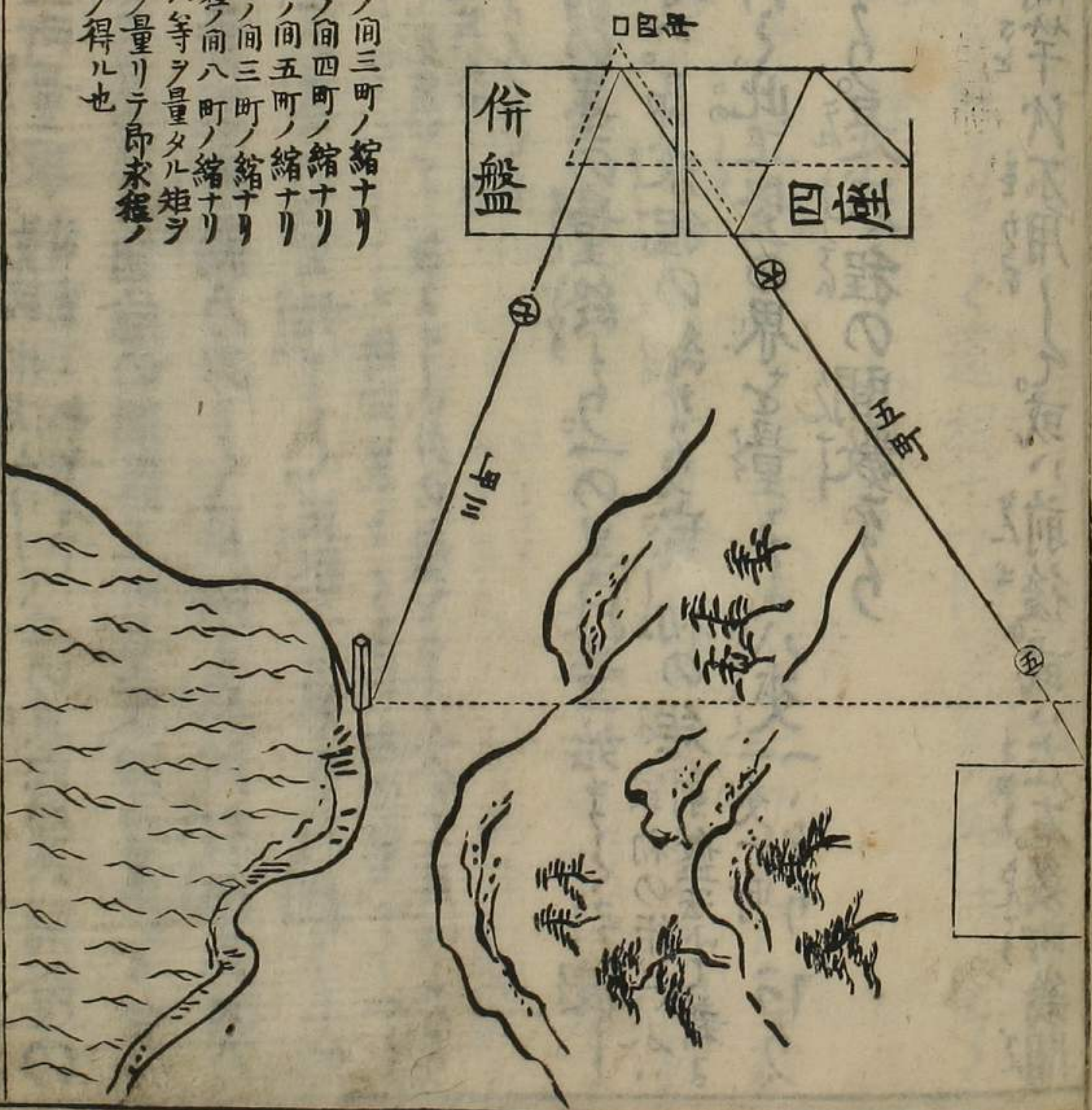
此矩ハソグきの縮^{ちぢ}も
か^かい^いの^の盤^{ばん}面^{めん}の^の墨^{すみ}の^の
長^{なが}短^{みじ}に^に随^{したが}ひ^ひて^てう^うの^のふ
や^やと^と制^{せい}を^をた^たけ^けり
其^{その}矩^{かた}も^も一^{ひと}の^の墨^{すみ}に



大成之圖



△ハ二ノ向三町ノ縮ナリ
 ×ハ三ノ向四町ノ縮ナリ
 ○ハ三ノ向五町ノ縮ナリ
 ×ハ四ノ向三町ノ縮ナリ
 ×ハ四ノ向五町ノ縮ナリ
 ×ハ五ノ向八町ノ縮ナリ
 △××等ヲ量タル矩ヲ
 以テ×ヲ量リテ即水程ノ
 向敷ヲ得ル也



其開除の間數三町量取量取作法より二の墨は其開除の間數四町量取前章に記す考べし三の墨は其開除の間數五町量取四乃墨と其開除の間數三町量取各圖乃ぶと巨細一界は引扱其四乃墨の量終より一の墨の量始ましく正堅一界を引然りして盤面大成と是は併盤法と名々其委しき作法は或向の編中より故に外の盤を合て用ゆるは

今現於所の四の墨の量終より二の墨は量始ましく引渡りし正堅一界は即求程の縮なり家初の矩刺盤法にて新分間の矩也をとり此正堅の界を量り八変一変一町一り八変一即八町なり是求程の間數なり

無的定間方

此術ハ間繩間竿ハ不用し或ハ前後或ハ左右幾町幾間

あくと其望む取は隨ひく居らざらん間數は定る術なり
今爰に此方より彼方ましく遠程七十間を望む作法は

術云下は圖を取をかり云々記す術中ハ事ハ餘は推して知るべし

時ハ一盤の四を爰に盤四と七十間の摸と定其七十間ハ

即盤四ハ割合盤東の端を盤北より盤南まで右余不足を様新

分間の矩ハ制一置此矩用除の間數ハ量り次ハ開除の間數を

十七間半と定此間數十七間半は除るより彼盤四を七十間

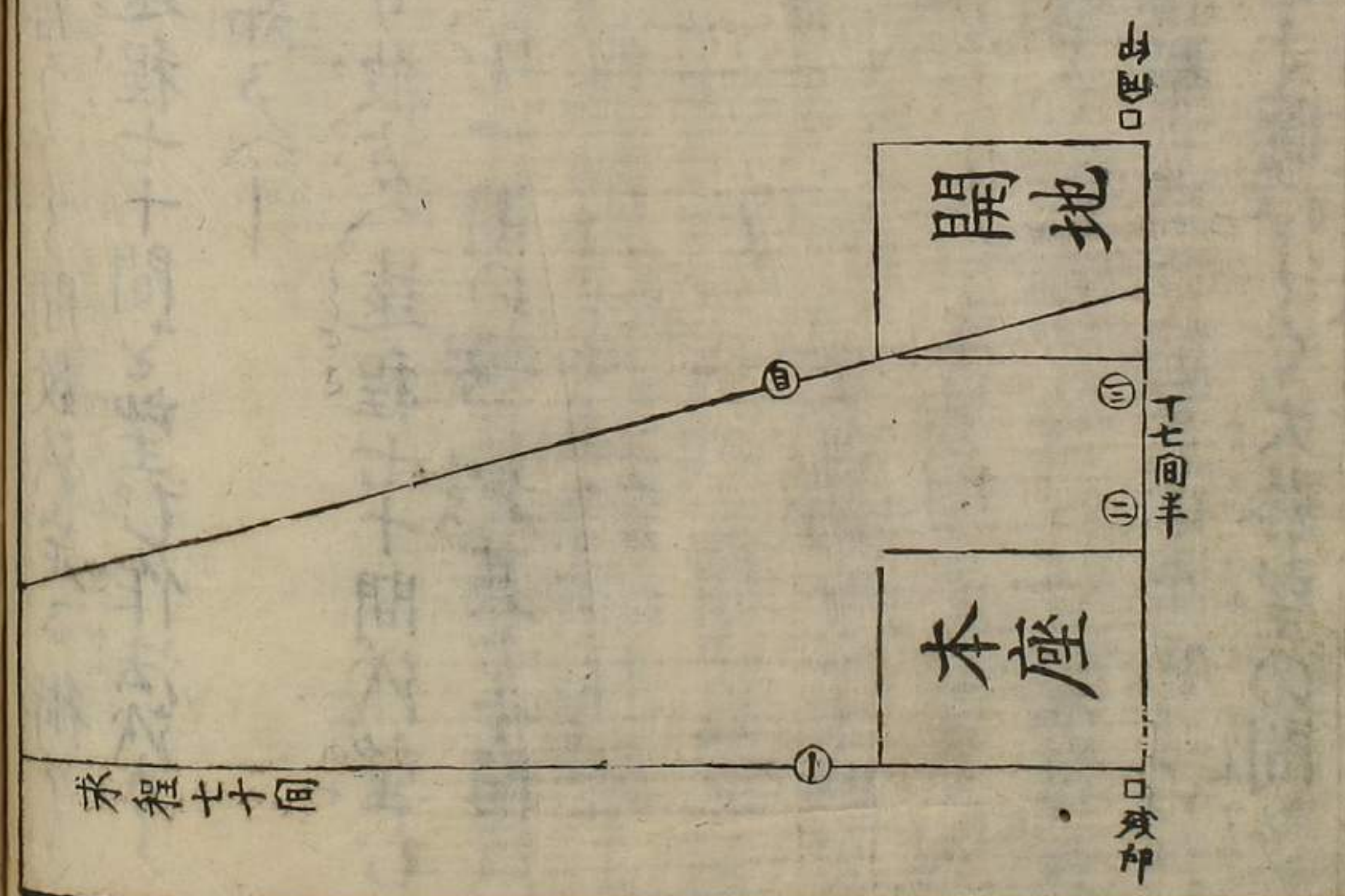
割合し矩をりく盤三爰に盤三とと十七間半量り取

其矩の量留より七十間の矩の留七十間の矩の留とい定規ハ當

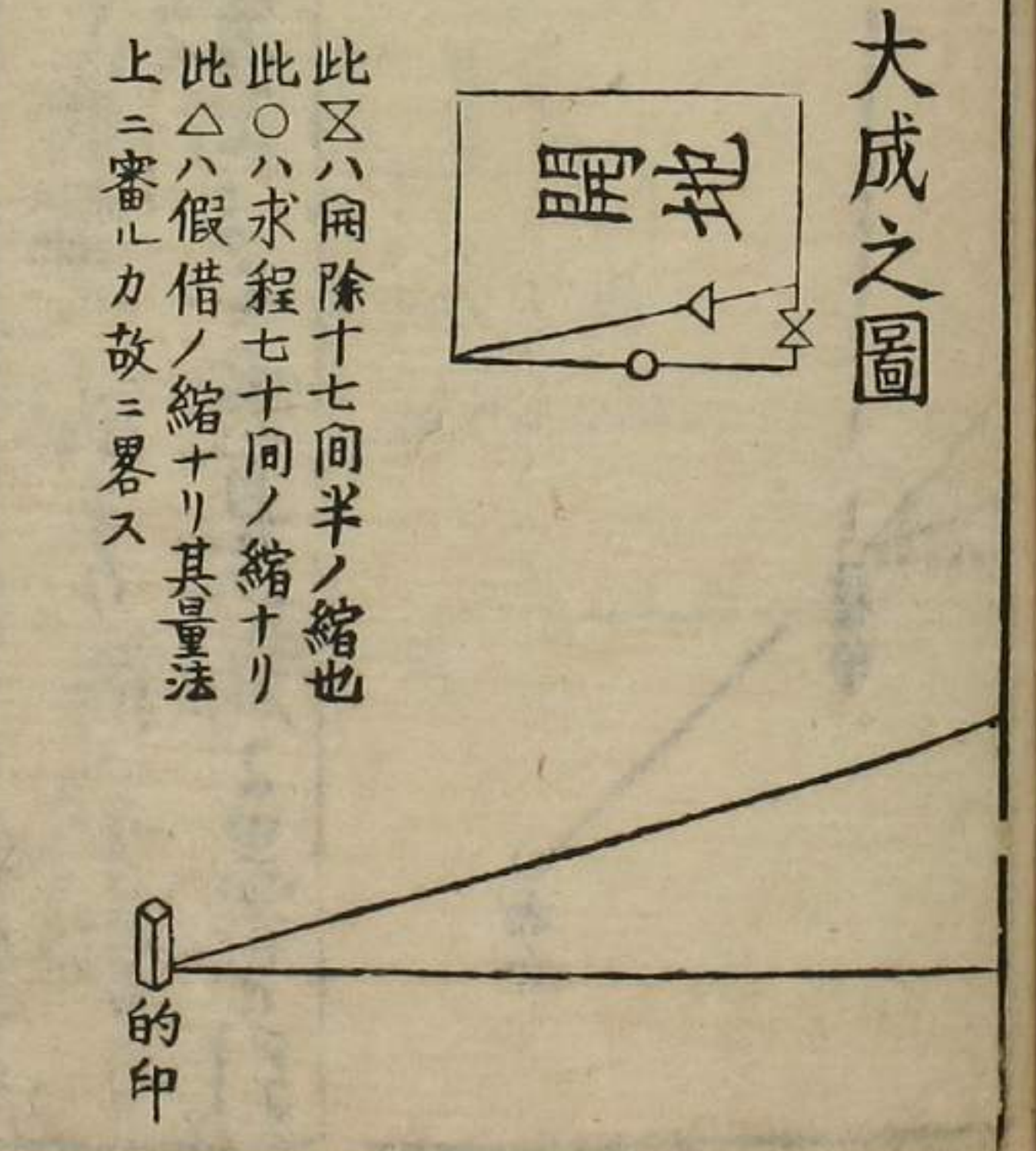
斜に墨ハ引渡を然り時ハ豫盤面ハ三四五の形ハ

是より前の事ハ本座ハ一扱本座ゆく圖ハ大射望の間數

七十間の積ひなり。彼方へ正し
 目的の印は假し立させ。作法れ
 如く見込(二)右方へ正し開乃
 間數十七間半量り。見通の印は
 立させ。是を見通。本座は殘印
 を立(三)開地は移り。殘印を再見
 置く。五の墨は定規をあて。
 望の楯を立置する。印の楯をより
 見通なり。目的の楯。五の墨
 の定規と一條は不合時。幾度
 あくも。望の楯を進退せり。



墨と楯と條理一正し合を个
 目的の印は進退せり。正を
 残印と係印と二本の印を立置り。若
 進退の作法。正は違ふ事あり。其術
 前後を念に入る。然して其く合
 時。彼印の楯を其取よ。と
 立置。是即遠程七十間望乃
 間數の印と成なり。

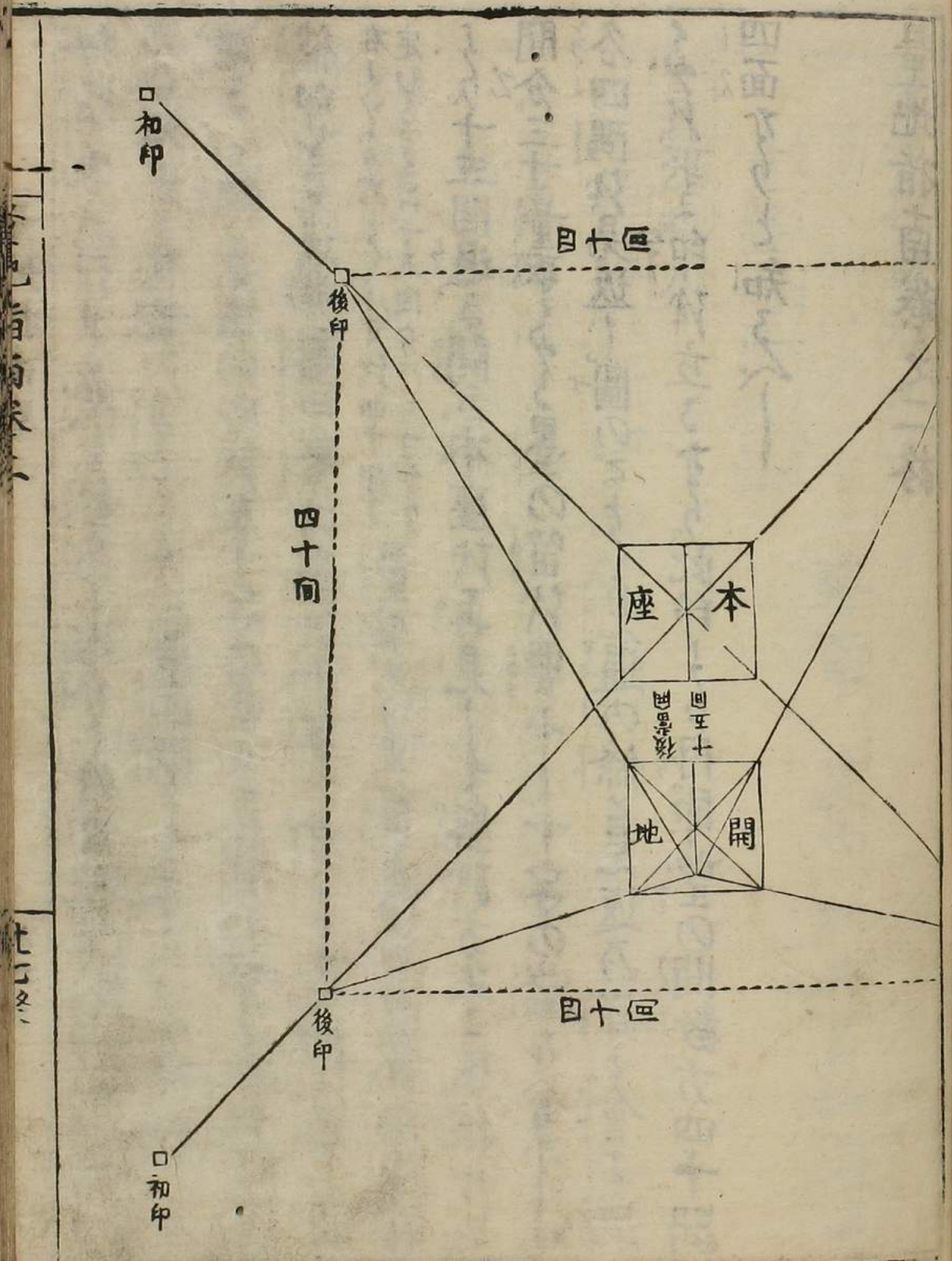
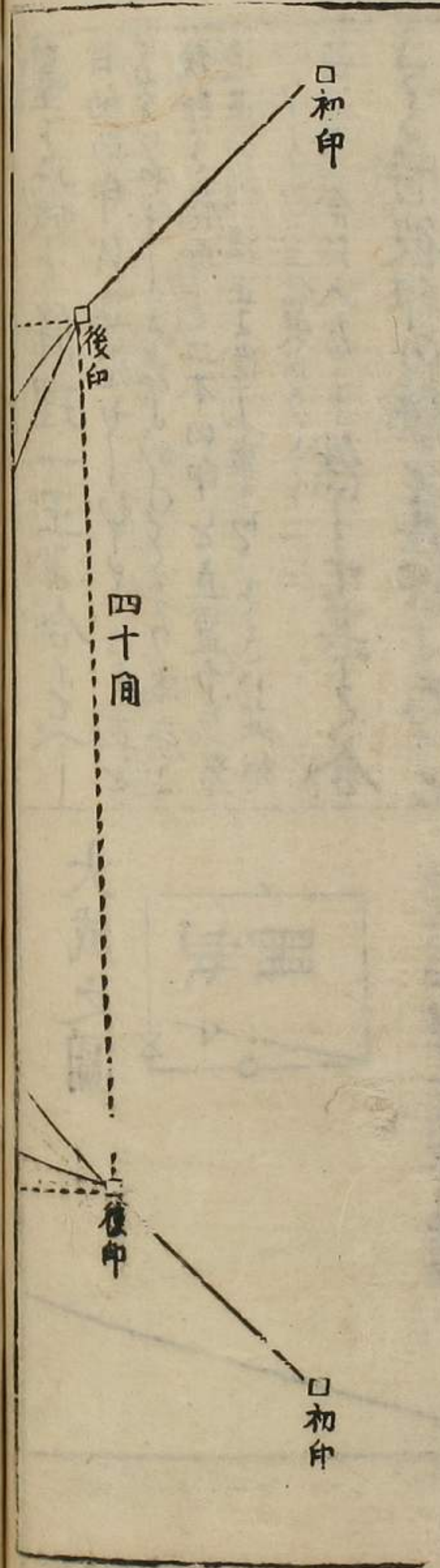


暗指方面方

此術も亦右より。間繩間竿を不用して。本座より
 四方面いっやど成と。望し任を居か。其間數は定
 ひは術なり。前法同方。と此法とい。當用無益の術は似り
 と。初學の徒をして。千變萬化の自由は得せしむ

墨引は為し其緩急は不論。あぐり候後、上替と、覽者好事の
言なりと。誥事なりと。

術云 下は回を、取をわく云、もくく本座は正中とめて、方面四十間、
望む時、まが白紙一枚は四方同寸、裁く假し是は四十間
四方れ摸と定、尤四方同寸なりと、其紙の廣狭ハハかり、
此矩より、用の間敷を量る、圖のどく紙面の隅より隅へ十字、
墨引引と、此十字の墨、即方面四十間、四隅なり、
豎面よと再見の為、墨を引。



扱此十字引く紙を盤面一張付く用也。是れ以前の事ハ本座より出され初扱本座。彼盤方正。居盤の四隅より各三四十間程づく除く。假見通の印立十字の墨は定規に當り。四隅とも小彼印を見通。後盤中堅の墨は十字の會より十五間分。即三寸右よりハ寸ハ四十間と定む。其量留印を付置扱本座より。十五間退き開き。本座は再見して盤方正は極。彼十五間分三寸量取らる墨の留は要小。十字の會を會小して各四隅は見返。圖のごとく見通の條と見返乃條と會は成り。印は立るなり。此印より内。即望の間數。方四十間四面なりと知るべし。

量地指南南卷之二終

量地指南南卷之三

勢南 處士 村井昌弘編述

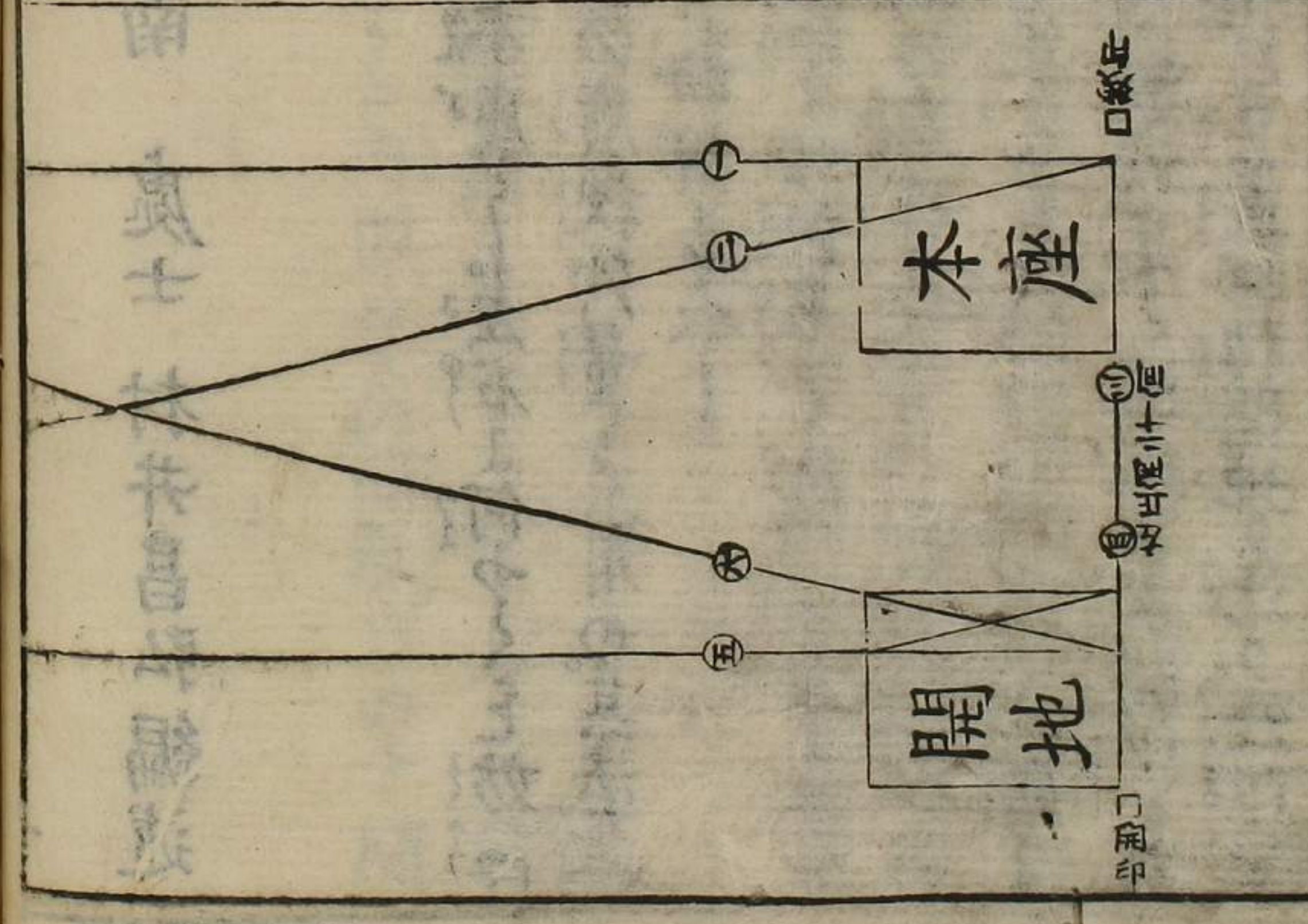
量盤術廣狹法

正面正開方

此術ハ平原曠野の地形は本座より。左右は何れも妨障なきに場所より。彼方正面の廣狹は量る小用也。其法略遠近術の左右開は據り。勘辨よべし。

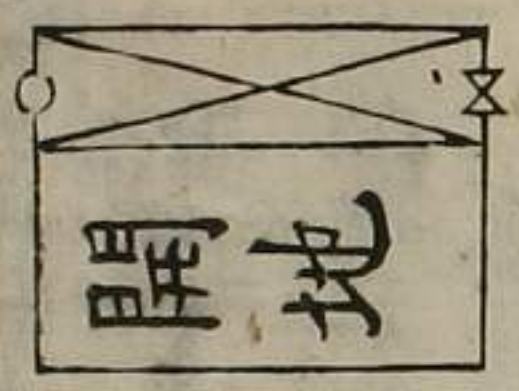
術云。下は圖に依り作法のごとく品々始計畢る後。一。本座は盤を方正に居盤西より正し目的の左は見込。目的の右は本座の右。二。其盤乾を要小して斜は目的の右は見込。此見通開地は定規に隨ひく墨は引。三。左方へ正し間數は定む開地を求開印を立る。是を見通本座は殘印は立置。四。扱開地は迂り殘印を

再見ト盤方正極五其
 盤坤會成トク 坤會を盤
 其作法のヤを死をのめくハ 般血北
 斜目的の左見返墨
 を引六 今目的の左を見返る
 墨の般血北乃端と要小一正
 目的の右見返 此見返用地して
 墨引然る時 盤の南北
 兩所三四五の形ト云ん
 盤面大成と
 今現於所の盤北の三六開除
 左正用の縮なり盤南の三六求程
 二十間

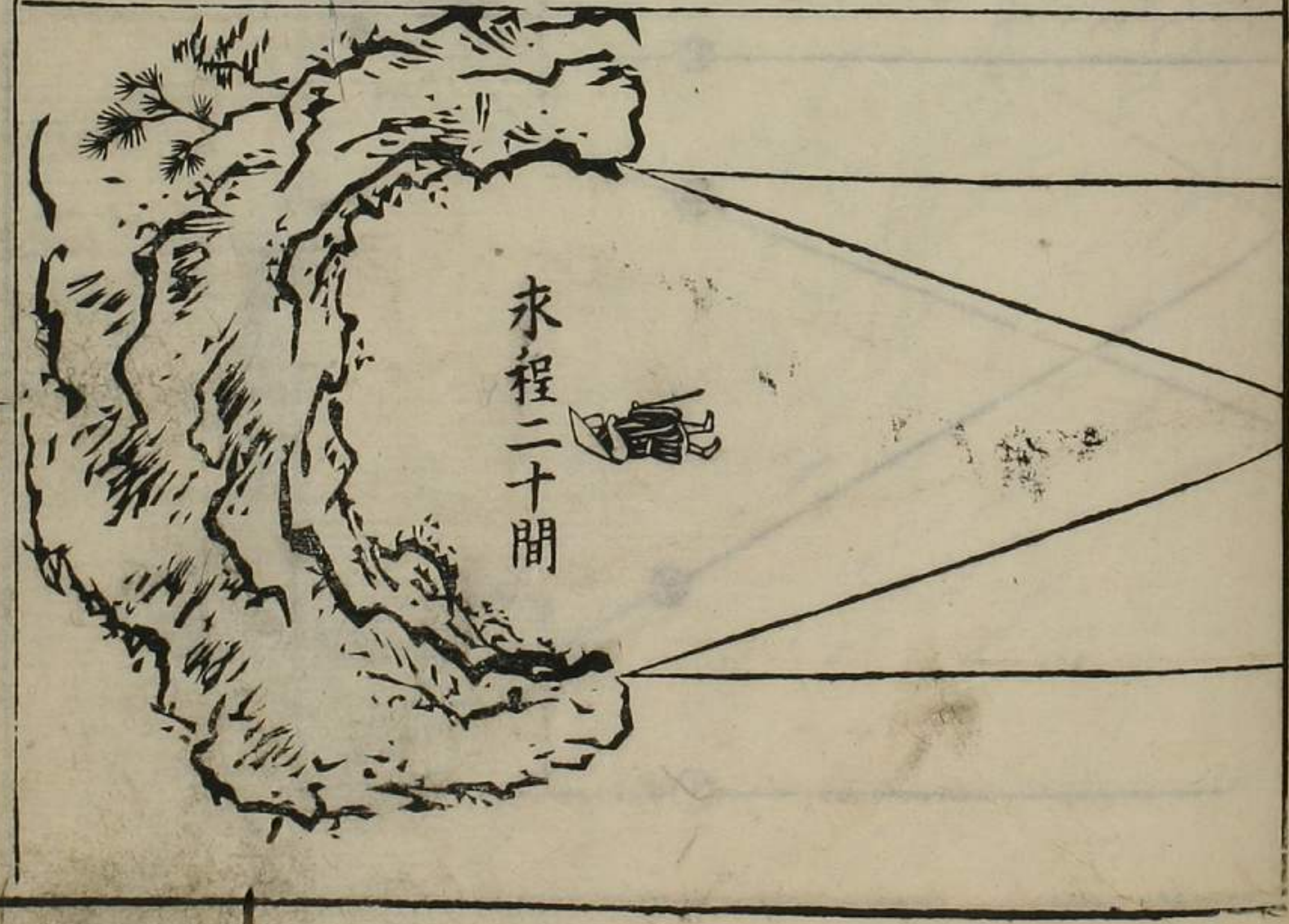


彼正面の縮なり 右方の四目的の
 廣程 左方の四目的の 其盤北の三六
 右の縮なり 開除の間數廿間量合其矩
 開除の間數 二十間の矩 縮分量も同交なり 同交り
 即北間なり 是求程 廣程二十間の
 間數と知るべし

大成之圖



此区ハ左正用二十間ノ縮ナリ
 此〇ハ求程二十間ノ縮〇ナリ
 今淨発ラ以テ区ヲ一交ニ交ニ
 二十間ノ矩ト名ケ其矩ヲ以テ
 〇ヲ量ルニ同交ナリ同交ハ即
 二十間也是求程ノ間數ナリ



斜面正開方

此術もゆる平原廣野の地より彼方の斜面乃廣狭を量る小用其法大畧前法正而正用方

小准知とべし

術云下は図と云作法乃

おとく始計しそのら一

本座盤を方正に居其

盤東より正目的の右

と見込二盤良を要小

て斜目的の左に見込

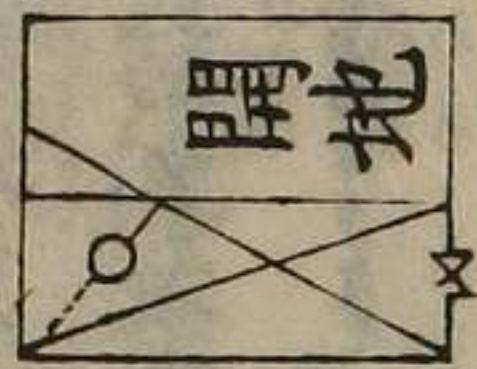
除と求右正開開印を立

これに見通残印を立置

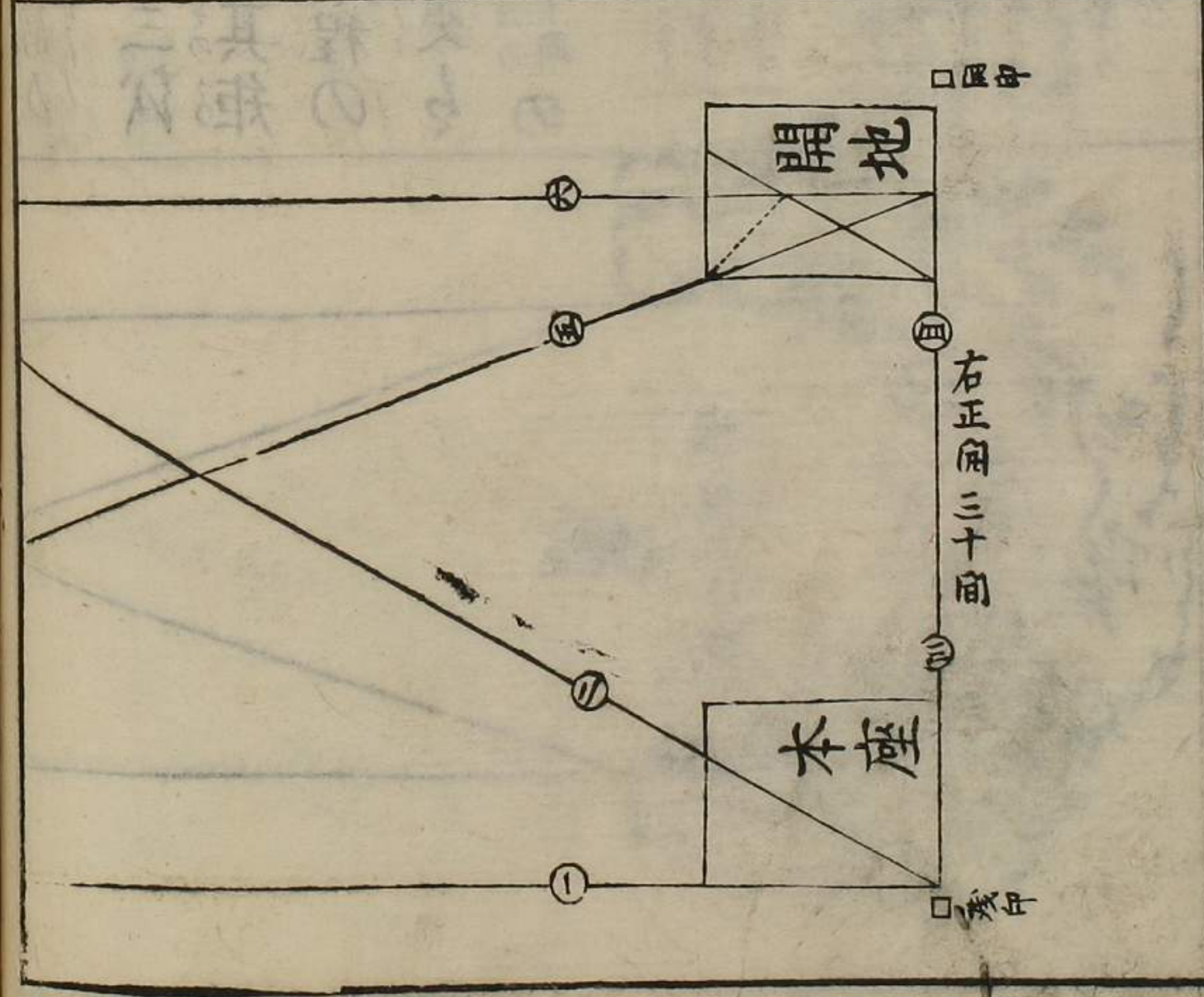
四開地に移り残印を再見

して盤を方正に極五其

大成之圖



此又ハ右正開二十間ノ縮口ナリ此〇ハ求程四十間ノ縮口ナリ今渾奈ヲ以テ区ヲ一夾ニ夾ニ此間ノ矩ト名ケ其矩ヲ以テ〇ヲ量ルニ一夾三分一有リ一夾三分一ハ兩四十間ナリ是求程彼面ノ廣程ナリ猶本文ニ依テ明ラムヘシ



盤巽えんけん會あひまふして盤北ばんきたより斜うづらに目的めいのの右みぎに見返みえ墨すみ引ひ六む其墨そのすみ
 今日けふ目的めいのの右みぎと見返みえの盤北ばんきたの端はしに要よふして正ただ時ときハ斜うづらも見返みえより小
 目的めいのの左ひだりに前後ぜんごの件けん々々これより見返みえ定規ていぎに隨したがひて墨すみ引ひ
 界かい剝へ盤法ばんぽうをりて盤巽えんけん乃すなはち會あひまより左ひだりの目的めいのの見込みこ見通みとおの墨すみ
 の會あひまより斜うづら小界せうかいを引渡ひきわたし然しかし盤面ばんめん大成だいじやうと

今現いま所ところの盤北ばんきたの三さん開除かいじゆ三さん十間じゆけんの縮ちぢまり盤中ばんちゆう乃すなはち斜うづら三さん
 斜うづら三さんの今いま剝へ盤法ばんぽうハ求程きうぢやう彼斜面かしゃめんの縮ちぢまり右方みぎかたの四よハ目的めいのの左
 の四よハ目的めいのの右みぎ其盤北ばんきたの三さん開除かいじゆ三さん十間じゆけん間數かんすう三十間さんじゆけんより量合りやうが其矩こ
 開除かいじゆの向數むかうすうをりて盤中ばんちゆうの斜うづら三さんの界かいを量りふ一いち夾くわ三分さんぶん一いちより
 一いち夾くわ三さん十間じゆけんより一いち夾くわ三分さんぶん一いち即すなはち四十間しじゆけんなり是こゝ求程きうぢやう彼方斜面かたしゃめんの
 三さん十間じゆけんより一いち夾くわ三分さんぶん一いち即すなはち四十間しじゆけんなり是こゝ求程きうぢやう廣程くわぢやう四十間
 の間數かんすうなり
 正面前後せうめんぜんご方かた爰こゝ前當用ぜんたうりやうの作法さくぱハ記しと
 後當用ごたうりやうも是こゝ准すじて知しべし

此術こゝハ本座ほんざの地形ちけい窄道せうだう堤防ていぱう等らう乃すなはち狹地せうちあり左右さうりやう正當せうたう小
 開除かいじゆ叶はひ難がたき場ばより彼正面かしょうめんの廣狹くわうせうハ量りち用りゆ其法こゝ
 開地かいちハ前後ぜんご進退しんたいして求り然しかし求程きうぢやうと量りるか大畧たいりやく
 遠近えんぢん術じゆつ前後ぜんご開かいの格かく小同せうどう配合けいぱいとす

術じゆつ云い下したは図ずと云い作法さくぱのこゝ品しやう々々始計しじけいして後のち一いち本座ほんざに盤ばん引ひ
 方正ほうせいに居ゐ盤東ばんとうより正ただ小目的せうせうめいのの右みぎに見込みこ見通みとお三さん其盤ばんと示し搖ゆ
 やり小居せうゐ置お盤良ばんらうを要よふ斜うづらに目的めいのの左ひだりに見込みこ定規ていぎに隨したがひ
 て墨すみ引ひ本座ほんざに殘印ざんいんハ立たまより正ただに彼方かた間數かんすうハ定てい規ぎ
 開除かいじゆハ求り左右さうりやう開除かいじゆ叶はひ難がたき場ばより進しんて求り見通印みとおいんと立たま

目的めいのの右みぎと盤東ばんとうの定規ていぎと此印こゝハ三さん所ところ一條いちじやうハ成なり念ねんハ
 立置たておべし尤見込ゆゑみこの條じやうハ別べつに見通みとおと為なる及および念ねんハ三さん開地かいちハ
 迂うり殘印ざんいんハ再見さいけんして盤ばんと方正ほうせいハ極ごく此所こゝより念ねんの為ためハ目的めいの
 盤良ばんらうハ要よふ斜うづらに目的めいのの左ひだりに見込みこ見通みとお墨すみ引ひ然しかし

三四五の形現い盤面大成と

今現れ所の三、未程彼正面の縮なり。

四、種子本座より目的の縮なり。五、假借の縮なり。差、開除九五向の縮口なり。扱其

差口、開除の間數廿五間、量合其矩をゆく。三、三八元未彼面の縮口なり。假、差口

種、是、を量、二、其、上、差、口、乃

廿五間を加倍、假、七十五間と知り。是、以

四、名々の種間と。扱、新矩を設く。四、を

其種間七十五間、量合、七、交、半、交、之、是、を

十間の矩、其、矩、を、再、度、三、と、量、初、度、と

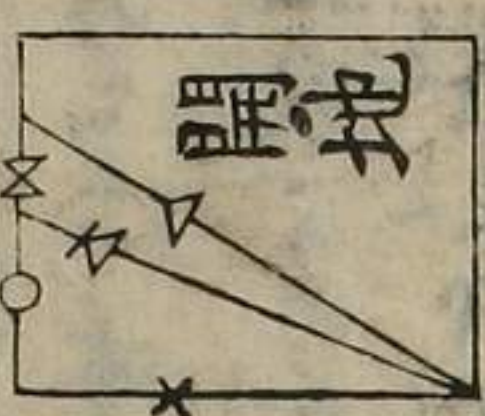
後度と、兩度量り。初度、目的、の、假、の、遠、程、と、用、ひ、後、度、は、求、程、の、回、數、と、用、ひ、元、未、此、三、

未程の縮なり。小二、交、り、一、交、十、間、三、交、即

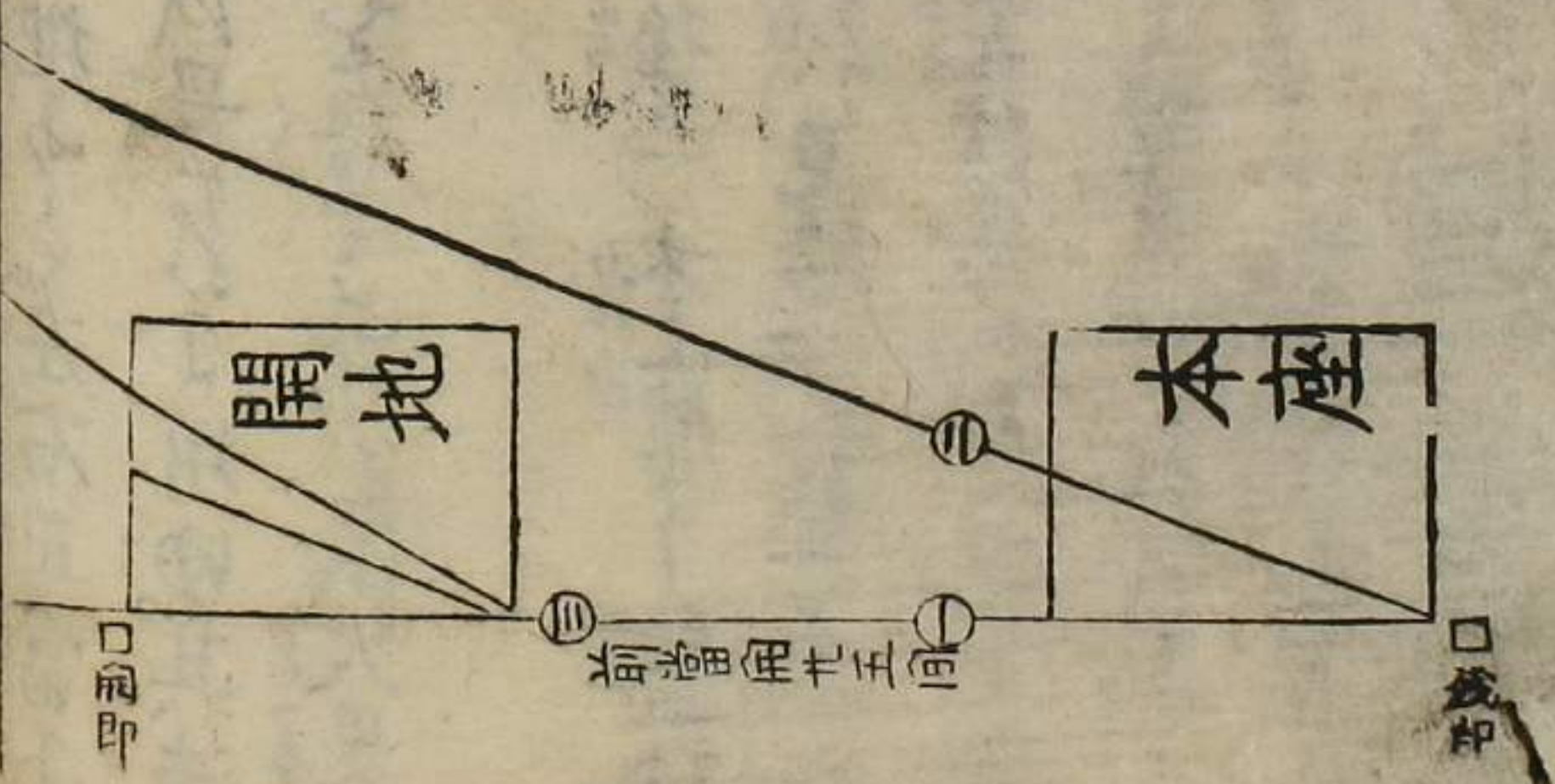
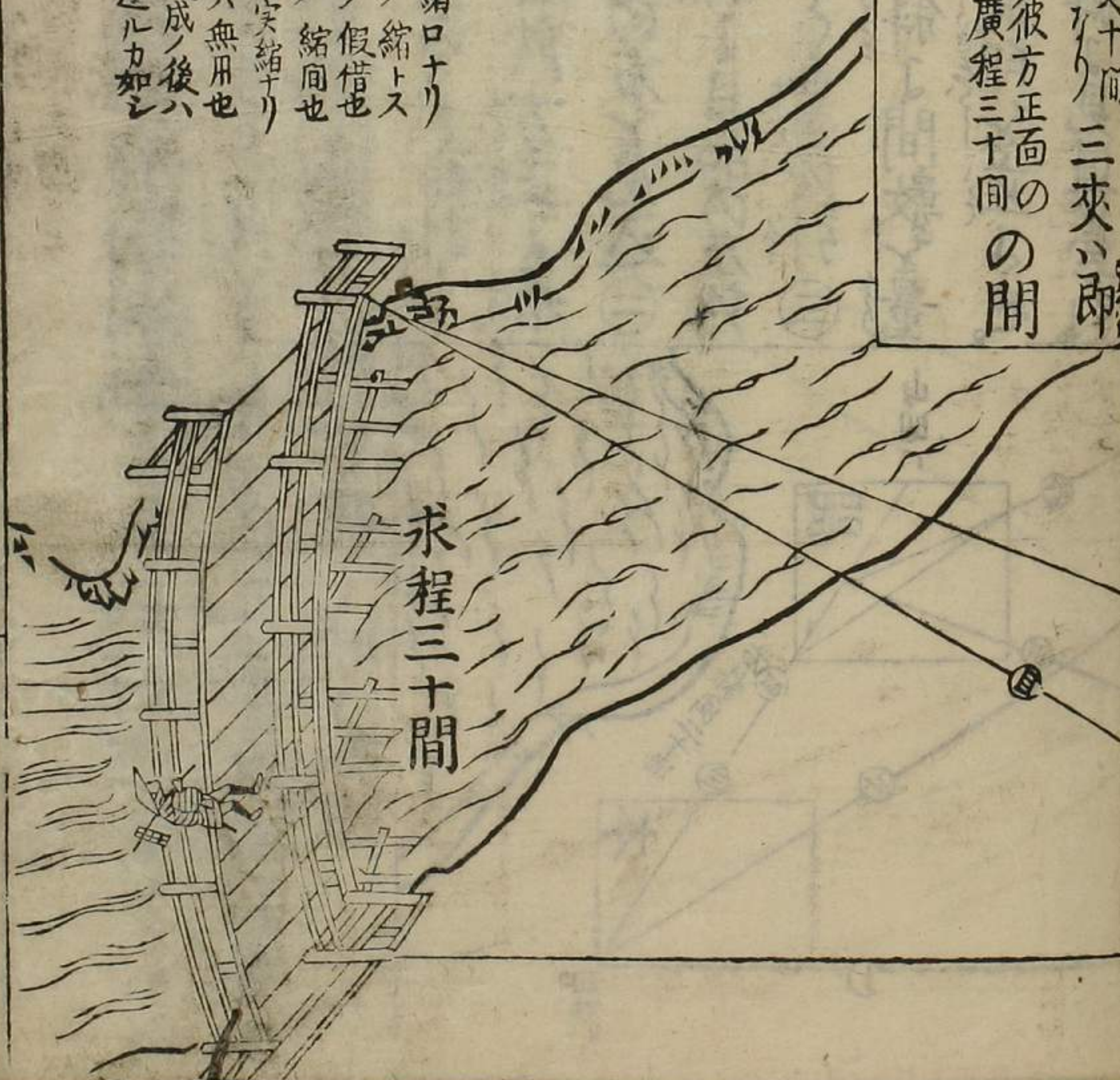
三十間なり。是、求、程、廣、程、三、十、間、の、間

數と知るべし

大成之圖



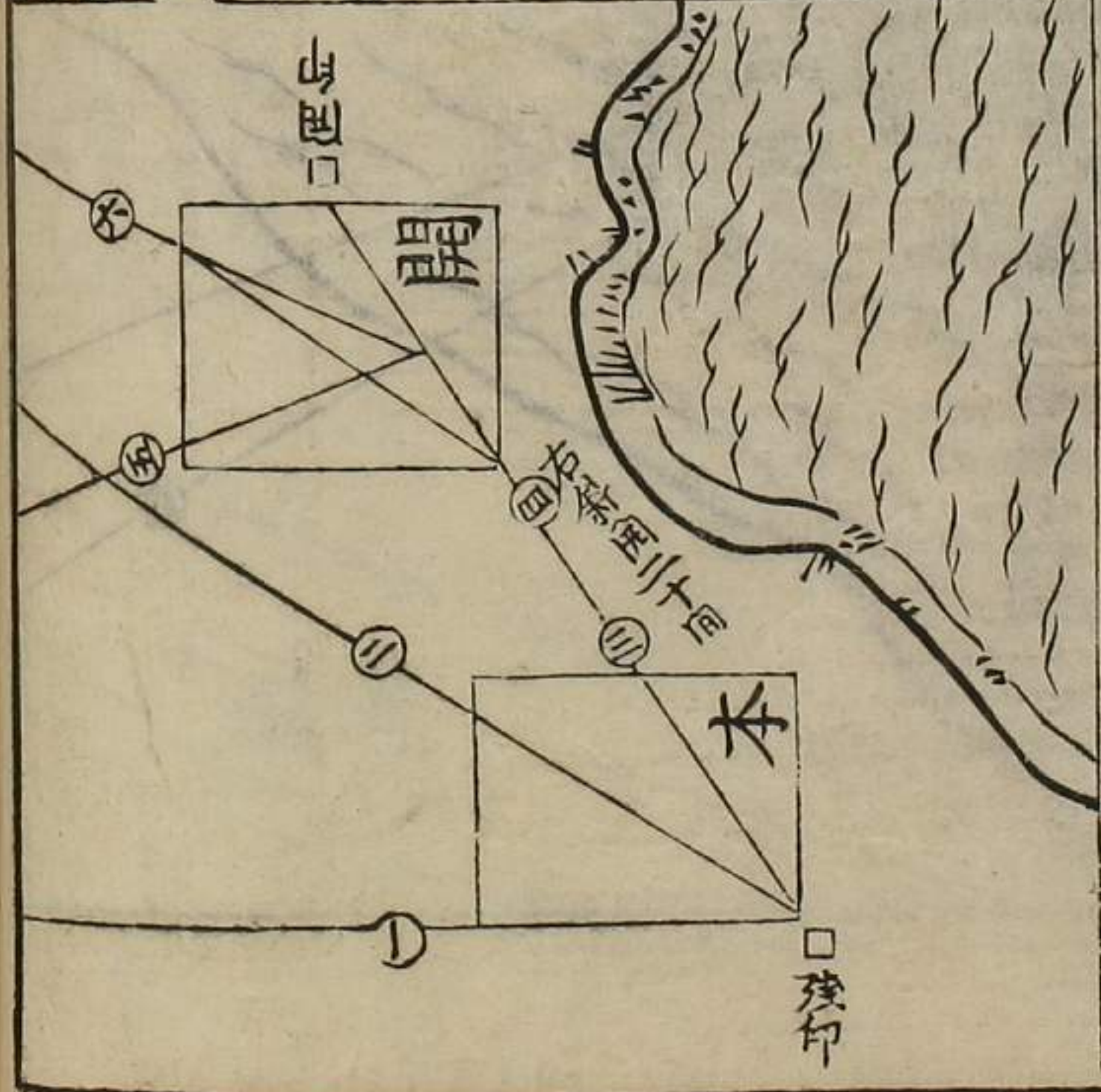
此、区、ハ、差、也、開、除、廿、五、向、ノ、縮、口、ナリ
又、〇、ト、合、一、シ、テ、未、程、也、同、ノ、縮、ト、ス
此、〇、ハ、三、也、遠、程、七、十、五、向、ノ、假、借、也
實、ハ、八、ト、合、メ、未、程、三、十、間、ノ、縮、向、也
此、×、ハ、四、也、遠、程、七、十、五、向、ノ、實、縮、ナリ
此、△、ハ、五、也、假、借、也、大、成、ノ、後、ハ、無、用、也
此、△、ハ、五、也、假、借、也、是、又、大、成、ノ、後、ハ、無、用、也
無、用、也、是、量、法、委、ク、ハ、本、文、三、述、ル、カ、如、シ



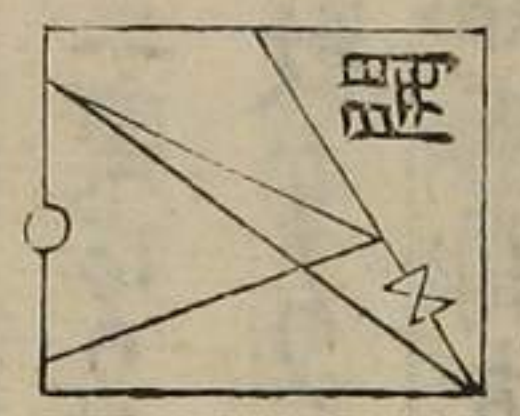
正面斜開方

此術は本座の地形茂林鬱蒼等小して左右前後ととふ。正當の開除叶ひがた所より。彼方の正面の廣程を量る。小用也。其法大旨遠近術斜開法に據り曉るべし。

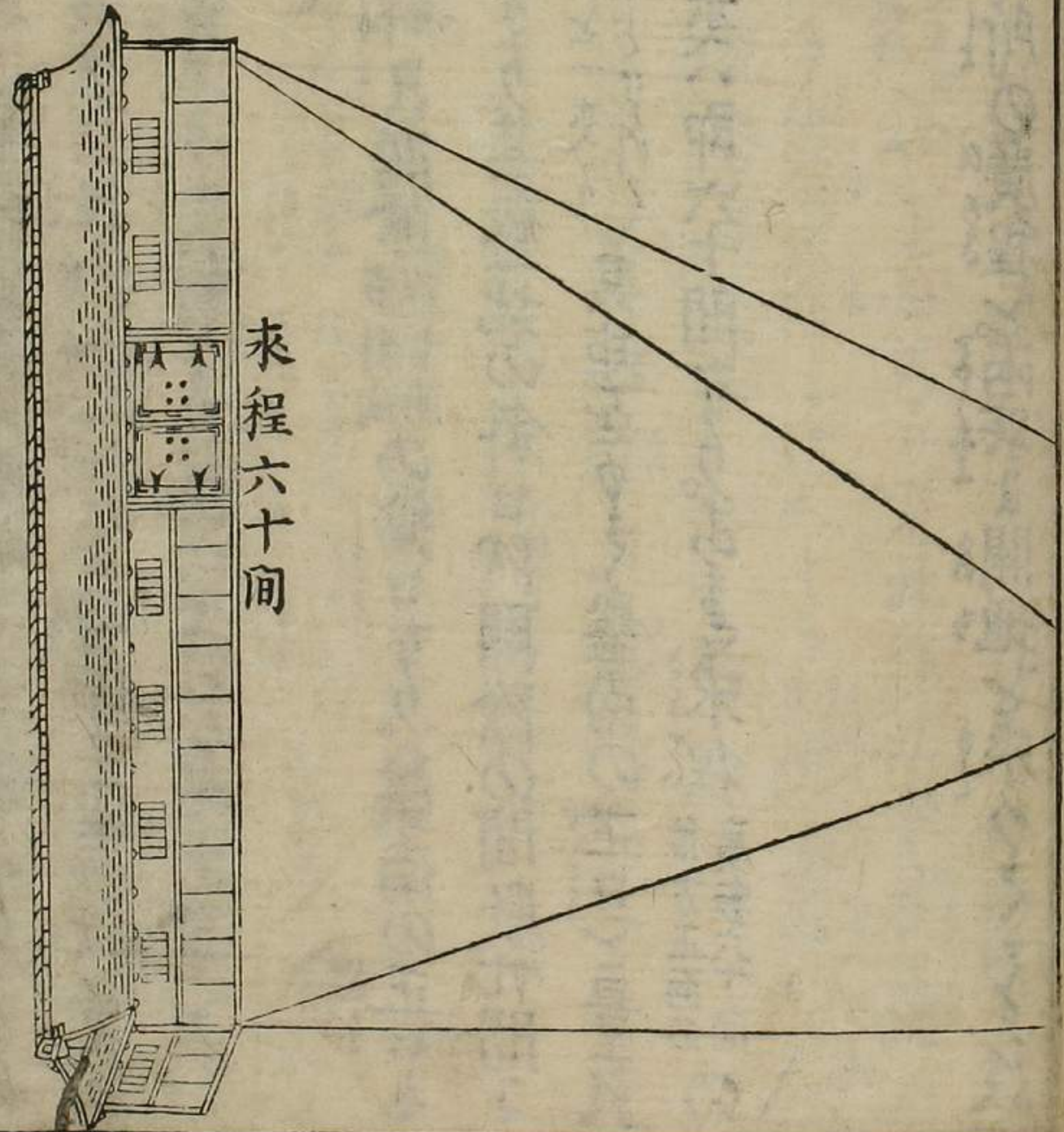
術云 下は図を以て作法の初計一。てのち一。本座は盤状方正に居。盤東より正し目的の右を見込。三。其盤良は要小し斜し目的の左に。見込。定規は隨ひて墨引。三。本座の右前の方へ斜に間敷を量。開地は来り。右斜開二十間。開印を立し。盤良より是を斜に見通墨引。



大成之圖



此は右斜開二十間ノ縮口也。此は左斜開六十間ノ縮口ナリ。又ヲ以テ〇ヲ量ルニ三夾有リ。三夾八即六十間ナリ是亦程ノ間敷ナリ。本座ハ本文ノ如シ。



本座は残印は立(四)開地小至つ。残印は再見して盤を方正
し居(五)其盤盤巽を會ふ。見通の墨は要小しく斜小目的乃
右は見返墨は引(六)其墨の要是ハ見通の墨の要なりを要小し。左の見返
墨乃盤南の端は會ふして斜は目的の左は見返墨を引。
然して盤面大成と

今現る所の盤北の斜口開除右斜向二十間の縮口なり。盤南の正口々
求程彼正面廣程の縮間なり。其盤北の斜口は開除の間數廿間
量合渾糸をゆく此斜口を一変り其矩をゆく盤南の正口を量れ
二変りなり。一変北向三変り即六十間なり。まを求程彼方正向の廣程六十間
間數なり

一知兩開方

此術は彼面一ヶ所の廣程と兩取は開地と求りて

術なり。其法目的の左右へ各別は遠程は量り。此兩遠程を
種とく。求程彼方面の廣程と云を知り。尤此作法を舊傳乃
鑿金説ゆ。用るふ益少くとすとも。初學參攷の爲は
姑こゝろ贅と此術ハ初中後ノ盤ハ三度改てられり

術云下ニ図と云作法のましく品々始計して後初(一)本座は盤は

方正し居。盤東より正は目的の右は見返前ノもつみぶく目的乃右ハ即本座の左と知る

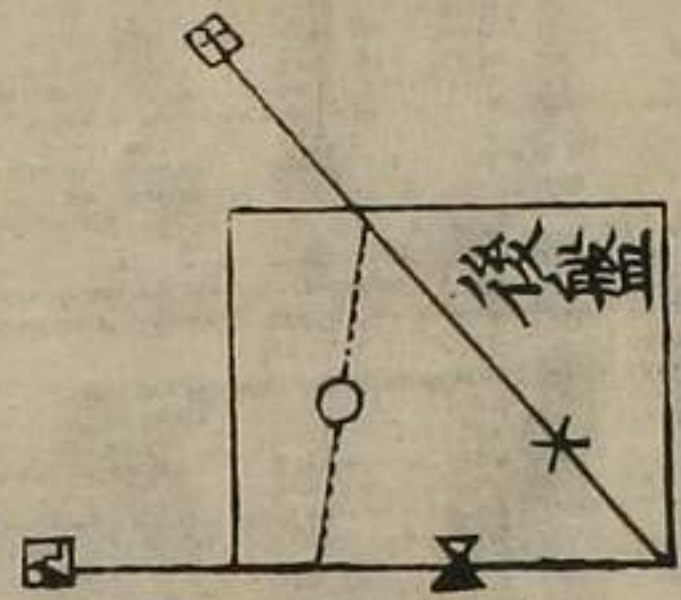
(二)右方へ正は開除右正向三町を求め。開印を立。是は見通。本座は
要印此印毎例の残印もども。初中後三度の術共ハ。を立(三)開地は

迂り。再見して盤を方正は極め(四)盤盤巽を會ふ。かくのてくの術

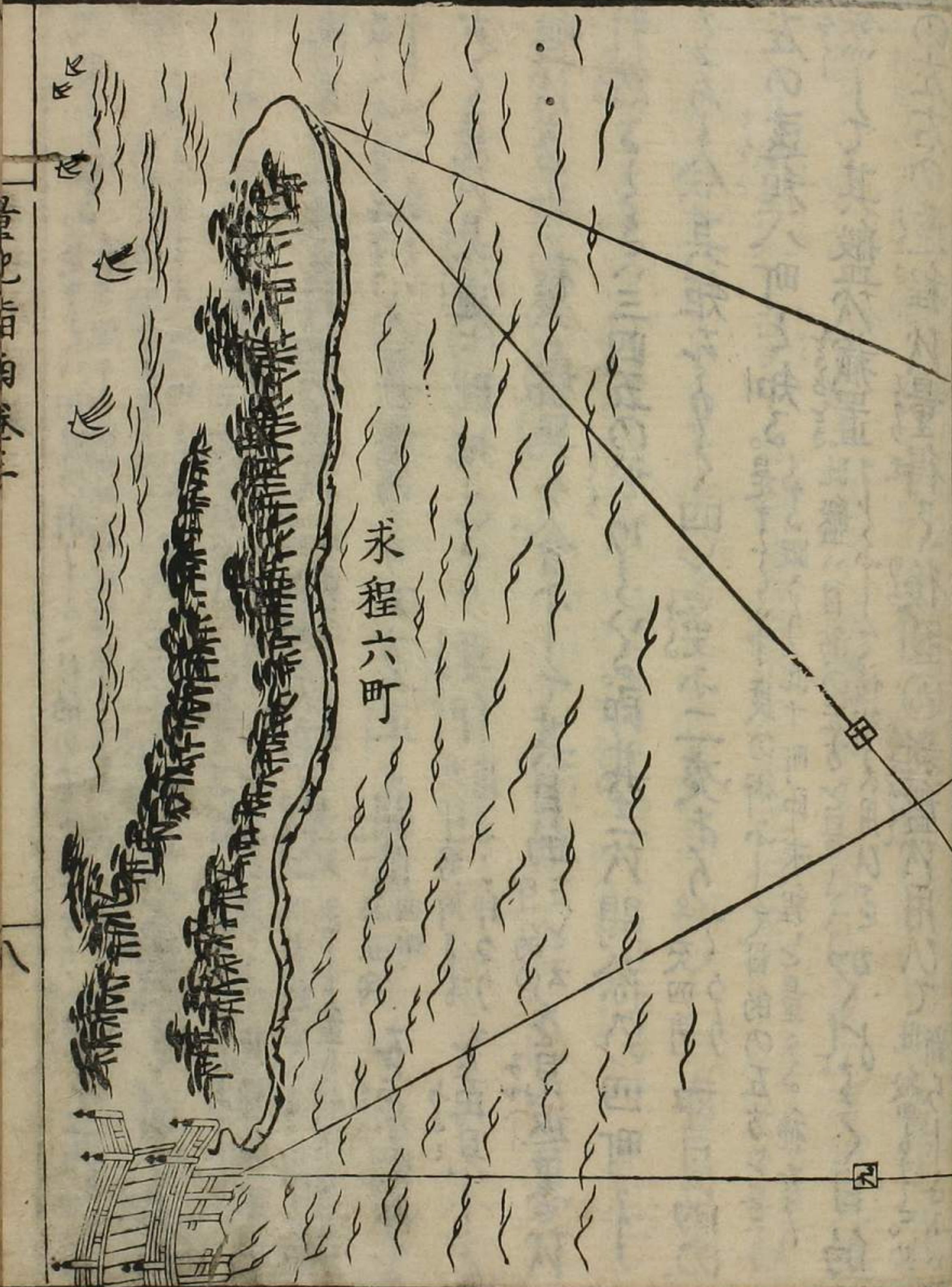
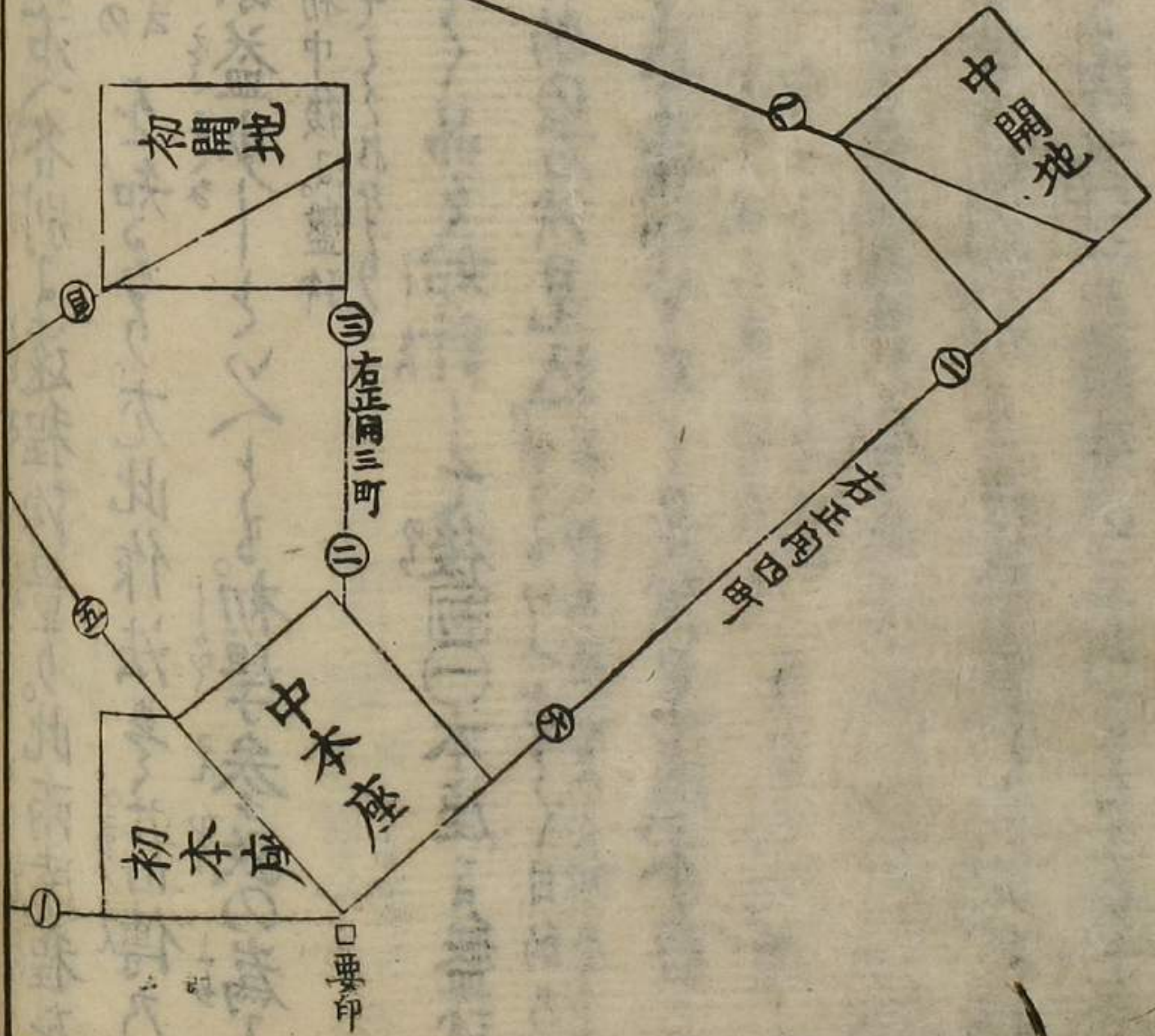
盤巽と會ふとべいとす。其目的目的の右と云を見返墨は引然

とて三四五の形は。即其三を開除の三町とく。合
其矩をゆく四を量り。二変り。即目的の右の遠程

大成之圖



此又右方ノ遠程六町ノ縮也
 此又左方ノ遠程八町ノ縮也
 此〇八乘程ノ廣程六町ノ縮也
 其量法本文ニ季少記ス宜ク
 勘合スヘシ



六町と知る。是まぐくハ初度の術にて目的の右方をとるなり 然して其盤は
藏置此盤ハ目的の右方をとるなり **中五** 扱新盤と圖かくく。斜に要印

を合せり方正に居初術は用ひて居る盤を其終用ゆる事より **六** 其盤西より右方へ正に開除右正角 四町 在求開印を

盤東より正に目的の左に見込目的の左ハ即 見込 此見込は正にあり 然して其盤を斜に居り

故に今見取正なり **六** 其盤西より右方へ正に開除右正角 四町 在求開印を

立く是は見通七 開地より要印此印前術にも用ひて 再見し

盤は方正に極八 盤異を會つして其目的の左と云 を見返墨は

引然るとして三四五の形に引る。即其三は開除乃四町

と合。其矩をのり四と量小二変あり。即目的の

左の遠程八町と知る。是まぐくハ中度の術にて目的の左方を量り

然して其盤は藏置此盤ハ目的の左方を量り かくれり目的

の左右の遠程は量得る後九 新盤は用ひて此盤もまた必

限らば初術中術の盤を用ひても事足りり。初術は居るは

あつて要印は合せり方正に極盤東より正に目的の右に見込

十 其盤良と要印を斜に目的の左に見返墨は引度是まぐくハ後 界

扱盤法はゆり。其後術の見返の墨と中術を量置る目

的の左方の遠程八町は量合渾ををり後術の見返の墨ハ 其矩を

後術の見込の盤東に初術を量置る目的乃右方れ

遠程六町量取盤北より盤南の方へ量取 其六町の量留より八町

の墨の終へ小斜小界は引渡然して盤面大成と

今現る所の見込は目的の右に遠程なり。見返り目的の

左に遠程なり。今引渡る小斜の界は彼面乃廣程なり。

其見込見返は量る矩ゆり。此界は量る六変あり。一夾一町

六変ハ即六町なり。是求程の間數なり

圓知正開方

此術、野外の村里海中の嶋嶼、とゞく彼所、在る取の圓周、以量知る小用也。其法、往々廣狹術、述る取とゞく推知とゞく。聊異かる作法、術中、記すと

術云、下は図より、品々取とりて、

作法のおとく始計

あくのら、(一)本座は

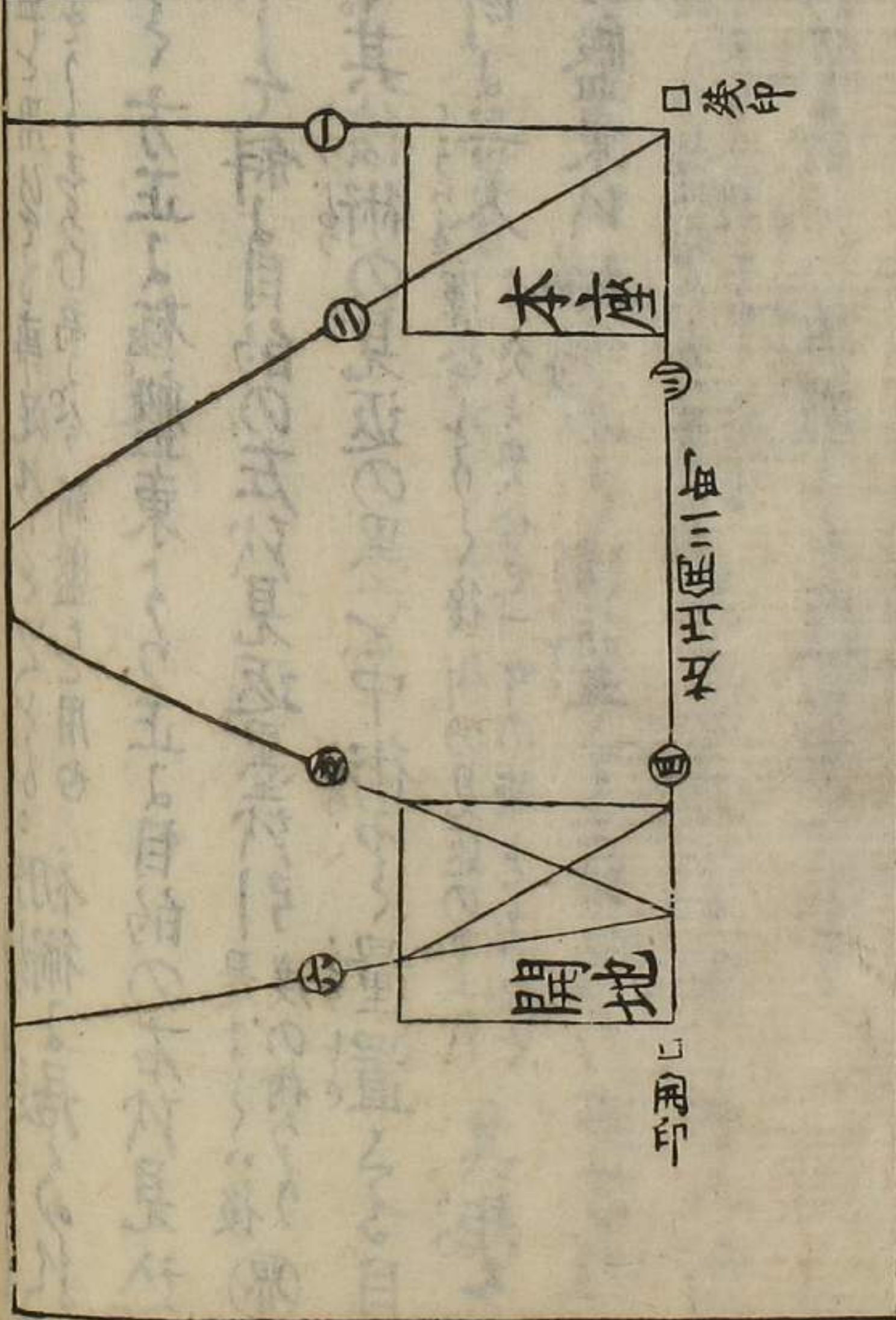
盤、以方正、居盤

西より正、目的の

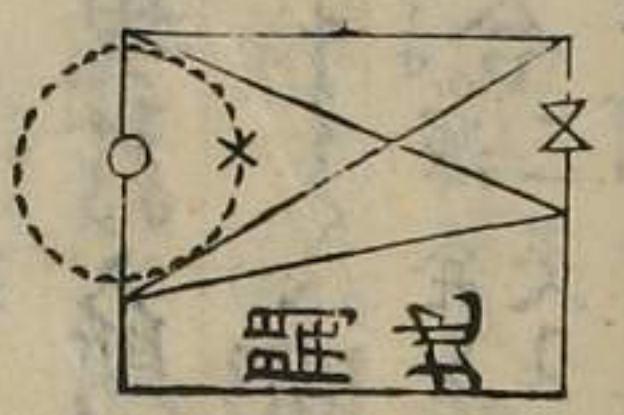
左頬を見込、(二)其

盤乾を要、小して

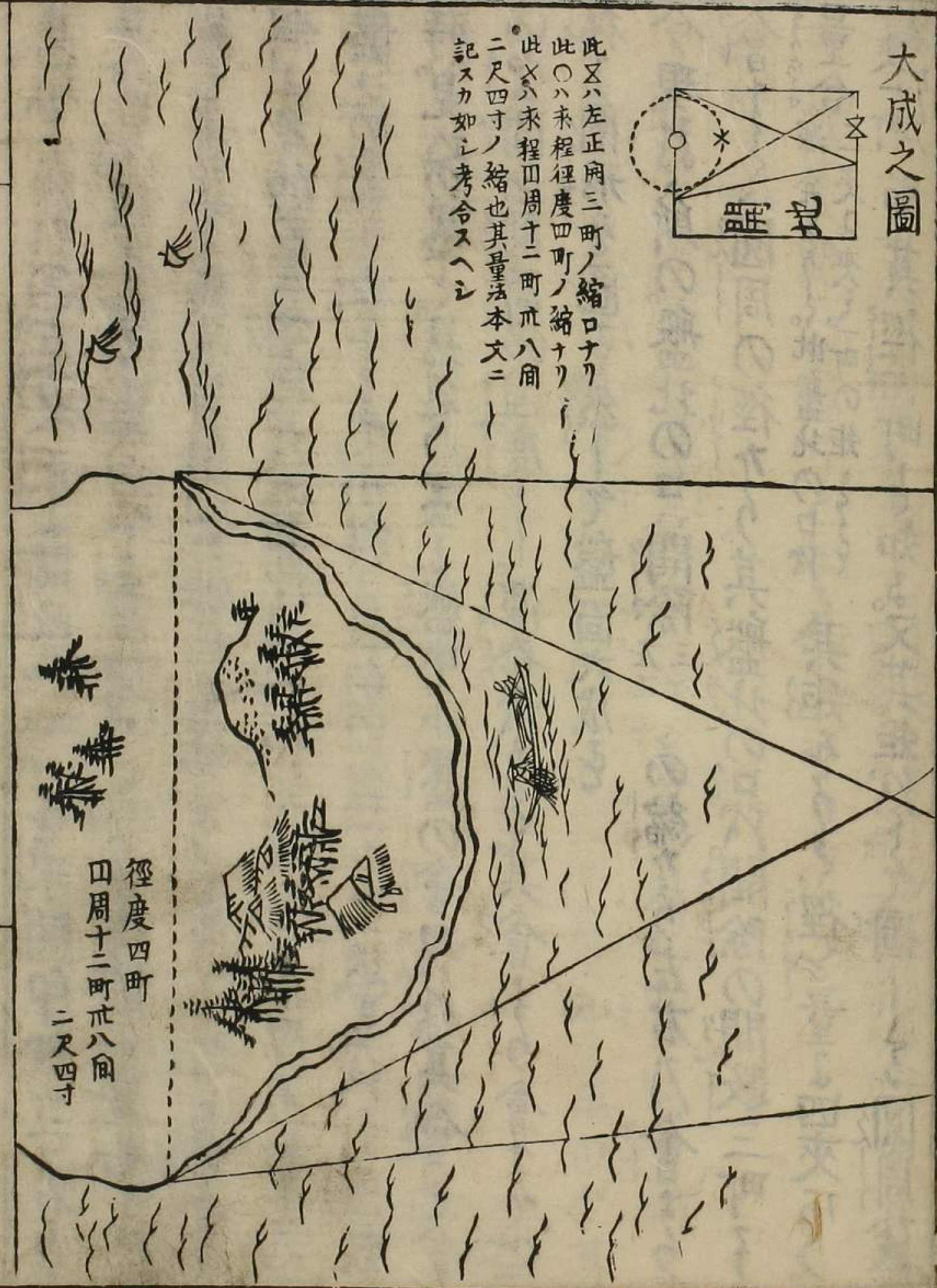
斜、目的の右頬を



大成之圖



此区、左正兩三町ノ縮口ナリ
此〇ハ未程徑度四町ノ縮ナリ
此×ハ未程四町十二町ハ八町
二尺四寸ノ縮也、其量法本文ニ
記スカ如シ考合ヌヘシ



見込墨引引③左方へ正は開除左正用を求開印立立さるる
 是は見通本座は残印を立④開地は移り其残印を再見して
 盤を方正は極⑤目的の右頬は見込さる墨の中程と會小
 斜は目的の左頬は見返墨引引⑥今左頬を見返さる墨は
 盤北の端を要小して小斜は目的の右頬を見返墨引引然れ
 時見込の墨と見返の墨と盤中小墨の會現れ其會と會
 の空間と圓周の徑度と渾發ひりり其會より會まで溢
 杯は圓形を圖と然して盤面大成と

今現れ所の盤北の口開除左正用の縮かり左右乃會より
 會より圓周の徑かり其盤北の口は開除の間數三町不
 量合渾發をり此盤北の口は其矩をのり徑と量は四夾はり
 一夾一町即其徑四町と知る又其矩はとて圖より圓周は

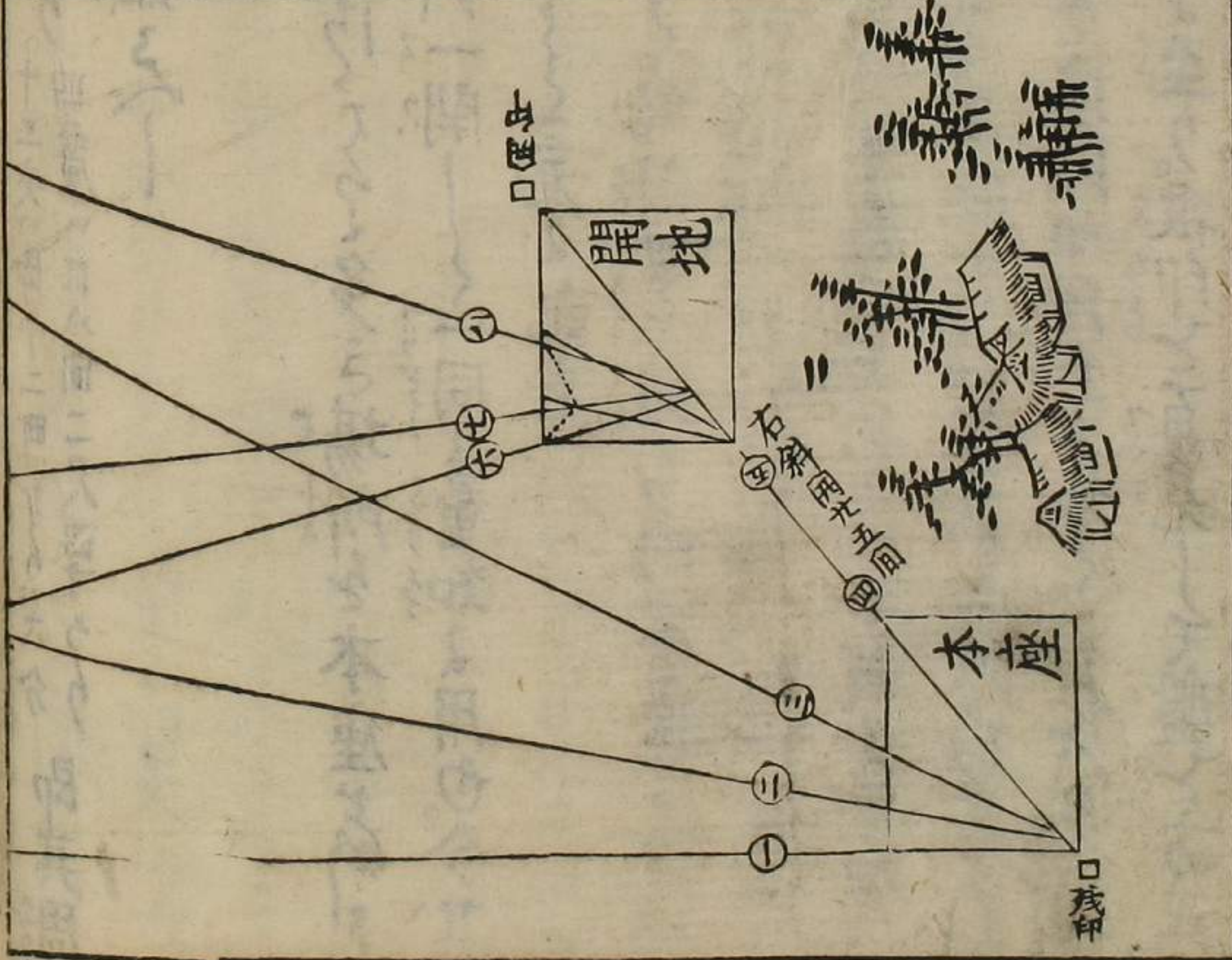
量るふ十二夾六分四釐はり十二夾は即十二町かり六分即其周
 十二町正八間二尺四寸と知るべし

兩知一開方

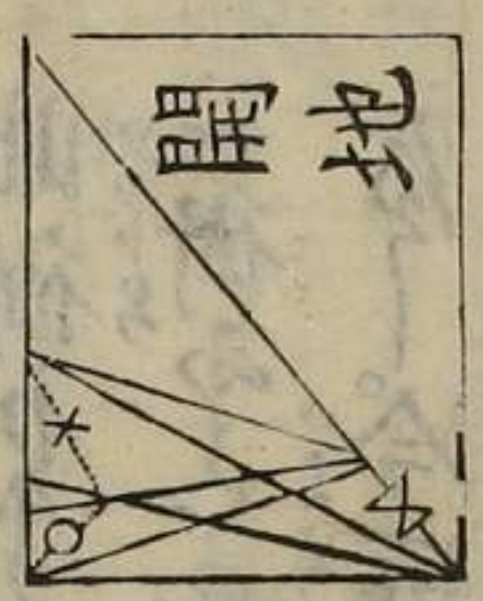
此術は池沼葦澤等のゆらゆら多き場所を本座とめり
 彼面の廣狹數箇取は一開一同一量知は用也今其
 二箇所を量る作法はとて爰は記と

術云下は図をり作法のごとく始計畢てのら①本座は盤は
 横は方正は居此術の時ハソリ盤東
 より正は目的の右は見込②其盤良は西女小より斜は目的乃
 中を見込墨引引③同所より又斜は目的の左を見込墨を引
 ④右前へ斜は開除右斜用を求開印立立さるるこれ見通
 本座は残印立立④開地に至り彼印を再見して盤を方正

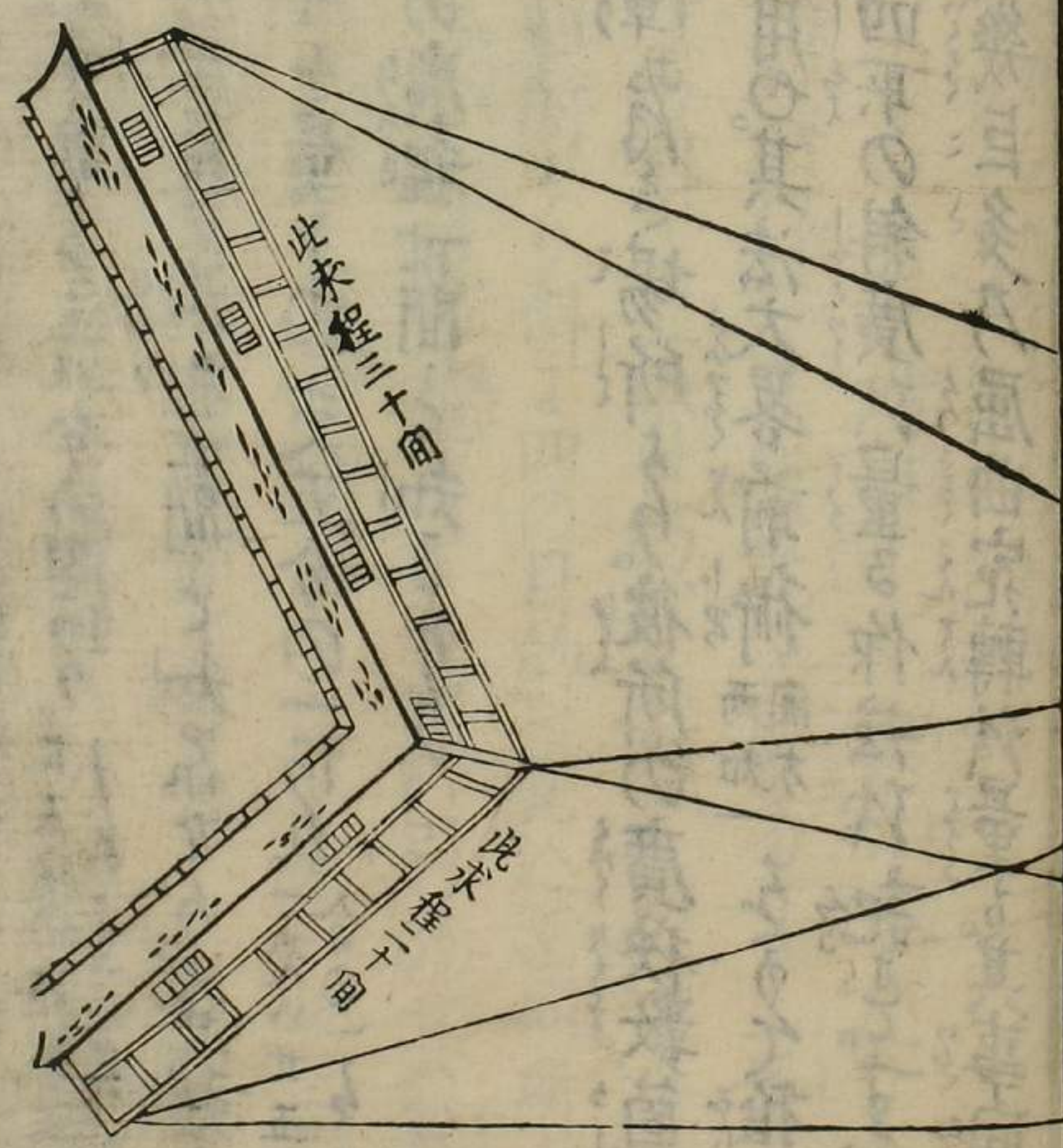
小極め(六)其再見の墨と要
 に一盤巽伏會小一斜
 目的の右伏見返墨を引(七)
 其墨の要成りたる所を
 要を用て斜よ目的の左伏
 見通墨以引(界)初割盤法
 をりく盤南に現いせしめ。
 三所見込の墨と。三所見込
 の墨と。其會より會(界)以
 引渡ととと。一所求程の
 縮形何しと。然して盤面
 大成と



大成之圖



△ハ右斜兩二十五間ノ縮口也
 ○ハ一ニノ廣程九間ノ縮口也
 △ハ二ニノ廣程九間ノ縮口也
 △ヲ以テ○ヲ量リ九間ヲ知ル
 △ヲ以テ△ヲ量リ九間ヲ知ル
 其審ナルハ本文ニ記ス



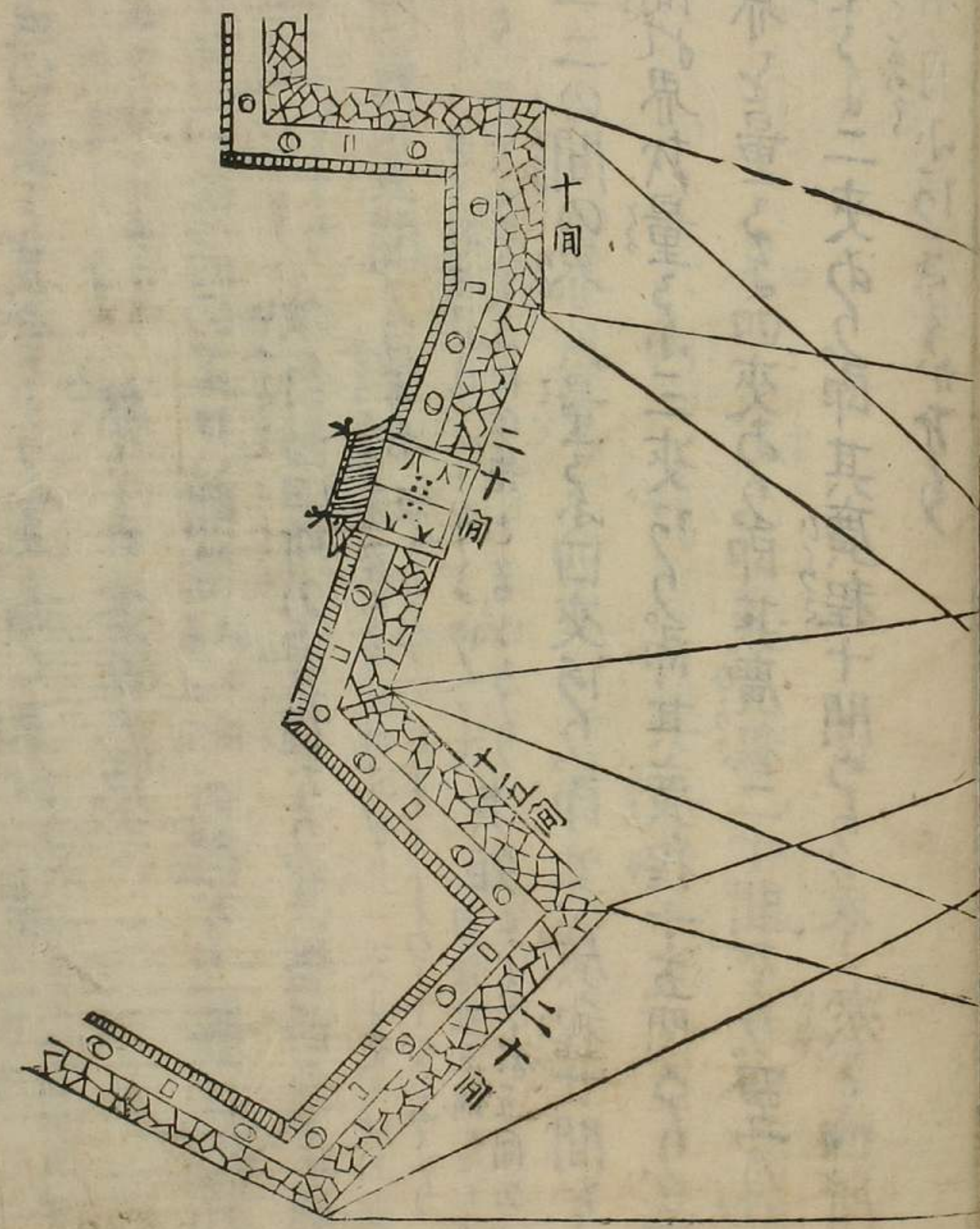
今現於所の盤北の斜口右斜用只開除右斜用の縮なり。盤南二所の界の斜口今割盤法引渡り斜界彼斜面、求程廣程二所の縮なり。其盤北乃斜口を開除の間數廿五間、量合此斜口を一夾、夾之。其矩ハゆく。盤南二三の間ハ斜界を量るハ五分の四なり。此五間の矩を五分と五分の四ハ九間なり。即二二の間の廣程廿間と知るなり。又其矩ハゆく。盤南二三の間乃斜界を量るハ一夾五分の一なり。一夾ハ九五間五都合三十間也。即二二三の間の廣程廿間と知るなり。

四知一開方

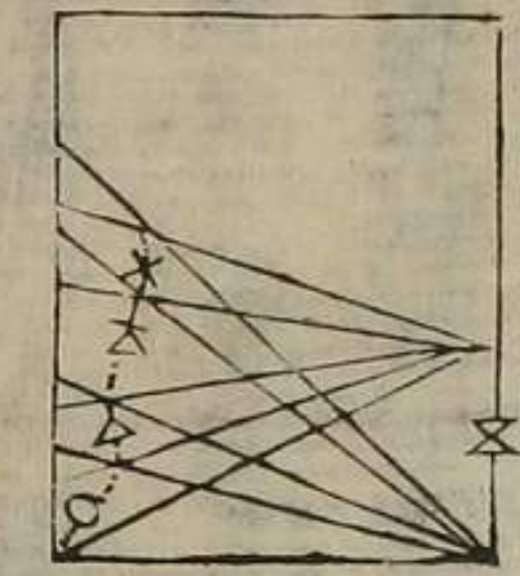
此術ゆまは妨障ある場所より。彼所の廣狹數箇取を一術みく量る不用也。其法大畧前術兩知一をゆて推知とる。今開して四取の斜廣ハ量る作法ハ記すとすべし。此理ハ棟とさハ幾巨多乃屈曲宛轉ハ量る。其事同ト

カガベ 五取七取と云々。其術ハお供

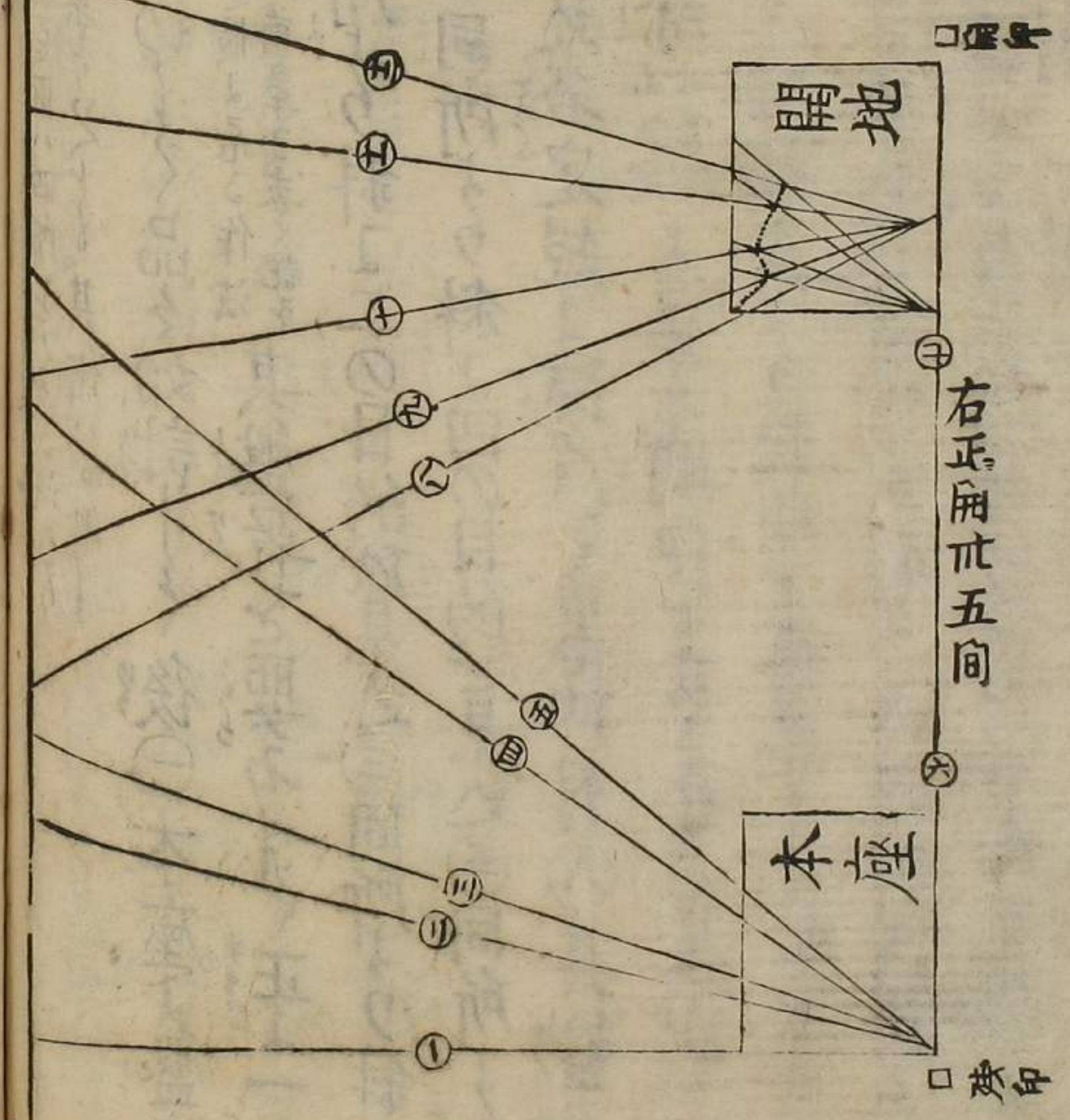
術云下ノ図作法の品々始計後一、本座ハ盤ハ横方正居盤を横ハ居る作法。其盤乾を要み正一の目的ハ見込二同所より斜二の目的ハ見込三同所より斜三の目的ハ見込四同所より斜四の目的ハ見込五同所より斜五の目的ハ見込各定規隨ハく墨ハ引六其盤南より右方正開除右正角を求め開印を立是と見通。本座ハ殘印ハ立七開地七より殘印を再見して盤を方正極ハ其盤西より盤良ハ會八して斜二の目的ハ見返九今一の目的ハ見返十盤西の墨の端を要して斜二の目的ハ見返十同所より斜三の目的ハ見返十一同所より斜四の目的ハ見返十二同所より斜五の目的ハ見返各



大成之圖



又右正廂正五間ノ縮口ナリ
 ○ハ二ノ廣北間ノ縮口ナリ
 △ハ三ノ廣十五間ノ縮口也
 △ハ三ノ廣北間ノ縮口ナリ
 △ハ四ノ廣十間ノ縮口ナリ
 ×ハ四五ノ廣十間ノ縮口ナリ
 其量法巨細ハ本文ニシルヌ
 勘合スヘシ



定規ヲ隨ク二引界一初割盤法ハ五所見込の墨と
五取見返の墨と其會ハ會ハ悉く界引渡ハ一三の間二三の間
界と引是彼面銘々の廣ハ然ハ盤面大成と
三四の間四五の間

今現ハ所の盤西の正口ハ開除ハ右正開
斜界ハ引ハ界なり彼斜面四所の廣程なり其盤西乃正口ハ
開除の間數ハ五間ハ量合ハ矩ハとハ事ハ左ハ一夾ハ一夾ハ五間の
今此正口を七夾ハ夾ハ五間の矩ハと名ハなり其矩ハ開除ハ五間を七夾ハ
をのハ二二の間の界引量ハ四夾ハ即其廣程ハ廿間なり
二三の間ハ界引量ハ三夾ハ即其廣程ハ十五間なり三四

の間ハ界を量ハ四夾あり即其廣程ハ二十間なり四五間ハ
界を量ハ二夾あり即其廣程ハ十間なり爰ハ於ハ四所ハ
廣程各自ハ小ハ二ハ三ハ四ハなり

量盤術高深法
量深二術方
此術ハ山上小居ハ谷心の深程ハ量ハ城樓小登ハ郭外乃
早程ハ知り或ハ山河ハ棧橋と渡ハ或ハ磯岸ハ井櫻を
上ハ等に用也今其谷心の直立ハ量ハ作法ハをの
爰ハ書ハ餘ハ是ハ小倣ハ知ハべハ此術ハ初ハ遠道術を
後ハ又其座ハ高深術を勤ハ前後二術をハ
其深程の全軌を量ハ知ハるハ審ハ術中ハ記ハを

量深二術方

此術ハ山上小居ハ谷心の深程ハ量ハ城樓小登ハ郭外乃
早程ハ知り或ハ山河ハ棧橋と渡ハ或ハ磯岸ハ井櫻を
上ハ等に用也今其谷心の直立ハ量ハ作法ハをの
爰ハ書ハ餘ハ是ハ小倣ハ知ハべハ此術ハ初ハ遠道術を
後ハ又其座ハ高深術を勤ハ前後二術をハ
其深程の全軌を量ハ知ハるハ審ハ術中ハ記ハを

術云ハ取ハ目ハ本座ハ初目的下の遠道術をのめ
目的下の遠道術ハ盤の彼ハ下ハ此ハと上ハ遠道ハ谷心の目的ハ
量ハるハ其ハ事ハ別ハ記ハ爰ハ其作法ハと不載ハ谷心の目的ハ
空徑ハ地形の事ハ指ハ度ハの間數ハ量ハ八十丈ハり是ハ
そて本術の種ハと右ハ所ハ空徑ハ量ハりて間數ハと得ハるハ法ハりて
後ハ初作法のハ本座ハ勤ハ座ハと即用ハ也ハ盤ハと直立ハ居

後ハ初作法のハ本座ハ勤ハ座ハと即用ハ也ハ盤ハと直立ハ居
此本座ハ目的下の術と
勤ハ座ハと即用ハ也

今現取の三ハ求程の深程の縮なり。四ハ地徑本座と目的の直徑なり。五ハ空徑本座と目的の斜徑なり。其五と種の為目的下の術中量置る。空徑の間數八十間量合盤中の斜の墨とハ夾の交十間の矩とを勿論此斜墨ハ一夾ハ亦ハ夾ハ其矩斜の墨とハ夾ハをりて彼三ハ量置る。五夾七分より。一夾ハ十間より。七分より。七分ハ七間より。五夾七分ハ即五十七間なり。是末程立深程五十の間數より。或ハ其矩より。四ハ量置ハ地徑の遠程なり。其矩より。五ハ量置ハ空徑の遠程と知べし。

量深一術方

此術もゆる前術量深二術方小ぶと。但其用ハ一なりとすども。其法ハ異なり。前術ハ二術遠近術より量り。此術ハ一術ハつと多く知るなり。其大畧遠近術の前後開は准教と下。猶術中ハ巨細ハ記と照らし考べし。

術云 下ハ因と云。品々作法ハ始計と後一本座ハ盤立

直立一居盤の居ヤ 前のごとく 定規ハ針と刺盤良ハ要あり斜ハ谷心の

目的と見込墨引良地ハ之ハ正ハ後 間數と定る

立三開地ハ迂其印を再見して盤ハ方正極四と其

盤良ハ要あり谷心の目的ハ見込墨引然と持ハ三四五

の形と別ハ差一口現と盤面大成と

今現取所の三直立より上を号く。此縮口實ハ差口と合し。谷心の

甚り敷金より故ハ。差口ハ有ひ。求程の縮なり。五ハ假借より。四

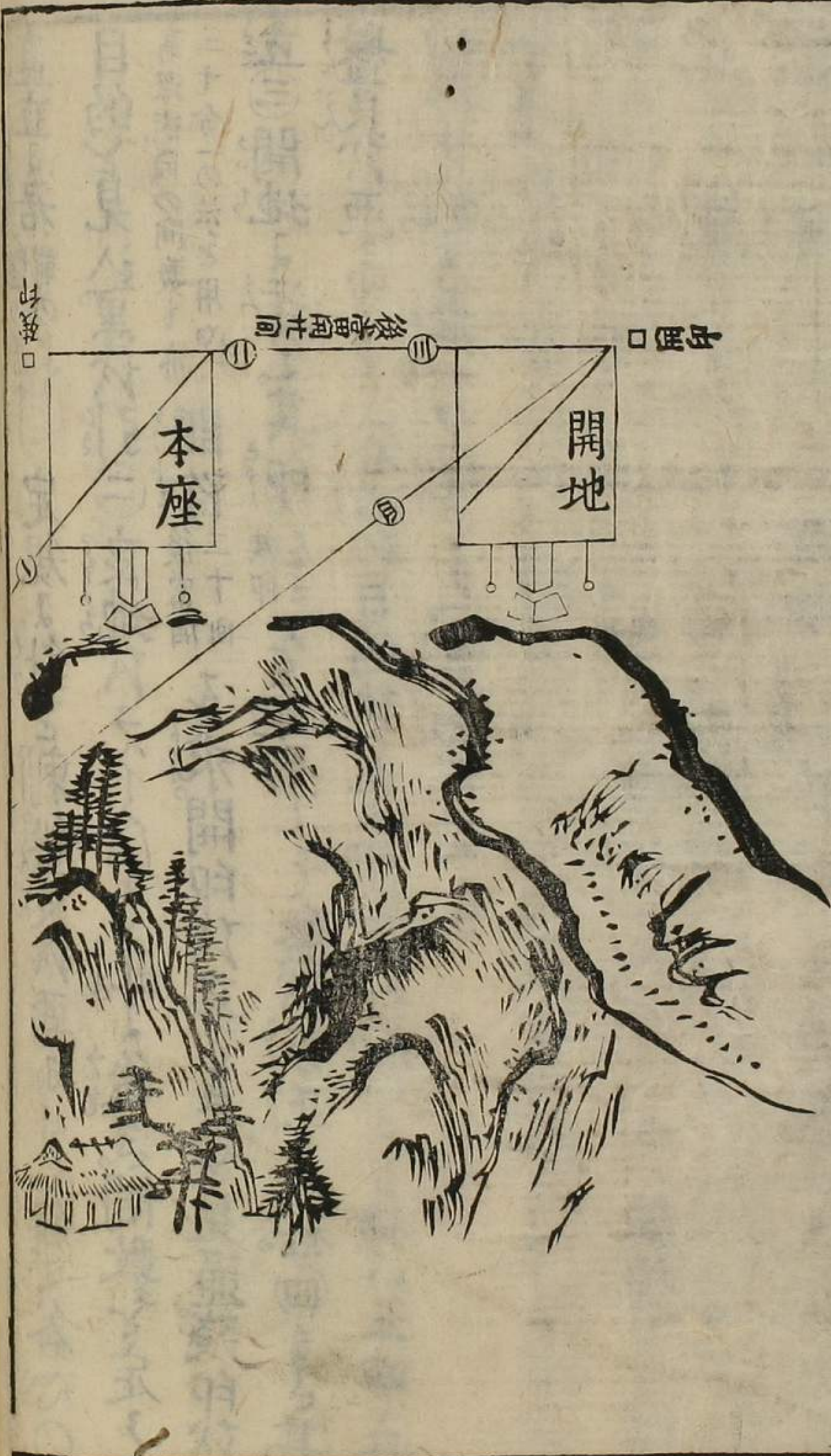
とまハ假借と。然と本理と。還て其術敷金より。今畧を

假借と。差ハ下を号く。開除後當用の縮なり。其差口ハ開除乃

間數二十間量合。差口と一夾ハ交る。其矩と。彼三本法ハ扱時ハ

求程の間數より。然と。其法敷金より故。を量置る。二夾半より。

一変ハ北向ウリ 二変半ハ即五十間ナリ。是求程深谷心直立の間敷
半変ハ十回ウリ 或ハ其矩をカク四を量まハ本座より谷心まド地徑の遠程ウリ。
チリ 其矩をカク五を量まハ本座より谷心まド空徑の遠程と知ベシ。



大成之圖

開地

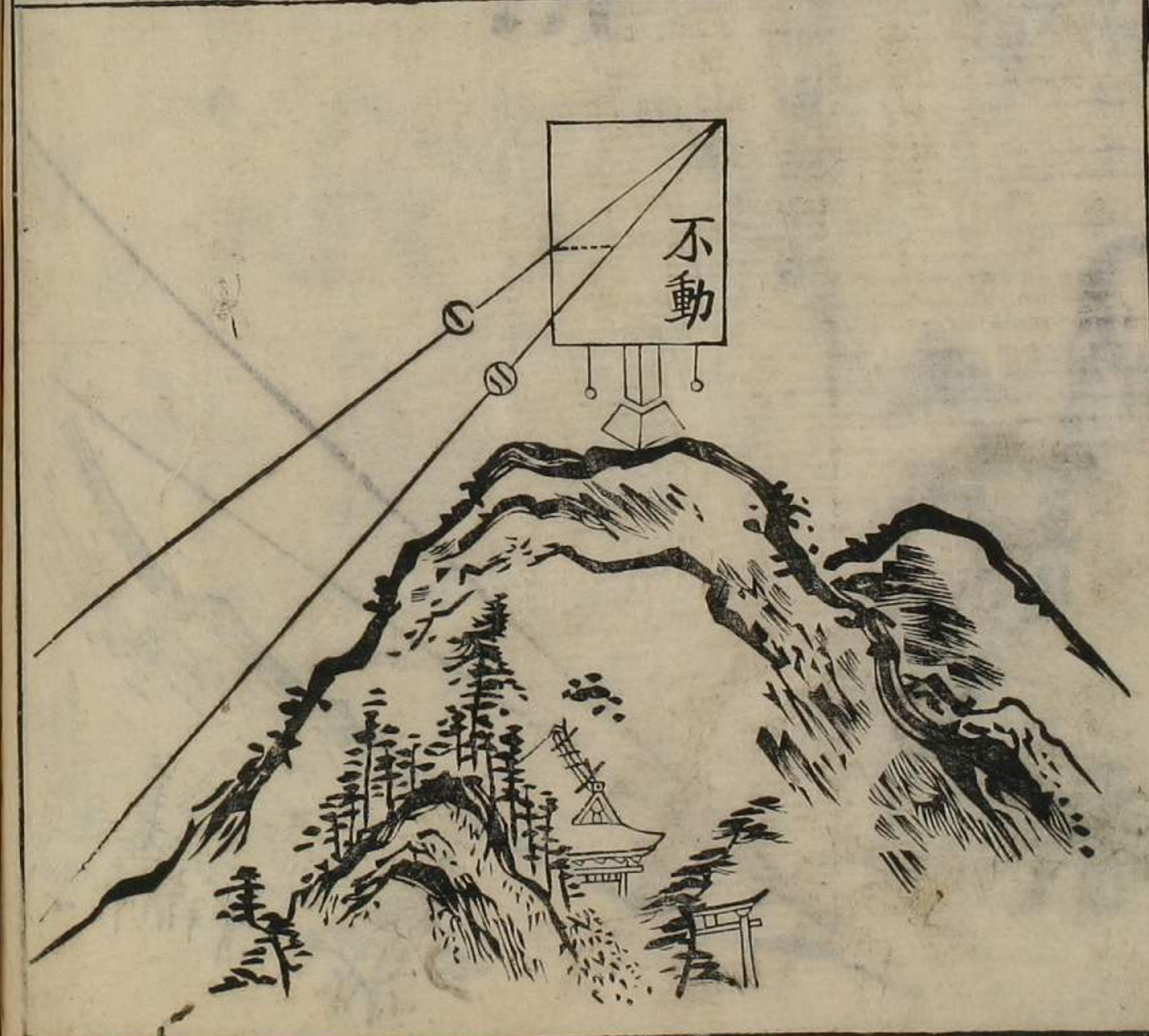
△ハ差也兩除二十間ノ縮ナリ
○ハ三也求程五十間ノ縮ナリ
×ヲ以テ○ヲ量ルハ其求程アラワル
△ハ四也假借ノ縮ナリ實ハ地徑也
△ハ五也假借ノ縮ナリ實ハ斜徑也
×ハ新五也假借也大成ノ後ハ無用ノ縮ナリ

求程五十間



谷心量廣方

此術は岑峰小居て
 山間の谷幅を量り
 樓上より城外の堀
 幅次知る等も用也
 高低高低取より
 低さ地の廣程を
 量る術なり。今爰に
 谷幅の廣程を知
 作法を左に記す。其
 餘は是に准じて知
 べし。



を二度動す。彼此の禁下より遠程を量り
 知り。次に其取より高深術をばくせん
 其全体を量知るなり。前後
 三術をゆり大成せしむ。

術云 下の遠近術 目的下の作法別章
 下の遠近術 目的下の作法別章

彼山に禁へ見込空徑を量る其間
 數七十間と知る中又同術をよて

此山に禁へ見込空徑を量る小其
 間數五十五間と知る禁下も其一方の

空徑を量る。量りも其術同事なりとす。未
 熟の人の為。彼此を量りて知べき法を述

此彼此の空徑を量る本術の種とす。

是を以て本座より彼山此山。兩禁下より空徑
 を量る別術なり。尤本術より故に
 其圖其辭を畧す。後扱は是より高深術
 して爰に不記。

大成之圖



△彼禁へ空徑七十間ノ縮也
 ×此禁へ空徑五十五間ノ縮也
 ○ハ未程、地徑二十間ノ縮也
 其△×ヲ量リタル矩ヲ以テ
 ○ヲ量ル時ハ自ら得ヘシ



尺一十寸

此本座ハ。審初ニ遠近術を。小盤以直立ニ居。前ノおハ。定規ニ

針を刺盤良以要小して斜ニ彼山の禁を見込墨以引(界)扱盤法以之

を要小して斜ニ此山の麓を見込墨以引(界)扱盤法以之。空徑乃

間數七十間。種ノ為小家初。量置合。交ミ十間の矩。其矩を以之。

此山の麓を見込墨を目的下の術少く量置する空徑の

間數五十五間。是初量置する。を量取。此山林へ見込の墨を上より

削捨く不用なり。此墨の量留。此の見込の墨五十五間。より彼墨乃留

彼の見込の墨の終り。まゝく界を正横ニ引渡し。盤面大成と

今現於所の彼の墨、彼山の禁、まゝく空徑七十の縮なり。此の

墨、此山の禁、まゝく空徑五十の縮なり。今引渡し、正横の

界、求程山間谷心のの縮なり。其空徑を量する矩を以之。此

正横の界、量する小二交り。一交十間。二交ハ即二十間ナリ。

是求程山間谷心のの間數なり。

量高二術方

此術ハ平地小處。大山高岳より以下城樓宮室、内ハ

堂塔樹竹等。まゝく高程以量る小用也。今其山岳直立

の高程以量る作法以之。爰小書を。其他ハ推知す。

此術ハ。初ニ遠近術を以之。其空徑を量り。後ニ其六座

術云。下ニ因て。本座より(初)目的上ノ遠近術以之。山頂の目的

目的上の遠近術と云。盤の彼を上げ此以下を遠近と。山頂の目的

量る。猶ハ。別卷ニ記す。故ニ爰ニ其作法を不贅。空徑遠程を以之。前後數之。の間數以量る。百丈たり。是以之。以て

定規^{じやうぎ}針^{はり}を刺^さ盤^{ばん}東^{とう}を^を會^あふ^はて^て盤^{ばん}東^{とう}より斜^{しや}に山^{やま}頂^{のうへ}の目的^{のこころ}の^の見^み込^こみ^を定^{じやうぎ}規^ぎに^を隨^{したが}ひ^てく^を墨^{すずり}と^を引^ひく^を然^{しか}ら^ずとも^に比^ひは^らせ^て三^{さん}四^し五^ご乃^を盤^{ばん}東^{とう}を^を三^{さん}と^をし^て盤^{ばん}北^{きた}を^を四^しと^をし^て斜^{しや}の^の墨^{すずり}は^は五^ごと^をし^て平^{へい}陸^{りく}術^{じゆつ}と^をし^てハ^ハか^から^ずど^も見^み込^こみ^をハ^ハ四^しと^をし^てハ^ハ山^{やま}谷^{のやま}術^{のやま}と^をし^てハ^ハ何^{なに}時^{とき}も^も見^み込^こみ^をハ^ハ五^ごと^をし^て成^なら^ずり^に山^{やま}谷^{のやま}術^{のやま}の^の見^み込^こみ^をハ^ハ平^{へい}陸^{りく}術^{じゆつ}の^の見^み返^{かへ}の^のこ^{ころ}を^をし^てハ^ハ形^{かたち}現^{あら}わ^せる^を盤^{ばん}面^{めん}大^{だい}成^{じやう}と^を今^{いま}現^{あら}わ^せる^を所^{ところ}の^の三^{さん}ハ^ハ求^{もと}め^る程^{ほど}の^の山^{やま}心^{こころ}直^{ただ}立^たの^の高^{たか}程^{ほど}の^の縮^{ちぢ}み^をハ^ハ四^しハ^ハ地^ちの^の縮^{ちぢ}み^をハ^ハ本^{ほん}座^ざより^{より}目^め的^{てき}の^の遠^{とほ}く^をの^の縮^{ちぢ}み^をハ^ハ地^ち中^{ちゆう}直^{ただ}徑^{けい}の^の遠^{とほ}く^をの^の縮^{ちぢ}み^を

大成之圖

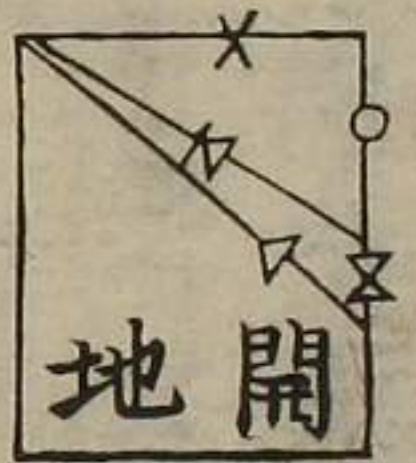


○ハ三也求程五十間ノ縮也
 △ハ四也兩山間地徑ノ縮也
 ×ハ五也彼此同空徑ノ縮也
 ×ヲ初ニ量置タル空徑ノ同數百丈ニ量リ合其矩ヲ以テ○ヲ量リ求程ノ同數ヲ得ル也猶本文ニ委シ

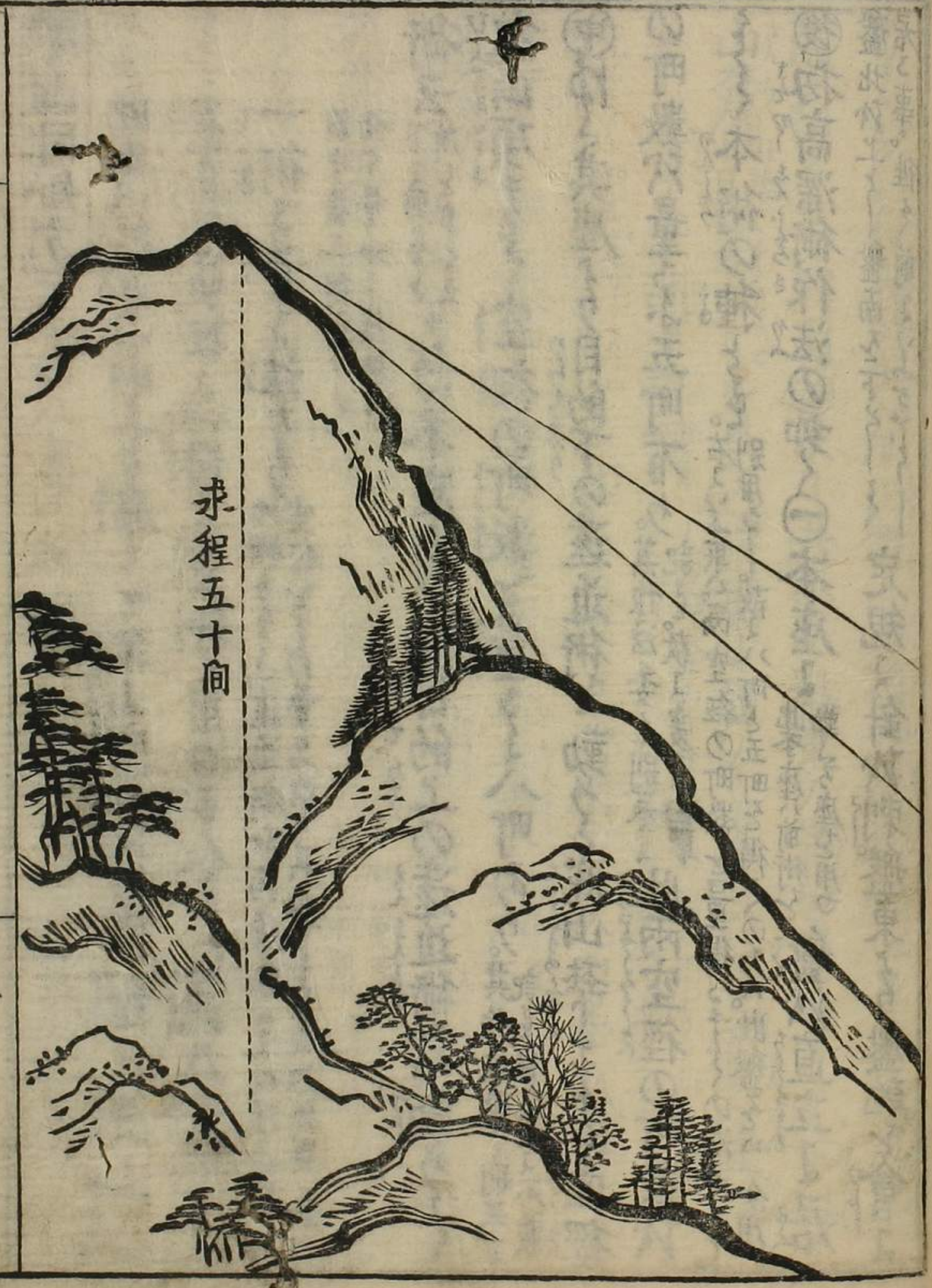
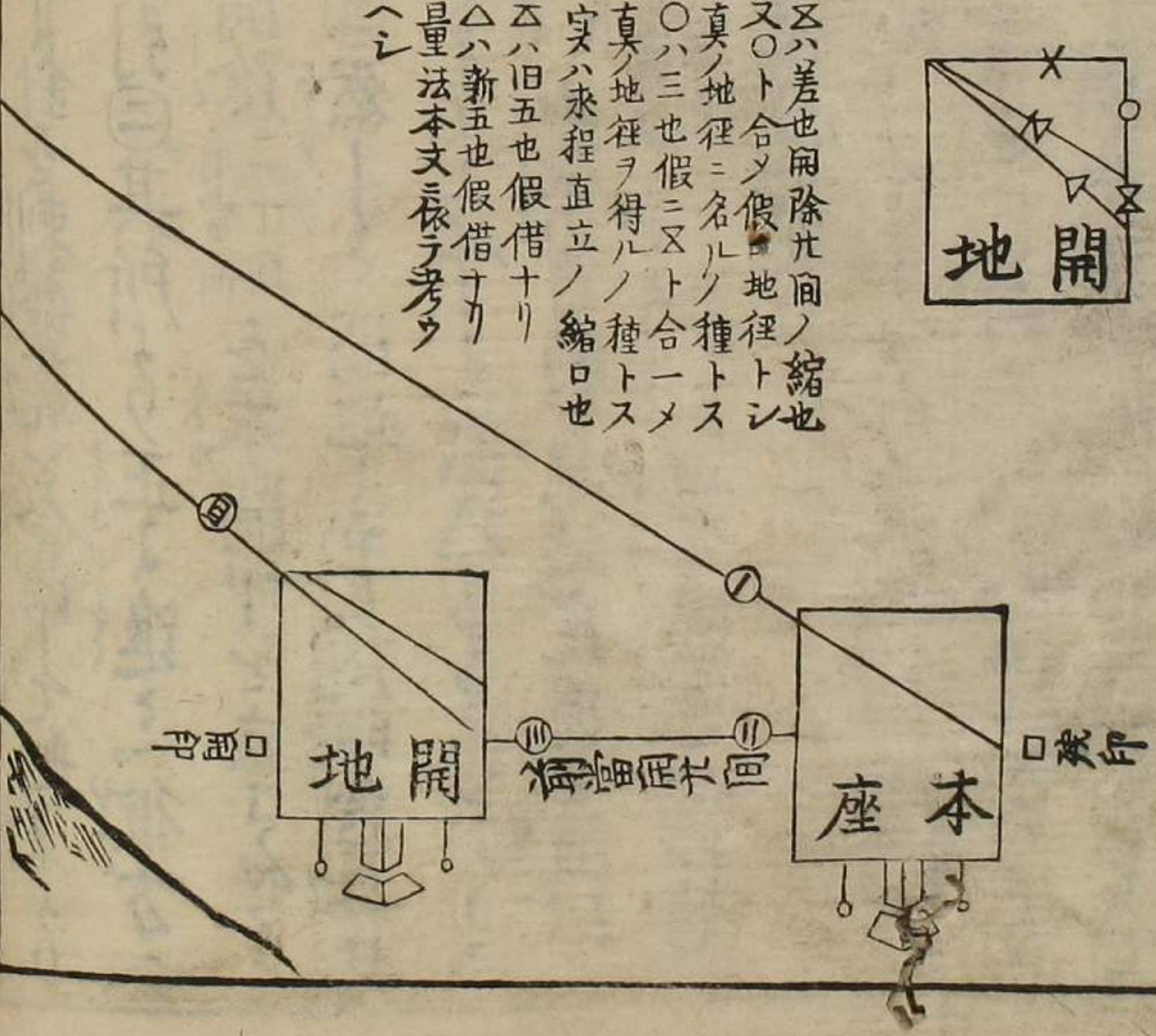


たり。其上、差口乃二十間を
 加き、都合八十間なり。是
 真の地徑、盤四を指す、辨るま
 種なり。初新、矩法を以て、
 始、二と差と、分ちて、二と矩をハ
 不用して、今、三と四、量る為、別、
 矩法、四を地徑の八十間小
 量る。新、一、渾、分、分、分、分、此、四、分、
 八、交、一、交、一、十、向、の、矩、と、名、く、
 其、矩、少、く、再、度、三、と、量、る、
 三、ハ、初、度、後、度、二、度、量、る、ら、り、初、小、ハ、
 差、口、と、合、して、假、の、地、徑、八、十、間、一、用、ひ、
 交、少、く、ハ、求、程、の、
 間、數、一、用、ら、り、五、交、有、り、一、交、十、間、
 五、交、ハ、即、五、十、間、な、り、是、求、程、
 山、心、直、立、の、
 高、程、五、十、間、の、間、數、な、り、

大成之圖



又、ハ、差、也、兩、除、此、向、ノ、縮、也、
 又、〇、ト、合、ノ、假、ノ、地、徑、ト、シ、
 真、ノ、地、徑、ニ、名、ル、ク、種、ト、ス、
 〇、ハ、三、也、假、ニ、ハ、ト、合、一、メ、
 真、ノ、地、徑、ヲ、得、ル、ノ、種、ト、ス、
 實、ハ、求、程、直、立、ノ、縮、口、也、
 〇、ハ、旧、五、也、假、借、ナ、リ、
 〇、ハ、新、五、也、假、借、ナ、リ、
 量、法、本、文、長、ヲ、考、フ、
 へ、



兩山同知方

此術、此方の山上、一處して、彼山心直立、乃高程と。此山心直立の高程と、同一量知、用也。とて、彼此、乃高下、一術、量る法なり。此術、ゆき、遠近術、其座、勤り、山頂、空徑、を、量り、次、其座、より、高深術、を、勤り、前中後、三術、を、用り、全く、量、知、る、法、なり。

術云、下、一、回、ま、る、ま、り、本座、より、初、目的、上、の、遠近術、を、勤り、

山頂、より、空徑、の、町數、を、量り、八町、あり。其、作法、委、く、別、卷、に、記、す、故、に、差、し、不、載、

申、ゆ、其座、より、目的、下、の、遠近術、を、勤り、此山、禁、より、空徑、

の、町數、を、量り、五町、有、り。其、作法、委、く、別、卷、に、記、す、故、に、差、し、不、載、此、兩、空徑、の、町數、

本術、の、種、と、も、右、一、回、ま、る、ま、り、取、り、兩、空徑、の、町數、を、量、得、る、法、を、用、り、別、用、す、故、に、八、町、と、五、町、を、得、る、の、ち、此、盤、を、不、用、

後、此、座、前、術、を、勤、る、座、を、用、也、盤、直、立、居、盤、北、外、上、と、一、盤、南、を、下、と、し、一、定、規、針、以、刺、盤、東、より、盤、乾、を、會、し、居、る、事、往、々、前、に、い、は、れ、

隨、ひ、く、墨、引、三、次、其、墨、の、盤、東、の、端、を、要、し、下、斜、

山麓、山、林、下、に、目、的、右、を、見、込、定、規、隨、ひ、く、墨、を、引、界、割、盤、法、

新、分、間、の、矩、此、矩、ハ、一、回、ま、る、ま、り、取、り、一、町、の、矩、と、右、を、何、の、

を、設、き、其、矩、を、山頂、の、見、込、の、墨、引、目的、上、

量、置、山頂、の、空徑、八、町、量、取、山頂、見、込、の、墨、引、此、より、

又、山麓、見、込、の、墨、引、下、れ、術、を、量、置、山麓、

空徑、五町、量、取、然、し、其、殘、余、を、割、捨、す、不、用、其、八、町、の、留、

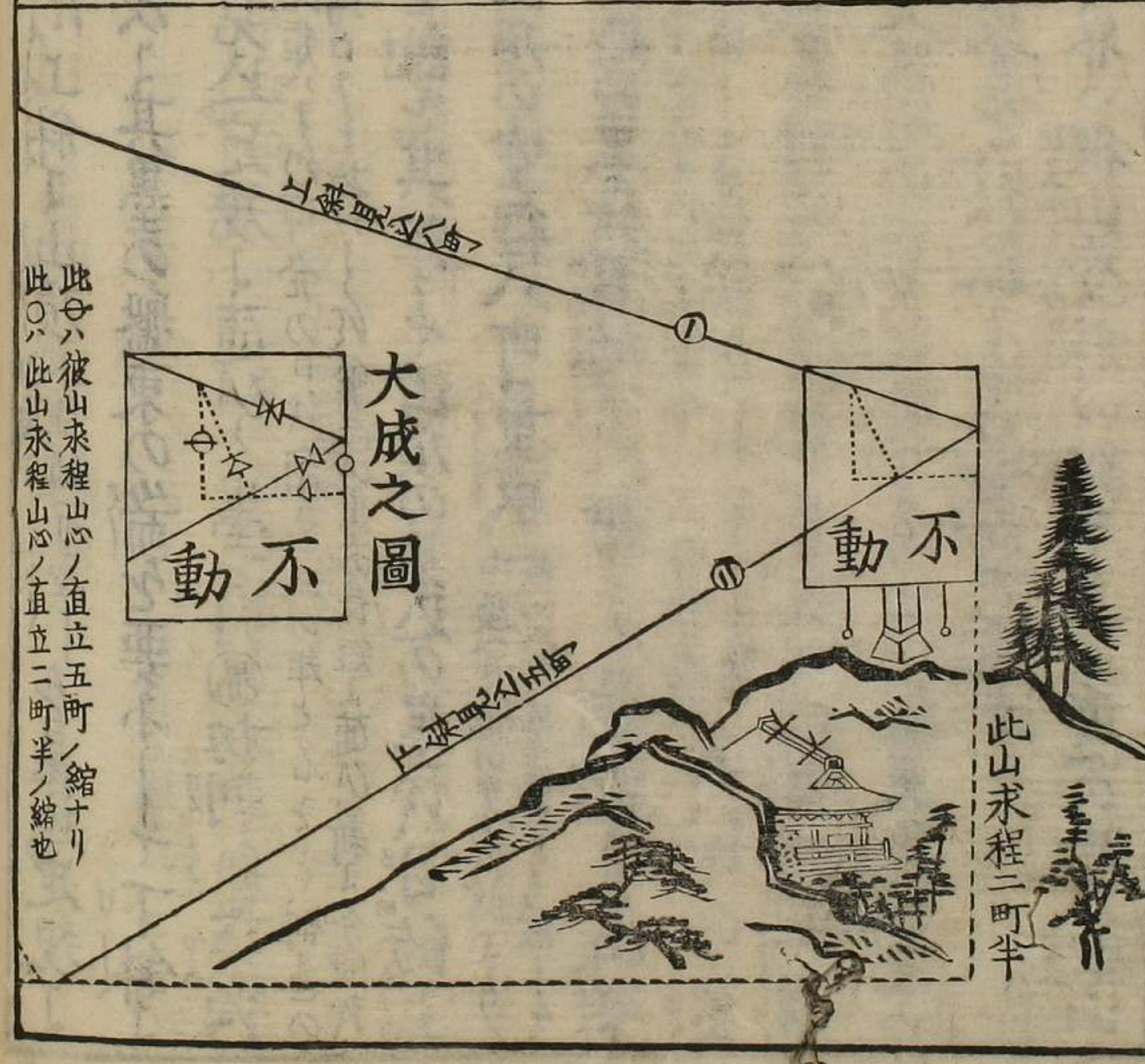
より、五町、の、留、斜、界、を、引、又、八町、の、留、より、五町、の、留、正、横、

より、正、横、界、を、引、又、五町、の、留、正、横、より、右、盤、東、の、端、左、

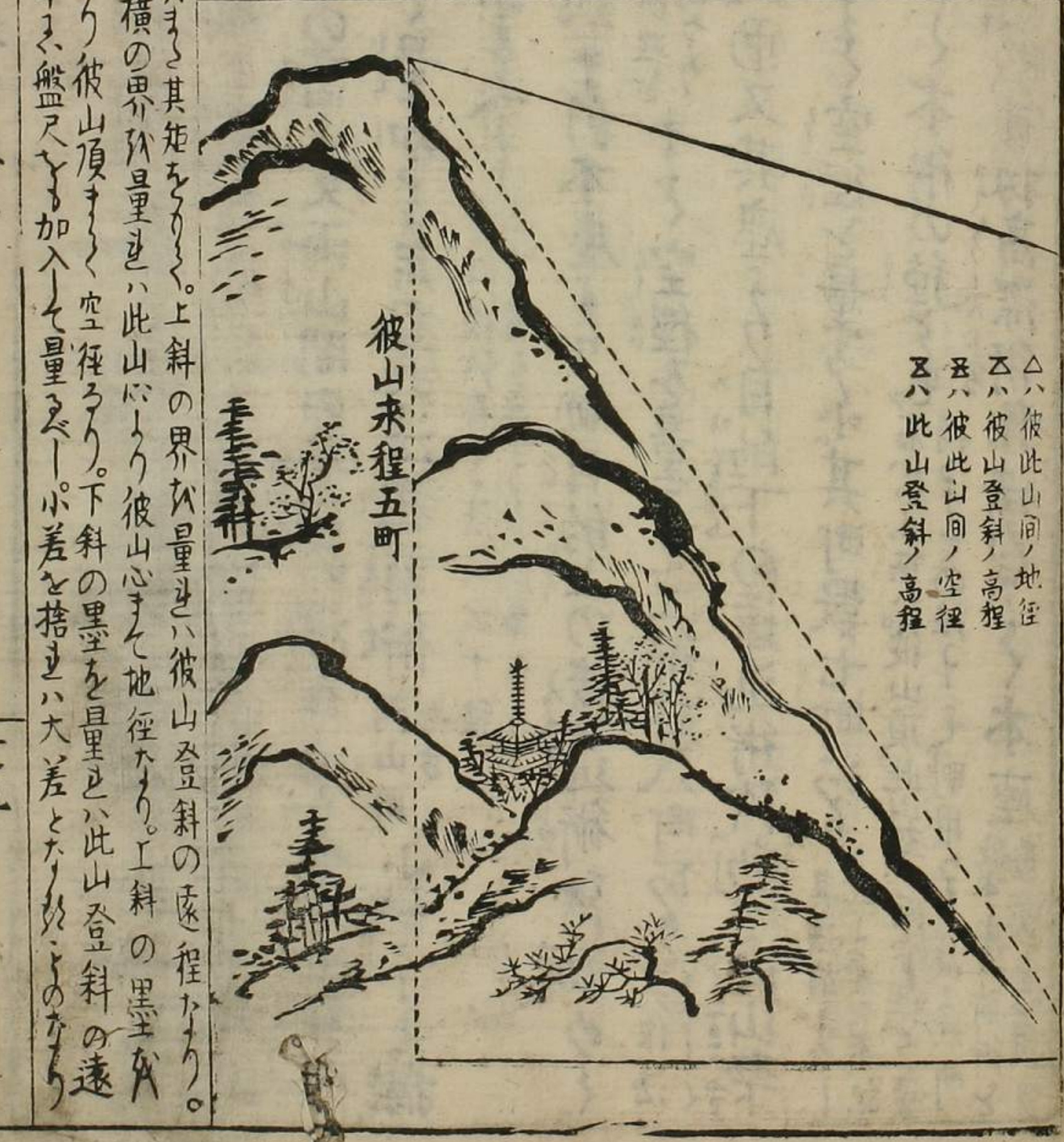
八町、の、留、正、下、界、を、引、然、し、盤、高、大、成、と

今、現、在、所、上、斜、の、界、彼、山、登、斜、の、縮、り、正、横、の、界、彼、山

永程山心直立の縮なり。
 正横の界、彼此山間
 の地徑なり。又短取立の
 墨盤東の中やと、此山
 永程短取立の墨の縮なり。
 上斜の墨、彼山空徑
 の縮なり。下斜の墨、
 此山登斜の縮なり。扱
 其上斜と下斜との墨
 を八町と五町と量取
 り、矩をゆく。正取立の
 界を量り、五夾有り。



一夾一町 五夾一
 町半なり。是
 即五町なり。是
 彼山永程彼山心
 の直立
 の町數なり。又
 其矩をゆく。短
 取立の界と量り
 二夾半なり。
 二夾半、即二
 町半なり。此
 山永程此山心
 の直立
 の町數なり。



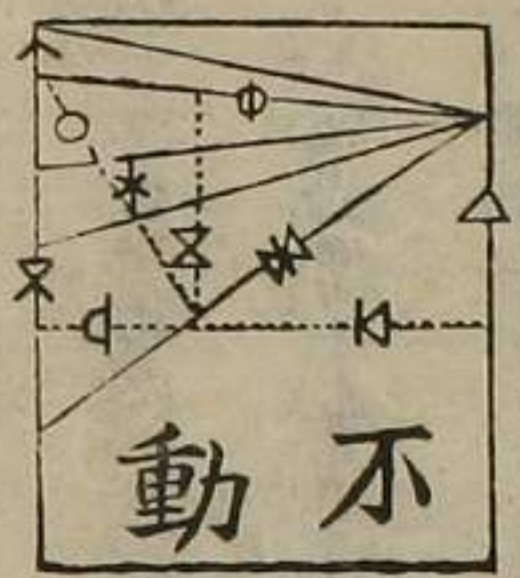
山谷數知方

此術は此山の山頂一居く。彼山の高程と。登斜と。地徑と。又此山の高程と。登斜と。地徑と。又彼山絶頂の樹の丈と。彼山半腹の堂の高と。又兩山間の谷心の深程と。とて九種唯一術をのり量知る用の其法粗前術兩山同小む。猶勤て審小とて。今九種は量る法云。十種

去下二因と云。まづ本座より初目的上の遠近術勤め。彼山頂目的と為る。まづ空徑を量る。其町數八町其作法。別卷より故。又其座より目的下の遠近術勤て此山禁其法前委。山禁其法前委。小目的有る。まづ空徑を量る。其町數七町其法前委。此兩空徑をのり本術の種と。右の山頂。此山禁下。兩空徑を量ると七町との兩徑を得。後高深術作法乃本座勤此本座前術を用

小盤直立居。盤乾を會小て盤東より一の目的以上斜小見込。定規隨ひ墨引。二三四五の目的一の目的見込。盤東の墨引を要小て段々斜見込。定規隨ひ墨引。新一矩を制作法。前術兩山同知方。記其矩少く。彼山頂の見込墨引。種乃小目的上の術少量置山頂の空徑町量合。又其矩山禁の見込の墨引種乃為小目的下の術量置。山禁の空徑七町量取量合と量取と別意。其八町の墨引乃留より其七町の量留中斜界を引。又七町の量留より天二の墨引正堅界を引。又斜の界四里の會より天三の墨引正堅界引。又七町の量留より左右へ正横小界を引。然時盤面大成と

大成之圖



⊙ 八山頂へ空徑也又八山麓へ
 空徑也三法八種ニメ假借也
 △ 八山頂ノ樹大也
 × 八彼山ノ直立也
 ○ 此山ノ直立也
 ⊖ 八彼山ノ登斜也
 ⊗ 八中谷ノ直立也
 ⊕ 八半腰ノ堂大也
 ⊙ 八此山ノ地徑也
 ⊖ 八彼山ノ地徑也
 ⊗ 八此山ノ登斜也
 ⊕ 八此山ノ登斜也
 以上九種凡ニ種子ノ
 同教ヲ量タル矩ヲ
 以テ量知ルナリ

